

令和 4 年度将来にわたって旅行者を惹きつける
地域・日本の新たなレガシー形成事業
(浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想)

報 告 書

令和 5 年 3 月
一般社団法人 沖縄しまたて協会

目 次

第1章 業務概要

1.1 業務概要	1-1
1.2 実施方針及び内容	1-2
1.3 業務工程	1-7
1.4 業務組織計画	1-8
1.5 成果物の品質を確保するための計画(ISO9001 の運用による品質管理)	1-9
1.6 成果物の内容、部数	1-9
1.7 その他	1-9

第2章 事前調査

2.1 周辺地域調査	2-1
2.2 関係法令調査	2-21

第3章 次年度以降に向けた構想案の検討・策定

3-1

第4章 実現可能性・事業性の検討

4.1 ニーズ調査及び経費試算調査	4-1
4.2 構想案の実現可能性及び事業性検討	4-22

第5章 構想案の実現に向けた計画の検討

5-1

第6章 今後の課題

6-1

第7章 協議会の開催

7.1 目的	7-1
7.2 検討協議会構成委員名簿	7-1
7.3 検討協議会開催結果	7-2

第 1 章 業務概要

1.1 業務概要

1.1.1 業務の目的

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、人々の行動様式・生活様式・働き方が変化中、ポストコロナを見据え、地域がしっかりと新たに関心の高まっているニーズの取り込み、持続的に観光地経営を実現できるようにしていく必要がある。

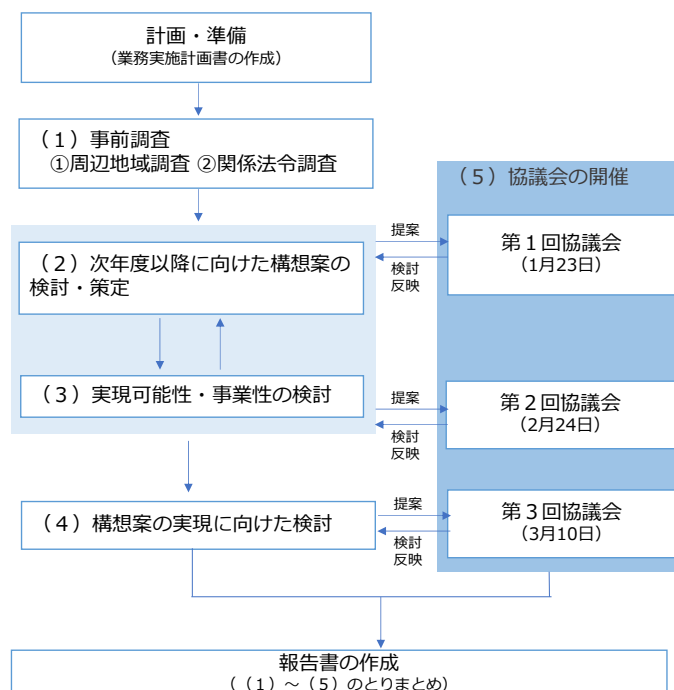
持続的な観光地経営の実現を図るためには、将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながるよう、地域・日本のレガシーとなる観光資源を形成することが重要である。

こうした地域のレガシー形成には中長期的な事業実施が必要であり、令和4年度においては、浦添市を対象に、レガシー形成に向けた実現可能性調査や構想案の検討、計画作成を実施する。

1.1.2 業務概要

- | | |
|-----------|---|
| (1) 業務の名称 | 令和4年度将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業(浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想) |
| (2) 業務の内容 | 沖縄県浦添市における、「浦添グスクを中心とした『古都浦添』ブランディング構想」(以下、「構想」という。)をレガシー形成候補とし、事業を実施する。構想内容について、浦添グスクを中心とした日本遺産群を繋ぐ歴史散策路の整備を暫定的な目標とし、本事業で収集した情報を元に、レガシー形成に必要な要素や今後再現すべき資源等を検討し、あらためて本事業内で具体的な構想について検討する。 |
| (3) 履行場所 | 浦添市内 |
| (4) 工期 | 自 令和4年 10月 3日
至 令和5年 3月 15日 |
| (5) 契約金額 | ¥9,515,000.-
(消費税額 ¥865,000.-を含む) |

1.1.3 業務の流れ



1.2 実施方針及び内容

1.2.1 計画・準備

業務目的、趣旨を把握するとともに、業務内容を確認し、業務計画書を作成した。作成にあたっては、業務担当者全員で、業務全体の手順、内容について検討し業務内容を十分に把握するとともに、地域に精通している専門家の意見を業務計画書に反映させ、業務計画書を作成した。

1.2.2 事前調査

(1) 周辺地域調査

浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想案作成の検討にあたり、他の地域にはないその地域ならではの独自の強み・ウリの把握、当該事業の位置付け、既往検討状況等を踏まえた今後の見通しの把握をすることを目的に、下記に示す項目及び方法により業務を実施した。

1) 基本的な情報の収集・整理及び体系的な調査整理

下記表に示す浦添市の各種計画等を収集し、浦添グスク周辺地域における、①土地利用の現状と課題、②歴史、③位置付けや各種計画の進捗状況を体系的に調査・整理した。また、情報の収集・整理にあたり、資料等で把握できない場合は、補完調査として関係各課、協議会等へヒアリングを行った。

収集する各種計画等	発行	基本情報
第5次浦添市総合計画基本構想（R3.3）	企画部企画課	③
浦添市都市計画マスタープラン（H25.1）	都市建設部都市計画課	①、③
浦添市景観まちづくり計画（R4.3）	都市建設部美らまち推進課	①、③
浦添市観光振興計画（H30.3）	経済観光局観光振興課	③
史跡中頭方西海道及び普天間参詣道保存活用計画（R3.3）	浦添市教育委員会	①、②、③
日本遺産認定「琉球王国の礎を築いた王都・浦添」（R1.5）	文化庁	②、③

2) 地域資源の洗い出し

上記1)を踏まえ、ブランディングできそうな地域資源（自然景観、歴史文化、生活面）等の洗い出しを行うため、ヒト・モノ・コトの活用視点による体系的な調査・整理を行った。

資源	資源の内容	観光まちづくり
人材	人（観光・産業・教育、ガイド等）、地域人材	ヒト（ガイド）
歴史・文化	歴史的風土における日本遺産群（史跡・食・芸能）、伝統文化、行祭事、イベント、生活文化（※地域）	コト（周遊、イベント）
地場産業	地域をベースにした伝統技術、特産品	モノ（オリジナルブランド）
自然・環境	地域をシンボライズする自然・歴史的風致景観、コミュニティ・生活環境（学校）、まちづくりルール	モノ（PR・発信）
活動	地域の食体験やショッピング等、民泊（空き家活用）	コト/モノ/ヒト（サービスの提供）
拠点施設等	交通拠点、観光交流拠点、歴史・文化拠点、宿泊施設等（※地域）	モノ（サービス）

(2) 関係法令調査

1) 古都指定要件の調査

古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法において、「古都」として指定されるための要件を調査し、浦添市がその指定を受けることが可能かどうかを検討した。

古都指定都市	指定年月日	
京都市、奈良市、鎌倉市	昭和 41 年 1 月 13 日	法指定
天理市、橿原市、桜井市、斑鳩町、明日香村	昭和 41 年 7 月 4 日	政令指定
逗子市	平成 12 年 1 月 19 日	政令指定
大津市	平成 15 年 10 月 10 日	政令指定
合計10都市（うち政令指定 7 都市）		

※指定基準

- ・ 古都の要件（政治・文化の中心性）
- ・ 歴史的風土の形成状況、
- ・ 開発圧力の要件

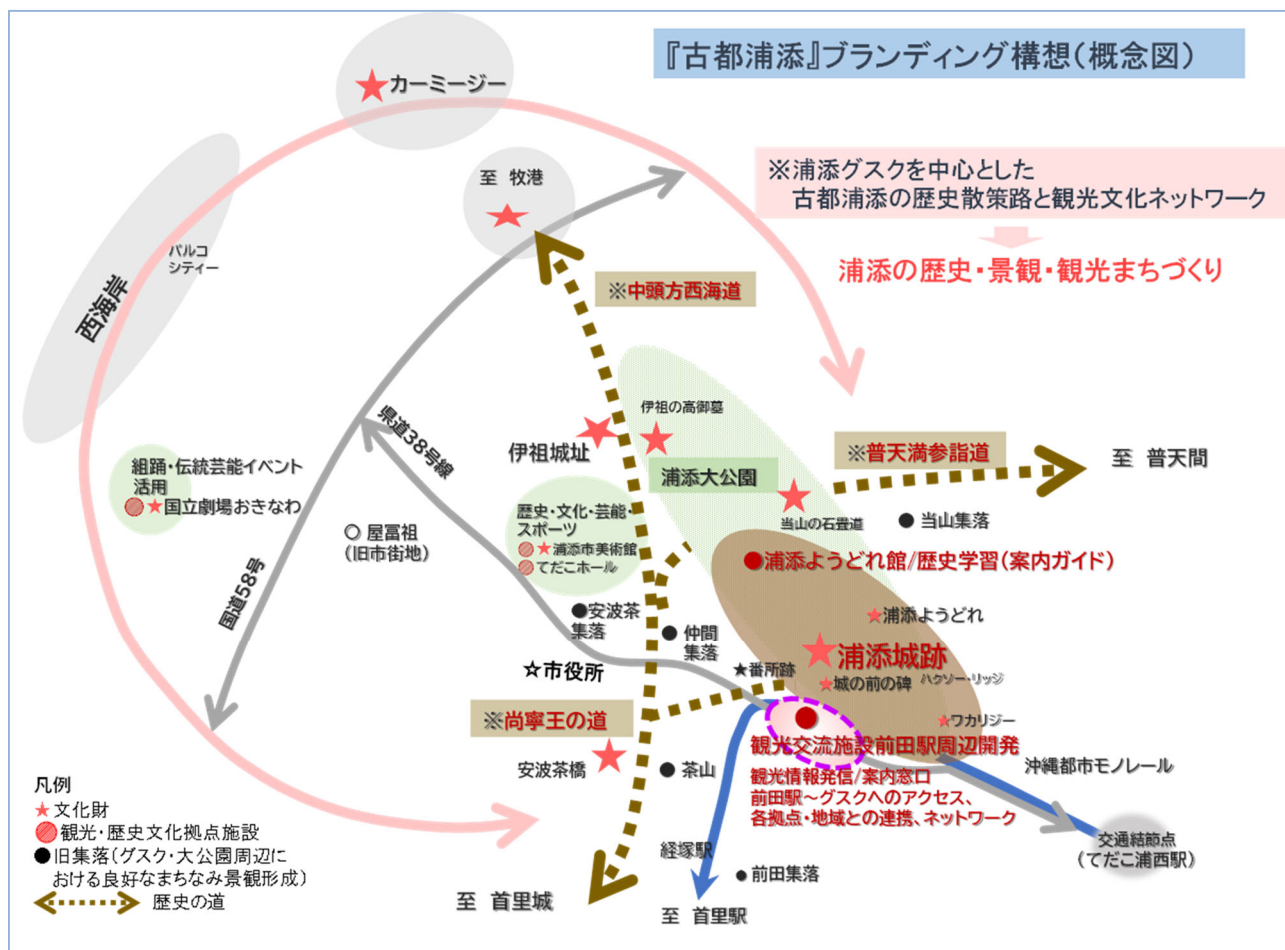
2) 古都として必要な要素・今後再現すべき資源等の調査・検討

(1) 周辺地域調査で整理したブランディングできそうな地域資源をベースに、古都らしさに向けて必要な要素や今後再現すべき資源等を調査・検討を行った（協議会等へのヒアリング等補完調査の実施）。

併せて、浦添グスク周辺地域の開発にあたり支障事項等がないか、関係法令や浦添市における各種条例を調査した。

1.2.3 次年度以降に向けた構想案の検討・策定

基礎調査等で収集した情報を元に、検討協議会において、構想の具体的な内容を検討し、案を作成した。作成した構想案については、実現可能性・事業性の検討結果を踏まえ、検討協議会で検討した上で適宜追記・修正等を行った。



(具体的な内容の検討)

【ブランディング構想の具体的な内容の検討の視点】

- 事前調査結果を踏まえたブランド戦略の検討（ブランディング構想の方向性・留意点）
→ ターゲットの設定／差別化できるポイントの特定と独自性の認識・共有／PR手法
- ブランド戦略で設定したターゲットのニーズに基づいたブランディングを実施
→ 「古都浦添」ブランディング構想（概念図）の精査（見直し等検討）
- **実現可能性・事業性の検討反映**（※検討内容は次ページ1.2.4に記載）
→ ブランド戦略へ反映
→ 「古都浦添」ブランディング構想（概念図）の精査（見直し等検討）
- 構想案を検討協議会へ提案→検討協議会結果を踏まえた構想案の適宜追記・修正

次年度に向けた『古都浦添』ブランディング構想案の策定

1.2.4 実現可能性・事業性の検討

実現可能性・事業性の検討を実施するにあたり、検討協議会との連携をはかりながら下記に示すような手法で調査・検討を行った。また、調査結果は「1.2.2 次年度以降に向けた構想案の検討・策定」で作成する構想案に反映させ構想案の見直し検討に資する資料とした。なお、下記に提案している調査・検討の他、協議会から追加意見があった際は、柔軟に対応した。

周遊・散策	
経費試算調査	先行して事業を実施している自治体や事業者へヒアリング調査を実施 ・地域公共交通関連施策⇒浦添市都市計画課、バス・タクシー事業者 ・レンタサイクル（サイクルポスト）⇒浦添市都市計画課 ・EV車などの小型モビリティ⇒北谷町チャタモビ合同会社 ・人力車⇒京都嵐山人力車「えびす屋」 ○ヒアリング内容：初期投資費用、維持管理費等
ニーズ調査	来訪者・Webアンケート調査 ※上記調査において選好意識調査を実施し将来のニーズを推計する。
構想案の実現可能性及び事業性検討	● 浦添グスクを核として日本遺産群をつなぐ歴史散策路の整備・活用（短・中・期）⇒那覇市（首里城）との連携も視野にいれる ● 交通モード（レンタサイクル・デマンドバス・EV車・人力車など）別に検討。 ● 最も実現性の高い構想案について検討を行う。

イベント（フォトウェディングなど）	
経費試算調査	既存のブライダル事業者へヒアリング調査を実施 ・恩納村⇒スタジオムーン（株式会社ラプラス） ・首里城⇒首里城公園管理センター 事業課 広報企画展示係 ○ヒアリング内容：初期投資費用、維持管理費等やPR料金
ニーズ調査	事業者ヒアリング（浦添市でのニーズが見込めるか） 来訪者・Webアンケート調査 上記調査において選好意識調査により将来のニーズを推計する。
構想案の実現可能性及び事業性検討	ようどれなどの古都風景をバックにフォトウェディングを企画。ウェディング以外の時期は琉装レンタルによる記念写真を実施し、訪問者の拡大について検討を行う。

イベント（バーチャル体験）

経費試算調査	既存のVR事業者ヒアリング調査を実施 ・ 今帰仁村（360°NAKIJIN MOVIE）⇒合同会社PROJECT9 ・ 首里城（首里城VRゴー）⇒株式会社キャドセンター ○ヒアリング内容：初期投資費用、維持管理費、VR、アプリ開発費用等
ニーズ調査	・ 事業者ヒアリング（浦添市でのニーズが見込めるか） ・ 来訪者・Webアンケート調査 上記調査において選好意識調査を実施し将来のニーズを推計する。
構想案の実現可能性及び事業性検討	大型VRによる古都の再現。その後、古都周遊アプリの導入（VRやアプリ内で古都のバーチャル散策体験など）により、文化、歴史の充足化について検討を行う。

イベント（飲食店と連携したスタンプラリー）

経費試算調査	市内飲食店にヒアリング調査を実施 ・ 食堂やそば屋、洋菓子店など ○ヒアリング内容：初期投資費用、維持管理費等やPR費用
ニーズ調査	・ 事業者ヒアリング（観光客のニーズが見込めるか） ・ 来訪者・Webアンケート調査 以上の調査を実施し、選好意識調査により将来のニーズを推計する。
構想案の実現可能性及び事業性検討	指定されたコースをすべて回った人には証明証（スタンプラリー）などの発行することで、観光消費額の増加について検討を行う。

宿泊・施設

経費試算調査	市内宿泊施設や空き家活用を行っている自治体や事業者ヒアリング調査を実施 ・ 宿泊施設⇒市内を中心とした宿泊施設数か所 ・ 自治体⇒浦添市都市建設部建築営繕課 ・ 自治会⇒前田自治会、仲間自治会 ○ヒアリング内容：経営状況、初期投資費用、維持管理費等やPR費用
ニーズ調査	・ 事業者ヒアリング（観光客のニーズが見込めるか） ・ 来訪者・Webアンケート調査 以上の調査を実施し、選好意識調査により将来のニーズを推計する。
構想案の実現可能性及び事業性検討	周辺（仲間、安波茶、伊祖、前田、経塚など）の民泊や空き家を有効活用（ホテル、レストラン、土産、カフェ）することで、宿泊需要の増加について検討を行う。

1.2.5 構想案の実現に向けた計画の検討

構想案の実現（計画検討）にむけて、関係する部局や地域との連携体制（役割分担）を踏まえつつ、スケジュール（短・中期）および取り組み内容等について、検討協議会で検討した。

1.2.6 協議会の開催

検討協議会の目的や、構想案検討にあたっての課題（視点）を明確にして取り組む必要があるため、事前調査の段階で検討協議会メンバーへのヒアリング等補完調査を実施し、早めに連携・調整するなど配慮した。検討協議会は3回開催し、第1回は現状と課題の整理や構想案の骨子案、実現可能性調査内容等について検討、意見交換を行った。第2回は構想案の具体的内容について、第3回は構想案の実現に向けた計画について検討、意見交換を行った。

なお、協議会開催場所は、浦添市内施設（役所）にて行った。

3 業務工程

工程計画 業務量を考慮して各特記項目の工程計画を下図に示す。

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計画・準備	—					
(1) 事前調査						
①周辺地域調査 浦添市各種計画における当該地域の位置付けや進捗状況の調査・整理等	—	—	—			
②関係法令調査 古都指定要件の調査や古都として必要な要素・今後再現すべき資源等の調査検討				—	—	
(2) 次年度以降に向けた構想案の検討・策定		—	—	—	—	
(3) 実現可能性・事業性の検討 経費試算調査及びニーズ調査等			—	—	—	
(4) 構想案の実現に向けた計画の検討					—	—
(5) 協議会の開催				●	●	●
(6) 報告書の作成						—
(7) 打合せ（着手1回・中間3回・最終1回）	①		②	③	④	⑤

1.4 業務組織計画

1.4.1 業務実施体制

業務の履行にあたり業務担当者を次の通り定め、担当職員との打ち合わせを十分に行い、円滑に業務を遂行する。

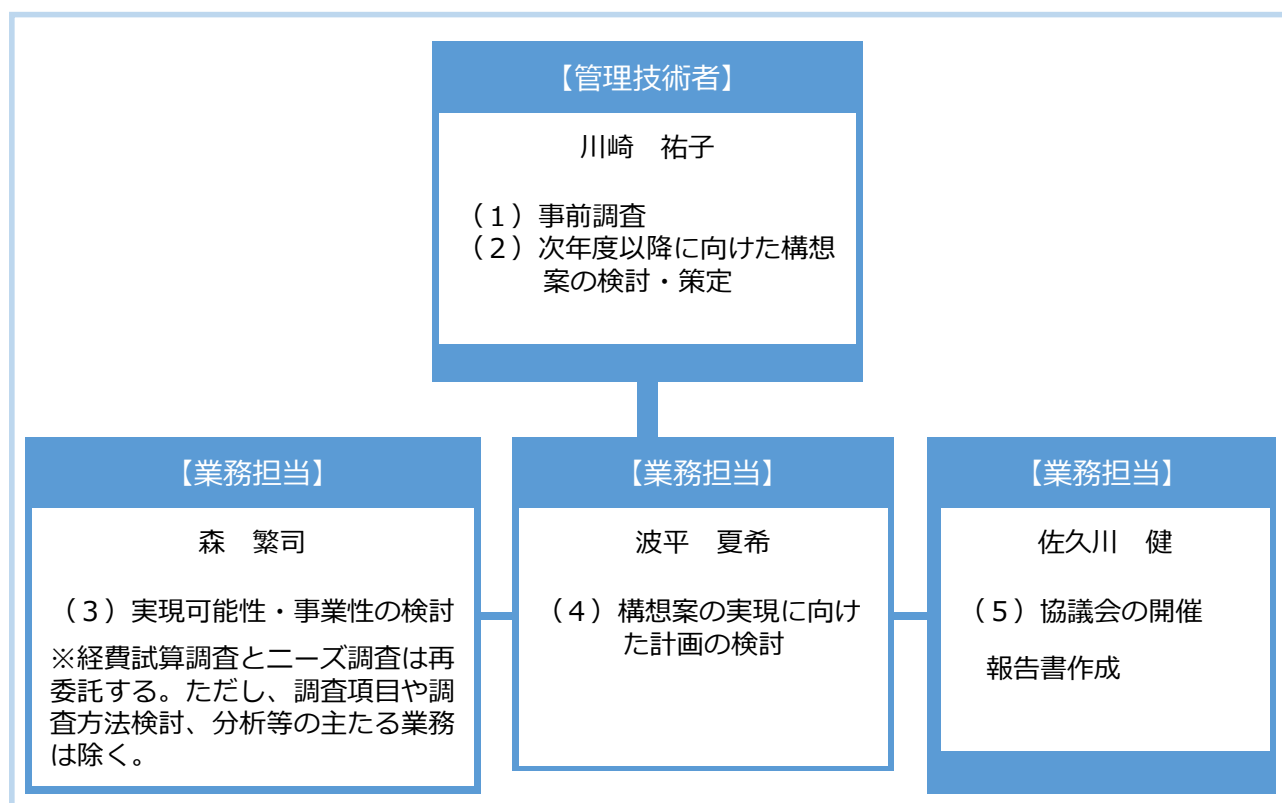
(1) 連絡場所

〒901-2122 沖縄県浦添市字勢理客四丁目18番1号

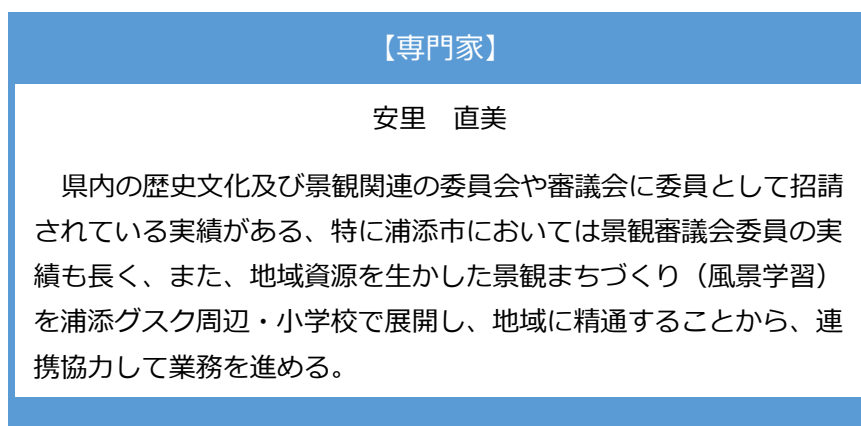
Tel 098-879-2091

Fax 098-874-5301

(2) 業務実施体制



◇業務実施にあたって下記専門家と連携協力して進める。



1.5 成果物の品質を確保するための計画(ISO9001 の運用による品質管理)

- ・ ISO9001（品質）による品質管理を行う事で顧客満足度の向上に勤める。
- ・ チーム別の工程会議（週 1）、全体工程会議（月 1）において進捗管理を実施する。
- ・ 本業務に関する緊急連絡体制を構築し発注者と共有する事で、緊急時における迅速な対応に努める。

1.6 成果物の内容、部数

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| ・ 報告書・・・3部（A4縦カラー、簡易製本） | } 【提出先：沖縄総合事務局運輸部観光課】 |
| ・ 概要版・・・パワーポイント（A3） | |
| ・ 電子データ・2枚（DVD-ROM） | |

1.7 その他

- （1）事業の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に最大限配慮する。
- （2）事業の実施内容については、当局担当者と十分な打合せを行い、事業の進捗状況を逐次報告する。
- （3）業務遂行上で疑義が生じた場合は速やかに監督職員と協議する。

第2章 事前調査

2.1 周辺地域調査

2.1.1 基本的な情報の収集・整理及び体系的な調査整理

浦添市の各種計画等を収集・整理し、浦添グスク周辺地域における、①土地利用の現状と課題、②歴史、③位置付けを体系的に整理した。また、各種計画だけでは把握できない進捗状況等の情報については、補完調査として、関係各課へヒアリングを行い整理した。

収集する各種計画等	発行	基本情報
第5次浦添市総合計画基本構想（R3.3）	企画部企画課	③
浦添市都市計画マスタープラン（H25.1）	都市建設部都市計画課	①、③
浦添市景観まちづくり計画（R4.3）	都市建設部美らまち推進課	①、③
浦添市観光振興計画（H30.3）	経済観光局観光振興課	③
史跡中頭方西海道及び普天間参詣道保存活用計画（R3.3）	浦添市教育委員会	①、②、③
日本遺産認定「琉球王国の礎を築いた王都・浦添」（R1.5）	文化庁	②、③

（1）浦添グスク周辺地域における土地利用の現状と課題

浦添グスクは字仲間に所在し、浦添グスク周辺には、伝統的集落が残る住宅地（安波茶、仲間地区、前田地区、当山地区）が隣接しており、付近には地区小学校が立地している。北西から南東方向へ細長く伸びる丘陵上に浦添グスクを含む公園緑地（県営浦添大公園）が位置し、その北側・断崖下には牧港川が流れ、緑豊かな地域を形成している。一方、北東部斜面地（市街化調整区域）には浦添城跡霊園などの墓地用地が拡大していることから、グスク北東側の遠望景観を阻害する要因となっている。

浦添グスク西側の浦添西原線には、美術館、てだこホール等公共施設が集約された公園緑地（カルチャーパーク、運動公園）が立地する。浦添グスク南側では、2019年モノレールの延長により周辺環境が変化していく中で、土地区画整理事業・浦添前田駅周辺整備（観光交流拠点等）や、仲間重点地区及び浦添西原線沿線景観地区など歴史的景観に配慮したまちなみ形成が推進されている。

また、2019年には文化庁より、中頭方西海道（尚寧王の道）を含む浦添グスク周辺文化財が日本遺産に認定され、歴史の道環境整備事業が進められている。

こうした中、歴史ガイドの案内による浦添グスク見学や地域集落の散策等が活発に行われており、今後の滞在時間の延長や取り組みの拡大にむけて、周辺文化財の保存・活用と併せた受け入れ環境の整備やアクセス、浦添グスク周辺の歴史的風致景観の保全創出等が課題となっている。

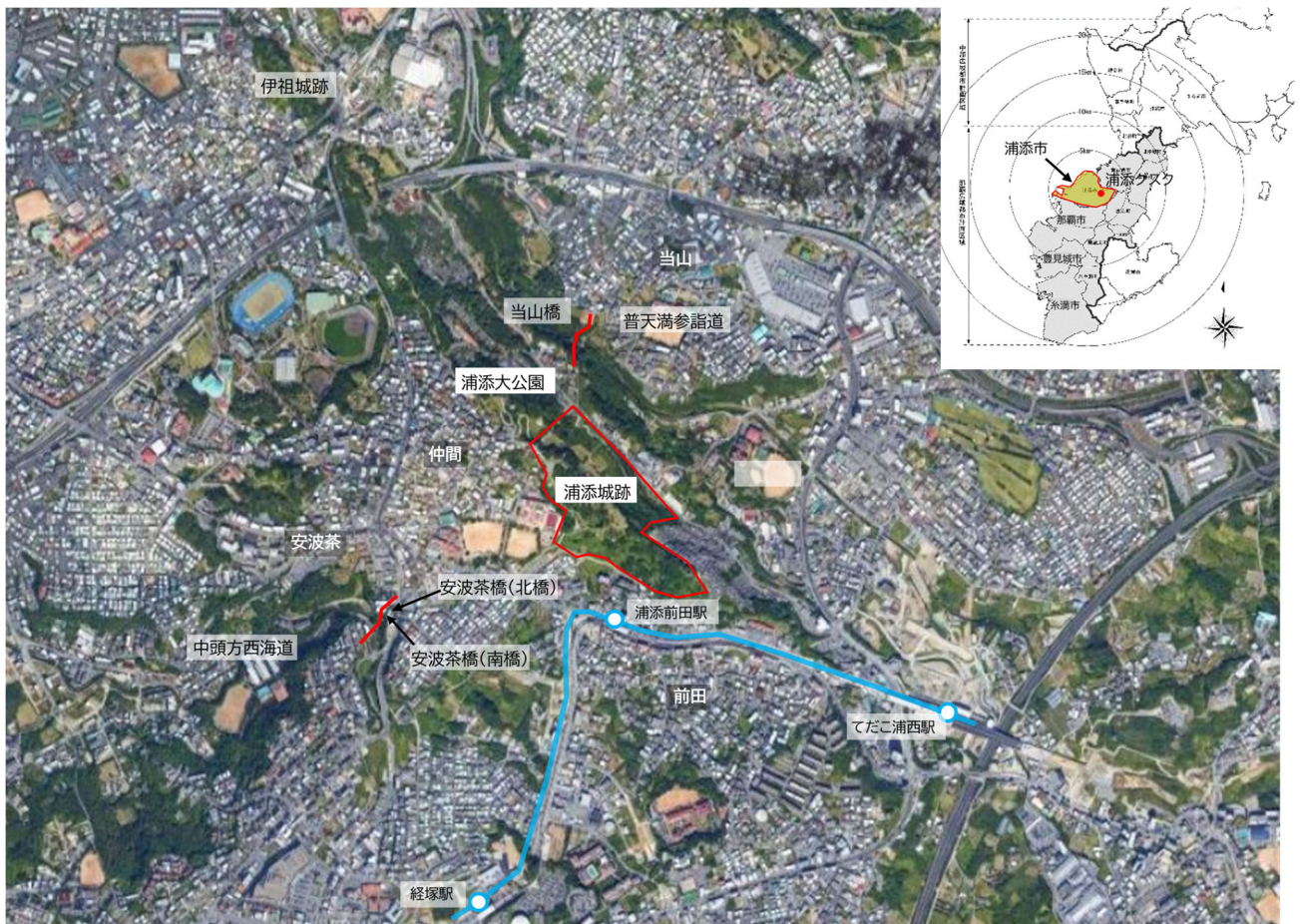


図 2-1：浦添グスク周辺の状況（出典：Google 地図） ※一部、事務局にて作図

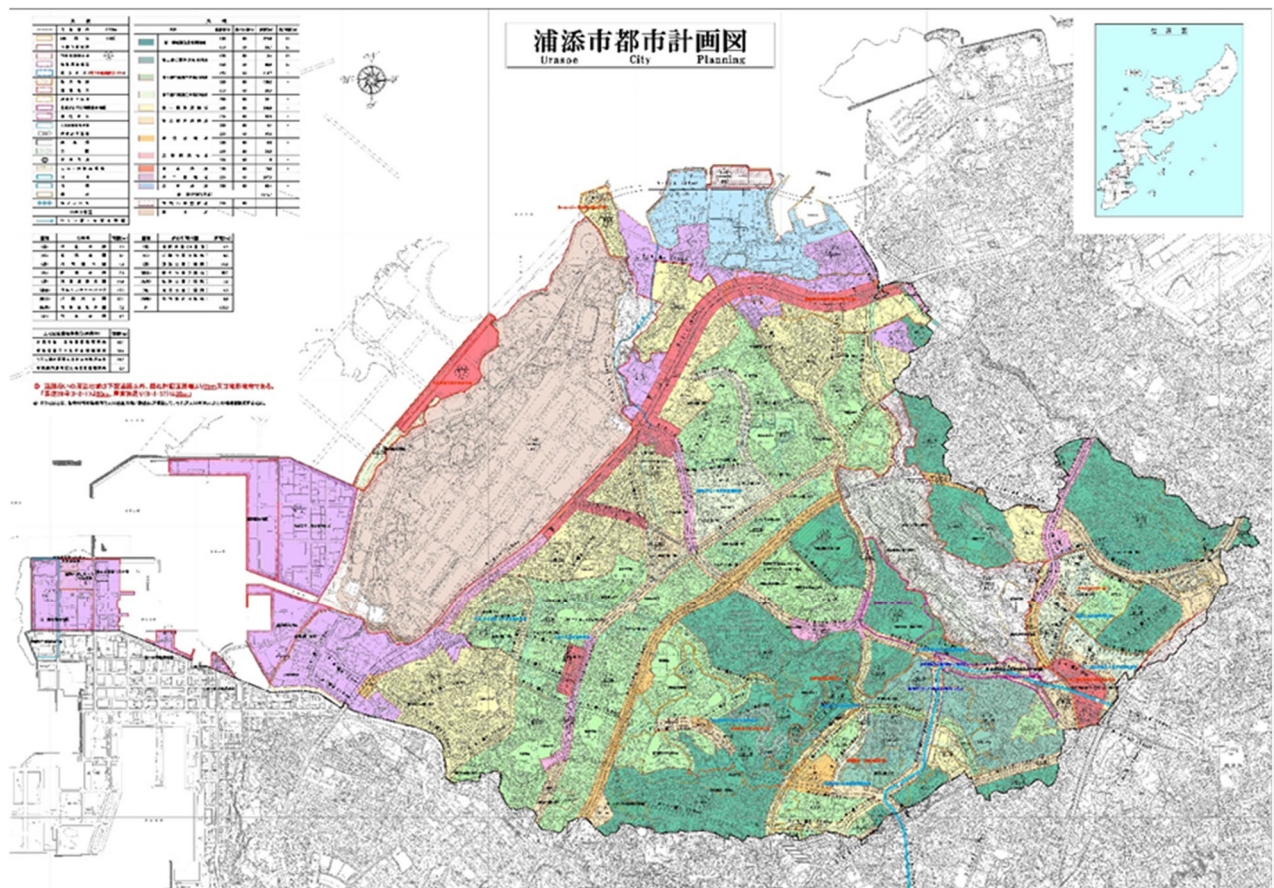


図 2-2：浦添市都市計画図（出典：浦添市都市建設部都市計画課）

（２）浦添グスク周辺地域の歴史（琉球王国の礎を築いた王都・浦添）※

沖縄県は琉球王国と呼ばれ、独自の文化を形成してきた。14 世紀頃の琉球王国は、北山、中山、南山という 3 つの小国に分かれ、沖縄島をめぐる抗争をくり広げていた。このうち最も有力な勢力は現在の浦添市に拠点を置く中山で、舜天・英祖・察度の三王統が栄えた。中山王国の王都・浦添「うらおそい」は、後に大交易時代を迎え東南アジアの中継貿易拠点として繁栄した琉球王国の礎を築いた都と言われる。

浦添城跡は石灰岩台地上に造営された中山王の居城だった大型のグスクで、これまでの発掘調査で 13 世紀末～14 世紀初頭に築かれ、14 世紀から 15 世紀初め頃に大規模なグスクになったと考えられている。

政権の拠点が首里城に移った後の 16 世紀初めには尚真王の長男・尚維衡が移り住み、その子孫の「浦添家」の屋敷となっていたようで、1589 年には尚維衡のひ孫・尚寧が第二尚氏第七代の国王となった。1609 年に薩摩の島津氏が琉球に攻めてきて、その折に浦添グスクは焼き払われてしまう。薩摩に連行された尚寧王は帰国後、その自らの陵墓として 1620 年に浦添ようどれを修築している。

1945（昭和 20）年の沖縄戦では、浦添グスクのある丘陵が日本軍の防衛拠点となり、米軍との激戦が繰り広げられ、住民の半数近くが戦闘に巻き込まれて戦死する悲惨なものであった。戦災や戦後復興のための採石等により石積み城壁はほとんどなくなってしまった。城内には今も日本軍の壕跡が残っている。その後、浦添村により公園化が進められ、1968 年県営公園に組み込まれた。1989 年（平成元年）には浦添グスクは国指定史跡に指定され、これを機に復元事業がスタートしている。

2016 年には沖縄戦で衛生兵として従軍した米軍兵士の実体験を描いた米映画「ハクソー・リッジ」が上映され、その戦場である浦添グスク（前田高地）には、多くの訪日外国人をはじめとする観光客が訪れている。

※参考・引用文献：「史跡浦添城跡整備基本計画書 1996」、「浦添城跡発掘調査現場見学会資料 2022」、「浦添市観光振興計画」、「文化庁 日本遺産ポータルサイト」

(3) 浦添市の各種計画における浦添グスク周辺の位置付け

浦添市の各種計画を収集し、浦添グスク周辺地域の位置付けについて、各種計画毎（都市計画マスタープラン、観光振興計画、景観まちづくり計画）に以下に整理した。

1) 都市計画マスタープラン（H25.1）

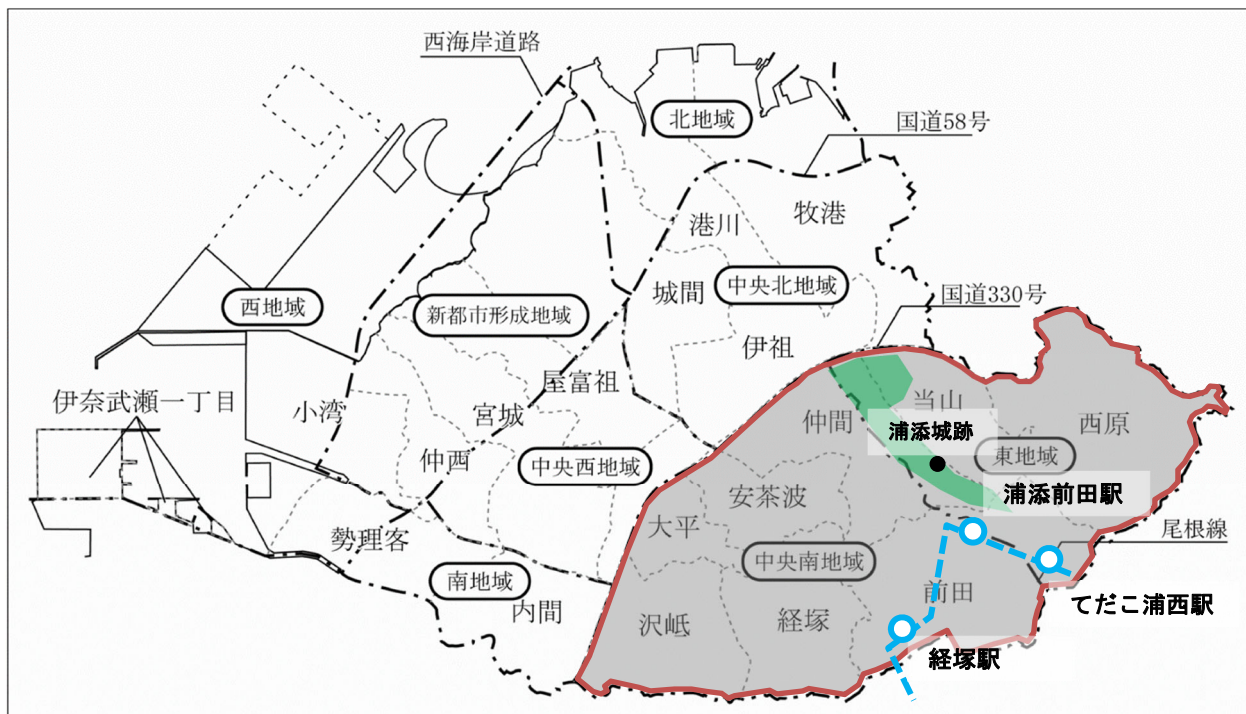


図 2-3：地域区分図（出典：浦添市都市計画マスタープラン（H25.1）） ※一部、事務局にて作図

都市計画マスタープランでは、東地域と中央南地域の将来市街地目標としてそれぞれ「歴史が薫り、コミュニティが息づくやさしいまち」と「歴史が薫り、森と水辺に憩うまち」を掲げている。

両地域とも浦添グスクや歴史の道など歴史文化資源が所在する地域となっており、「歴史」を地域共通の重要ワードとして捉えている。さらに、市の核となっている浦添グスク周辺にモノレール駅の整備がなされ、新たな機能立地を展開する地域としても位置付けている。

浦添大公園以北に位置し、西原、当山などの旧集落、区画整理事業による市街地によって形成されている東地域では、浦添大公園を都市住民の身近な憩いの場として形成していくなどコミュニティ形成を1つの地域目標として位置付けている。

浦添大公園から前田、沢峠にかけて広がる斜面緑地(クサティ森)に囲まれた中央南地域は、浦添市の行政・文化の中心として、また国際交流の核を形成する地域として位置付けている。地域特性として、沖縄自動車道の西原 IC が立地し、モノレール駅の整備がなされている東地域では、広域交通の玄関口としてのポテンシャルを有している。また、市役所や美術館などの主要な行政・文化施設が集積するカルチャーパーク、浦添運動公園、沖縄国際センター等、多様な都市機能が立地する中央南地域は、市民生活を支える中心地としての役割を担っている。

2) 観光振興計画 (H30. 3)

観光振興計画では、浦添城跡周辺を「重点エリア」と位置付けている。また、モノレールの延長により、浦添城跡付近に浦添前田駅が建設され、その周辺では観光交流 拠点施設等の開発も予定されており、この新駅や浦添市美術館等との連携を図り、有機的なつながりを形成し、ネットワークを構築することで、浦添城跡を核とする歴史・文化等の地域資源を活かした取組を積極的に推進するとしている。

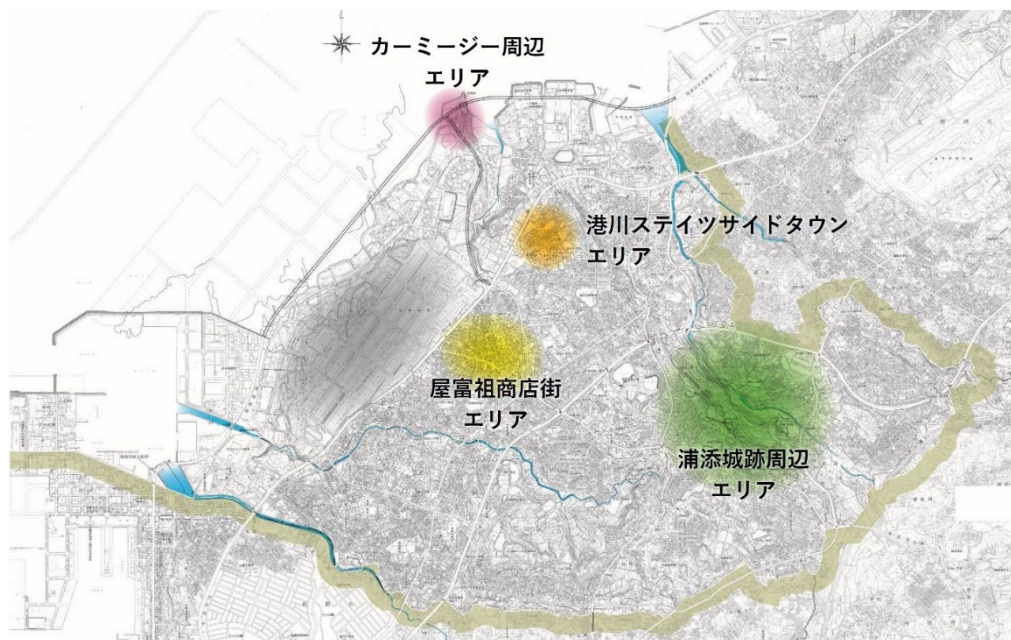


図 2-4：重点的に取り組みを進めるエリア（出典：浦添市観光振興計画（H30. 3））

3) 景観まちづくり計画 (R4. 3) における位置付けと高さ制限

景観計画を効果的・戦略的に推進していくために、浦添城跡周辺エリアを景観計画における「重点・優先エリア」と位置付けており、モノレールの延長により環境が変化していく中で、本市のシンボルである浦添グスクを中心に周辺の地区や道路において、住民の取り組み（仲間重点地区）、市の事業（市道、文化財）、浦添前田駅周辺整備（観光交流拠点等）や歴史的景観に配慮した沿道のまちなみ形成が進められている。

また、主要な視点場から、緑の稜線が分断されないよう、かつ、浦添グスクを超えない高さとして標高 140m以下とされている（歴史文化ゾーン）

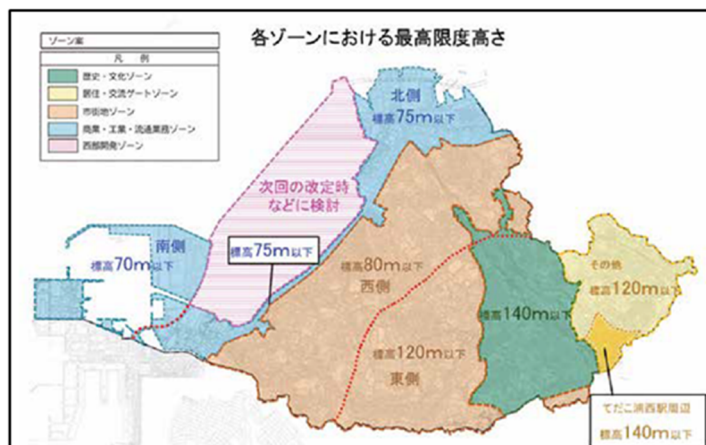


図 2-5：各ゾーンにおける最高限度高さ（出典：浦添市景観まちづくり計画（R4. 3））



図 2-6：景観計画における重点・優先エリア（浦添グスク周辺エリア）（出典：浦添市観光振興計画（H30. 3））

(4) 浦添グスク周辺における各種計画の進捗状況

各種計画だけでは把握できない進捗状況等の情報については、補完調査として、関係各課（文化財課、観光振興課、美らまち推進課、区画整理課）へヒアリングを行い、各種計画の進捗状況を整理した。

1) 浦添城跡整備計画の進捗状況（ヒアリング対象：浦添市 教育委員会文化財課）

①浦添城跡の整備状況

- ・浦添城跡整備計画の中で整備エリアを第Ⅰ期～第Ⅳ期としている。第Ⅰ期は完了、第Ⅱ期、第Ⅲ期はおもに城壁の復元、第Ⅳ期は沖縄戦の戦跡の移転工事等を予定している。
- ・第Ⅰ期は、浦添ようどれをメインとする浦添城跡の北側エリアであり、浦添ようどれは平成17年に整備完了している。ようどれから北側は、戦後の採石で地形ごと失われた地域で、沖縄県中部土木事務所にて公園的整備を実施。
- ・第Ⅱ期は浦添城跡南側エリアであり、発掘調査、城壁の復元整備を取組中。2031年完了、2032年一般供用予定
- ・浦添城跡の内郭エリアは、第Ⅲ期整備として主に城壁の発掘調査と復元工事を実施予定（第Ⅲ期整備は2039年完了、2040年一般供用予定）
- ・発掘調査現場見学会を適宜行っている。直近では令和4年12月11日（日）に開催する。

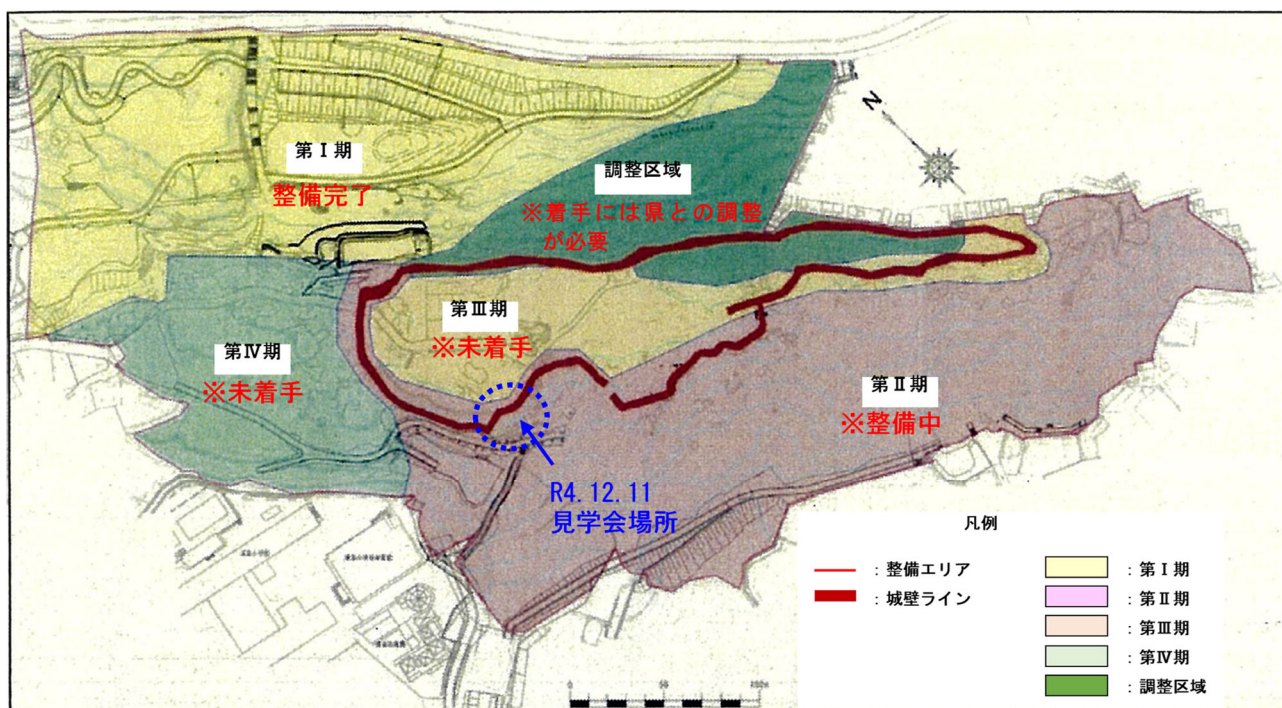


写真 2-1: 発掘調査現場の状況（左：城壁の近景、右：モノレール側から見た浦添城跡）

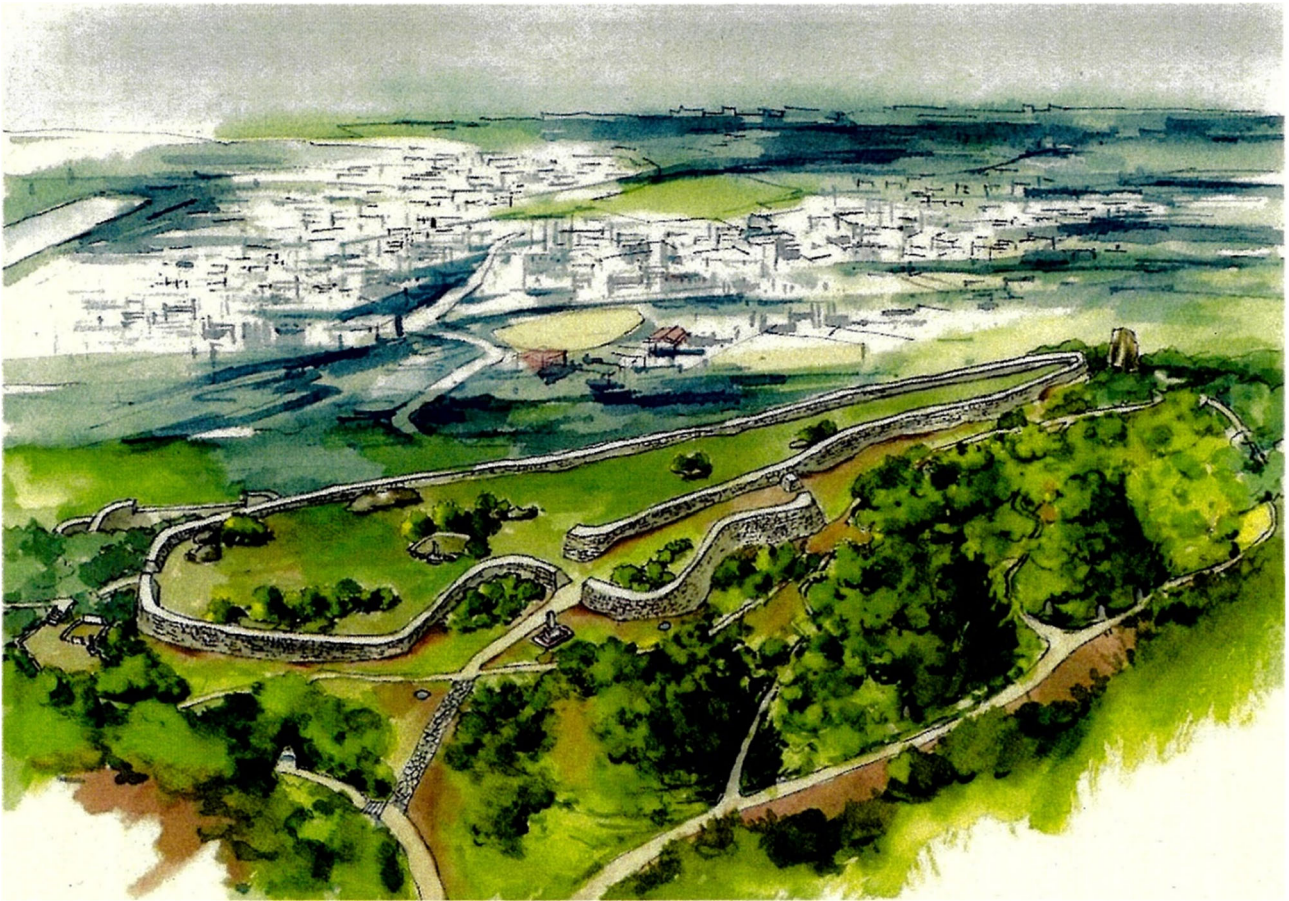


図 2-8：浦添城跡完成予想図（南側からの眺望）（出典：浦添市教育委員会文化財課）

②県営大公園・浦添城跡における園路・動線計画

- ・大公園内の園路整備について、浦添城跡内は浦添市文化財課が担当し、県（公園園路）と連携調整して回遊性を持たせることを基本に整備に取り組んでいる。
- ・今年度、城跡内部からワカリジーへつなぐ散策路（園路 I）と城跡南側エリアからメイン管理用園路 A とをつなぐ散策路（園路 D）を整備完了予定、4 月供用開始。
- ・大公園内浦添城跡へ入るエントランスは全部で 3 か所（西・北・南エントランス）ある。西エントランスは県公園管理事務所があり、遊具、広場等公園整備がされているので住民や子供連れの家族が主に利用している。北エントランスは、普天満参詣道や当山集落側からのアクセス路となっている。南エントランスは浦添前田駅が近いので観光客の利用が多い、管理施設には案内 VR やグスク模型等を設置している、以前は人を置いていたが県からの交付金がなくなり、人の配置ができなくなった。
- ・観光振興課で取り組んでいる浦添前田駅周辺地区賑わい創出事業との調整はできていない。
- ・伊祖城跡と浦添城跡の連絡路は未整備。徒歩で移動しようと思えば一般の歩道を通っての移動は可能。
- ・現在、浦添市の魅力発信としていろいろな散策マップを作成しているが、徒歩来訪者や自動車来訪者など様々な交通移動形態に対応した散策コースの設定はできていない。今後検討が必要だと思う。

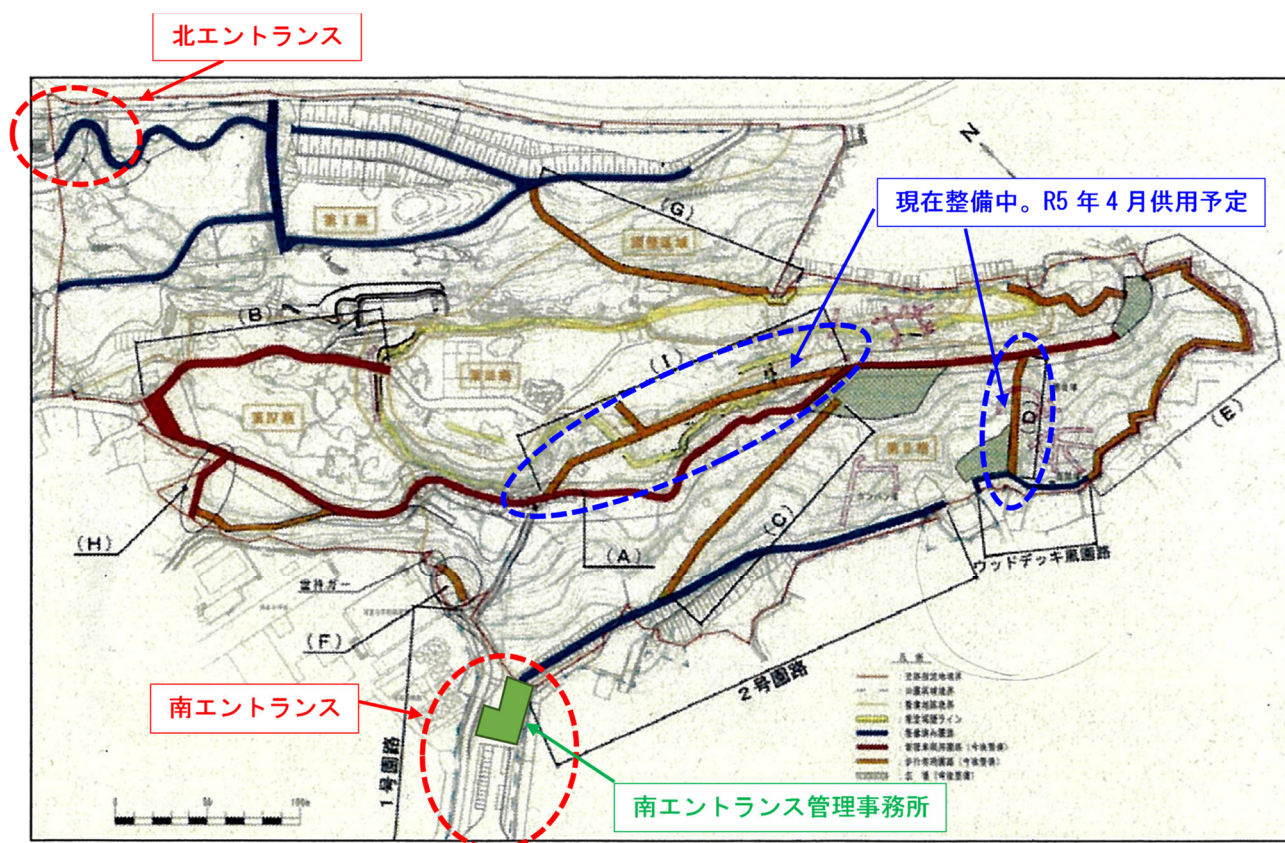


図 2-9：園路計画平面図（出典：浦添市教育委員会文化財課） ※一部、事務局にて作図



写真 2-2：北エントランス



写真 2-3：南エントランス管理事務所



写真 2-4：西エントランス展望台



写真 2-5：南エントランス管理事務所内

③城跡周辺環境整備の考え方（歴史の道との連続性の確保）

基本的な考えとしては、「中頭方西海道及び普天満参詣道」と浦添城跡との連続性や、その他景観資源等との連携に向けて、周遊ルートの検討やサイン設置など整備を促進する（図 2-10 参照）。

（1）「中頭方西海道及び普天満参詣道」における連続性の確保

第 5 章 3（p.104）で示した、「中頭方西海道及び普天満参詣道」活用エリアにおいて、歴史の道ルートの大部分が現代においてはアスファルト敷の生活道路となっている。部分的にルート上に石畳風舗装を敷設している箇所はあるが断続的であるため、ルートの連続性を確保し、歴史の道全体としての活用を促進する観点から、石畳風舗装の整備を進める。宅地開発等により歴史の道ルートが途切れた部分や、舗装整備が困難な箇所については、標柱や説明板等を設置し、できるだけ連続性を確保できるよう配慮する。

（2）浦添城跡、浦添大公園、その他景観資源等と連携した整備

中頭方西海道及び普天満参詣道、浦添城跡の立地する浦添大公園と近接している（当山の石畳道の一部は公園区域）。また、史跡に近接してモノレール浦添前田駅が建設されたことから、駅を中心としたにぎわいが創出されつつある。史跡をとりまく周辺環境にあたっては、市の景観まちづくり計画に基づく取組をはじめ、デマンド型コミュニティバスやシェアサイクル等の実証実験も行われている。こうした関連する取組と連携しながら、歴史の道の活用にあつては、市に資するような整備についても促進する。

特に周辺環境との連携にあつては、浦添大公園や浦添城跡から中頭方西海道及び普天満参詣道への周遊を促すような周遊ルートの検討、サインの設置など整備を促進する。

（3）市内文化財の総体的な魅力発信のための整備

歴史の道沿線及び周辺には、玉城朝薫の墓や浦添御殿の墓、伊祖城跡など様々な文化資源が分布する。浦添市の歴史の奥行を体感するため、歴史の道だけでなく市内の様々な文化財の魅力を総体的に活用するための整備を推進する。整備にあつては、市の観光振興計画に基づきながら、文化財そのものの環境整備をはじめ、観光部局と連携し、各資源の持つ価値や背景をストーリーとしてとらえ、解説する方法を検討する。また、市全域での文化財の統一サインについても検討する。

図 2-10：周辺環境整備の考え方（出典：浦添市教育委員会文化財課）

④「古都浦添」の考え方

- ・浦添城跡に関しては、文化財としての歴史的物証がこれからという段階なので、「古都」と呼ぶことに対しては時期早々だと思う。考古学的には「古都」の呼称はきびしい。首里城のように城壁復元整備がなされ、王都としての全体的な成果が見えていれば「古都」と呼べるのでないか。
- ・「古都」の定義や検証については、協議会の検討事項とは別途議論すべきものではないか。歴史学者と調整いただきたい。

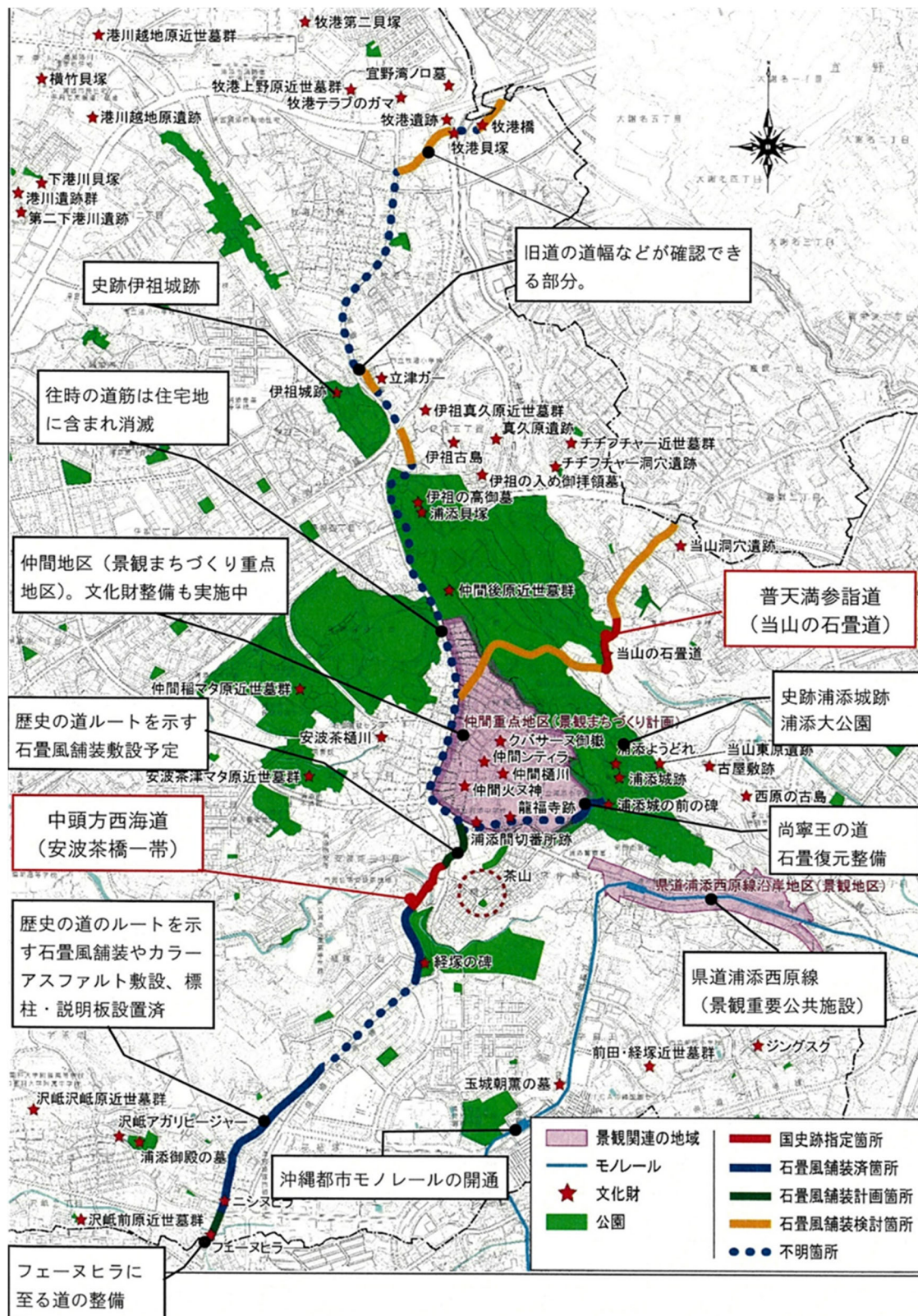


図 2-11：「中頭方西海道及び普天満参詣道」及び歴史の道の整備状況図（出典：浦添市教育委員会文化財課）

2) 浦添市観光振興計画の進捗状況（ヒアリング対象：浦添市 市民部経済文化局 観光振興課）

【浦添前田駅周辺地区賑わい創出事業】

- ・にぎわい交流ゾーンの交通の結節となる多目的広場の整備を市が、県道側の『観光交流拠点施設の整備』、維持管理運営をPPP事業（事業用定期借地権方式）での実施を予定している。事業開始目標は令和7年度としている。
- ・求める機能としては、地域のにぎわい・憩い・交流を図る場として、浦添城跡等浦添市の地域資源・観光資源を訪れる来訪者に情報等を提供し、情報収集の場、地域に触れる場とすることを想定している。
- ・市有地全体に事業用定期借地権を設定し、事業者に土地を貸し付け、事業者が設計、建設、所有、維持管理、運営をする。市は公共的機能部分として、観光PRスペース等を設置する。
- ・PPP事業の公募状況としては、令和5年2月上旬頃に事業者を選定する予定となっている。



図 2-12：浦添前田駅周辺地区賑わい創出事業（出典：浦添市観光振興課）

3) 浦添市景観計画の進捗状況（ヒアリング対象：浦添市 都市建設部 美らまち推進課）

- ・令和3年度までに景観まちづくり計画の改定、景観まちづくり条例改正、屋外広告物ガイドライン策定、西海岸埋立地区景観地区都市計画決定を行っている。
- ・仲間地区については「重点地区」、県道浦添西原線沿線地区（都市モノレール沿線地区）は「景観地区」「特別用途地区」「高度地区」、市道国際センター沿線地区は「高度地区」、浦添南第一地区は「地区計画」を設定している。茶山地区については未指定（これから景観地区等の指定を実施予定）
- ・県道浦添西原線沿線地区（安波茶～浦添警察署区間）の景観地区については、令和5年度から検討する予定
- ・浦添城跡周辺エリアは、屋外広告物の規制を厳しくしている（色規制、サイズ）
- ・浦添城跡周辺の観光ルートなどはあるが、史跡全体の観光ルートが未作成。今後作成していく必要がある。
- ・浦添前田駅周辺土地区画整理事業地区の景観地区指定については、現在進行中。

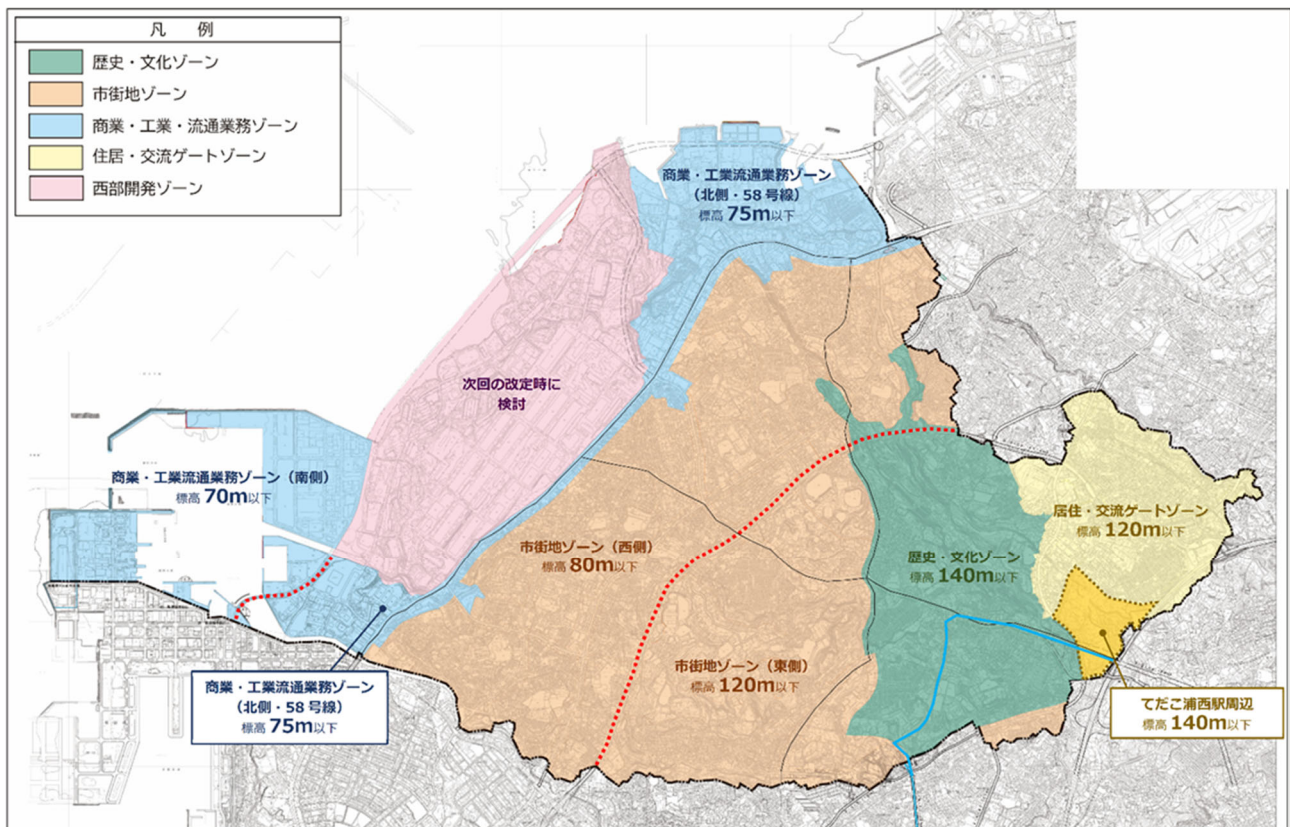


図 2-13：土地利用ゾーン別の高さ制限図（出典：浦添市美らまち推進課） ※一部、事務局にて作図

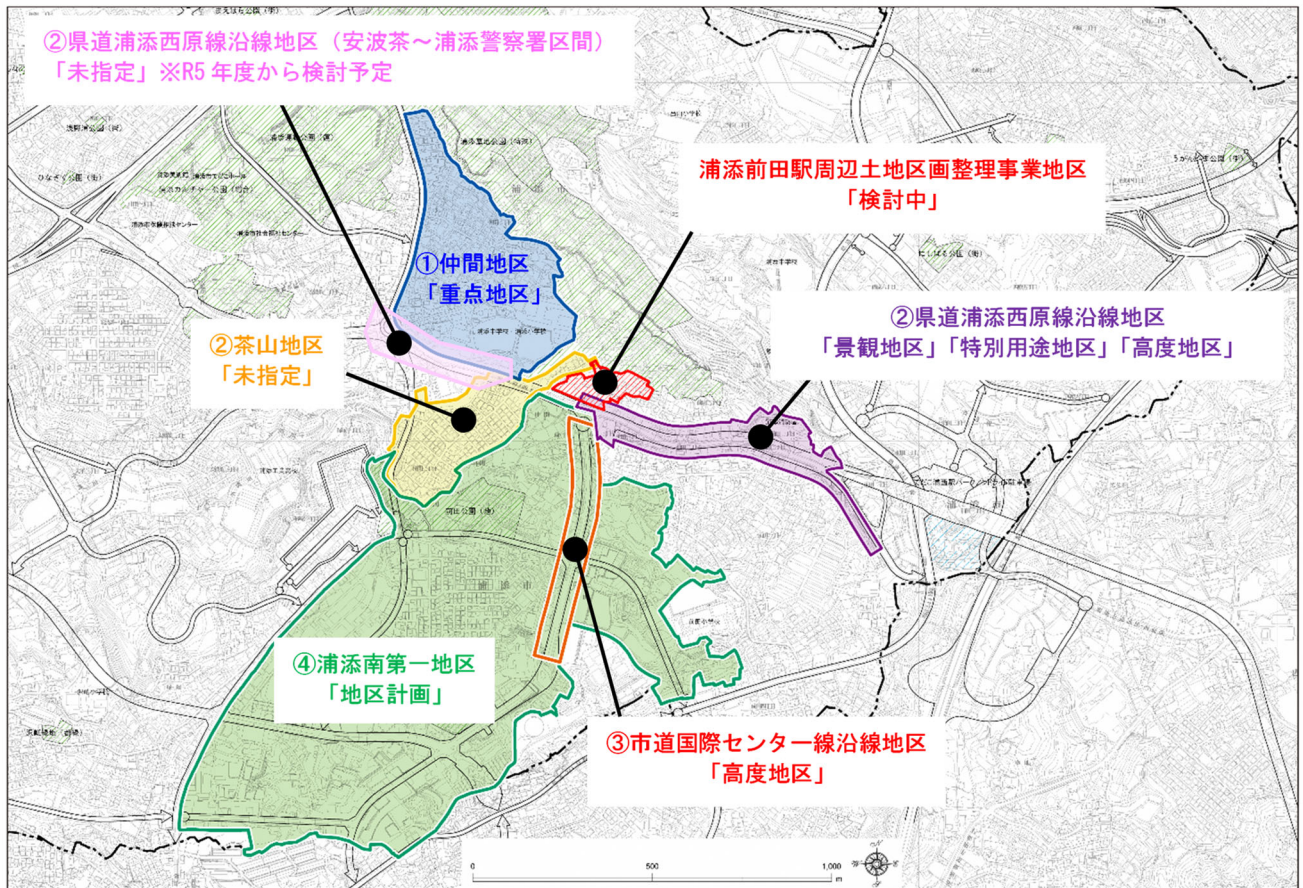


図 2-14：浦添前田駅周辺地区における景観計画図（出典：浦添市美らまち推進課）

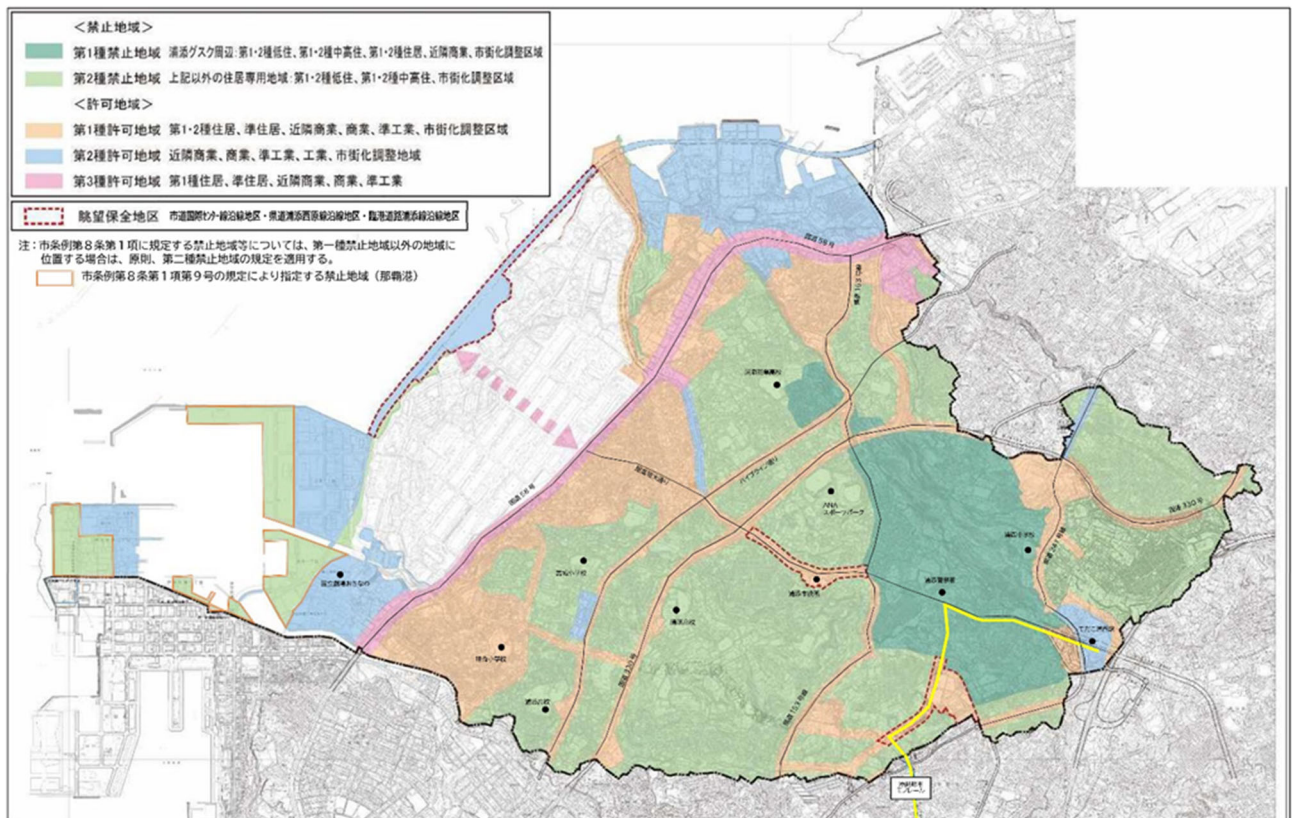


図 2-15：屋外広告物の禁止・許可地域図（出典：浦添市美らまち推進課）

4) 浦添前田駅周辺土地区画整理事業の進捗状況(ヒアリング対象:浦添市都市建設部区画整理課)

①目的及び浦添城跡との位置付け

- ・本事業では、浦添グスク、浦添ようどれへのアクセス機能を有した都市基盤の整備を行い、世界遺産登録を目指す浦添グスク周辺のバッファゾーン、また本市の新たな顔として、歴史文化資源や緑地等と調和した良好な周辺整備を図っていく。

②浦添前田駅周辺土地区画整理事業の整備状況

- ・本区画整理事業は、浦添警察署から市営住宅周辺までの2haが対象となっている。
- ・交通結節機能を含むにぎわい交流ゾーンとそこにアクセスする道路(市道前田1号線)の整備が令和6年度中に完成、令和7年度から供用開始予定としている。市営住宅側の住宅用地については、令和7年度以降に進めていく予定としている。
- ・にぎわい交流ゾーンから浦添城跡へのアクセス路は本事業にて整備を行っている。現在、空き地のようにになっている箇所は、公園区域なのでここから園路までのアクセスについては沖縄県の都市公園課の管轄になる。
- ・にぎわい交流ゾーンは、浦添観光の受け皿になり得ると考えている。
- ・にぎわい交流施設の箱物は一括交付金を活用して本事業で整備、施設機能の検討については観光振興課が担当している。

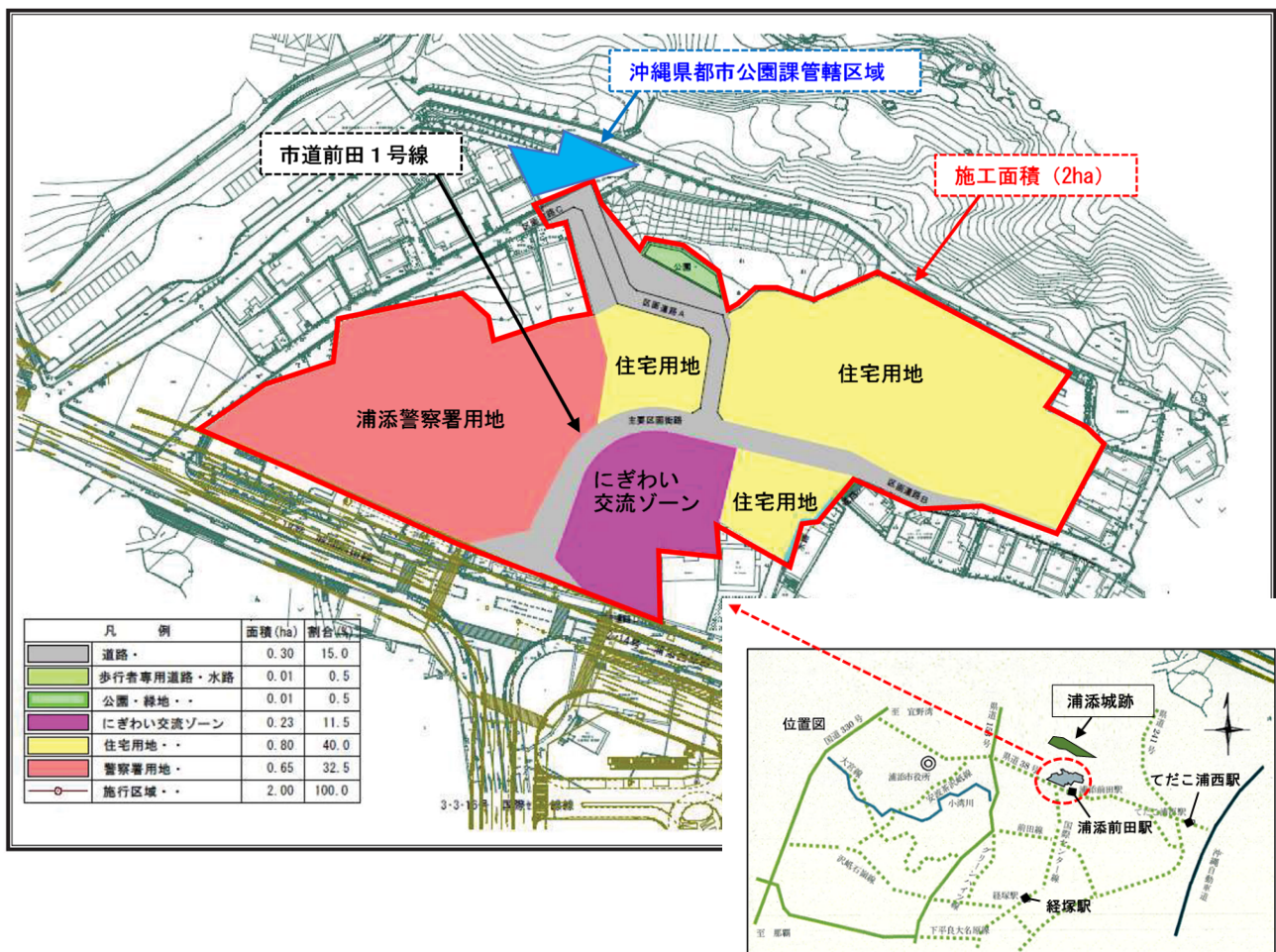


図 2-16 : 那覇広域都市計画事業 浦添前田駅周辺土地区画整理事業図

(出典: 浦添市区画整理課) ※一部、事務局にて作図

③前田地区、経塚シティ周辺の区画整理事業の進捗状況及び課題

- ・浦添前田駅前広場の整備は、沖縄県にて整備済み。
- ・JICA や経塚シティ周辺は約30年前から区画整理を実施中。経塚シティ周辺はある程度宅地造成は進んでいる。
- ・浦添前田駅周辺はまだ、緑が多く残っており、これから宅地造成を行っていく。経塚シティ周辺の区画整理や公園整備も含め、完了目標をあと10年としている。
- ・公園整備としては、2ha 程の前田公園と経塚公園をメインな整備事業として、周辺に街区公園が2～3個ある。前田公園は基本設計もこれからという状況。経塚公園はPFI で進行中。
- ・前田公園等整備も含め、前田地区や経塚シティ周辺の区画整理事業が遅れている。



図 2-17：浦添南第一土地区画整理事業 事業範囲図（出典：浦添市区画整理課） ※一部、事務局にて作図

(5) その他関連団体へのヒアリング結果

本事業を進めるにあたり、浦添市の観光と歴史の観点から重要なメンバーになると考える団体へ補足のヒアリングを行った。以下にヒアリング結果を示す。

1) 浦添市観光協会

①浦添歴史ガイドツアーの重要性

- ・現在の浦添城跡における収益は、浦添ようどれ館の入館料（100 円/人）だけ。浦添市にお金を落とす工夫が必要。
- ・ようどれ館と歴史ガイドツアーをパックにして周遊につなげる施策が必要である。
- ・ただ、ガイドツアーは魅力発信に役に立つと思うが、旅行会社によるガイドツアーパックではなく、現状は旅行者や修学旅行先の各学校から直接ガイドの予約が入るため、単発的で収益が大きいという訳ではない。
- ・浦添市全体の問題として、来訪者にお金を落としてもらえるような魅力（施設）がないことだと思う。
- ・来訪者を浦添から首里城に誘導していくストーリー立ては面白い考えだと思う。
- ・日本遺産登録は5年更新となっており、成果が出ていない場合、日本遺産登録取り消しもあり得る。現在、沖縄県にて外国人観光客向け日本遺産ガイドの養成を行っている。

②浦添前田駅周辺・観光交流拠点施設における観光案内所の重要性

- ・観光振興の一番の問題は、浦添市にインバウンドを含む観光客を呼び込むための受け皿（観光施設や魅力）がない。同様に、特産品などを開発（はがきサイズの御城印）しているがそれを販売するための施設がないことも問題。例えば、南城市の斎場御嶽近くにある南城市地域物産館などのような施設がない。
- ・観光振興課が進めている浦添前田駅周辺地区賑わい創出事業において、浦添前田駅にぎわい交流ゾーンに観光交流拠点施設の整備が予定されている。観光誘客、観光客と地域住民間、地域住民相互の交流機会の増加を目的としていると聞いている。今後、浦添市観光の核となる拠点施設になるだろうと期待している。
- ・我々観光協会のブースも設置され、そこに人を配置し、浦添観光案内所としての機能をもてたらと考えている。
- ・ただ、観光交流拠点施設整備は現在再公募中であり、観光PRスペースと管理は必須と聞いているが、あとは民間の提案ということなので、どのような施設となるかはまだよくわからない状況である。
- ・観光客の受け入れ拠点施設（案内窓口）としては、前田駅周辺建設予定の観光交流施設の役割が重要となってくる。グスク内拠点施設としてのようどれ館の連携が図れば相乗効果がある。浦添ならではの魅力的な体験メニューの可能性として、発掘調査体験などかどうかと考えている。

③誘客の可能性調査

- ・浦添市の観光は通過型となっており、市内にホテルが少ないため、市外宿泊客らを誘客していくための可能性調査を行った方がいいと思う。
- ・誘客の可能性調査と平行して企画書記載のように、都市型観光（民泊）の可能性調査も必要だと思う。

2) うらおそい歴史ガイド友の会

①浦添城跡周辺の歴史学習・観光の可能性

- ・浦添城跡で歴史を学んだあと首里城へ行くルート、発掘体験などの案はとても良いと思う。確かに、ここでしかできないことである。
- ・浦添を古都と呼ぶのはまだ時期早々だと思う。
- ・県内（米軍関係者含む）国内の他、韓国や台湾、欧州（ドイツやオーストラリアなど）からも来ていただいている。
- ・ガイド料は1時間1,500円で、複数名でも金額は変わらない。
- ・以前、県の助成金を活用して、玉城朝薫の墓と組踊劇場を組み合わせたガイドツアーを実施したことがあるが、参加者も多く評判も良かった。私個人の案ではあるが、次年度、マイクロバスを月2回ほど借用（契約）するなどして「組踊ロードのバスツアー」をやってみたい。
- ・歴史散歩の会（盛島董純氏が創設した歴史ツアー）が、大型観光バスで歴史史跡を回っていて、約10名程度、7,000円で実施している。

②浦添前田駅周辺における観光交流拠点施設の必要性

（観光案内窓口）

- ・浦添前田駅から浦添城跡やようどれ館へ来訪する方が迷っているケースが多く、観光交流拠点施設には観光案内所としての機能が必要。
- ・浦添前田駅周辺に計画されている観光交流拠点施設は、今後プログラムを回していくうえで、とても重要な施設となると思っている（期待している）。
- ・観光振興課からは観光協会が入る予定と聞いていた。
- ・観光協会がそこに入るなら、「歴史ガイド友の会」からも人を置けるようにしてほしい。また、スペースを確保して、ようどれ館の案内のブースを置かせてもらいたいなど意向は伝えているが、実際、どのような施設になるのか、いつできるのかもよくわからない。（観光振興課との情報共有はできていない。）
- ・大公園の南エントランス管理事務所は、今は歴史に関するパンフや展示物、VRを置いているだけである。以前は、県の一括交付金事業を活用して文化財課が人（歴史ガイド友の会）を置いていたが、事業が切れたので人を配置できず、観光案内の役割は果たせていない。

③来館者数とお土産

- ・ようどれ館の入館者は一年間でおおよそ1万人程度（コロナ禍以降）。ハクソーリッジの映画が放映された時期は、年間3万人であった。
- ・ようどれ館の入館料は100円。
- ・ようどれ館で、11月から浦添グスクの御城印を販売しており好評である。今後、お土産（特産品）の開発が出来ればと、いろいろ考えている。例えば、琉球てまりをモチーフにしたお酒のラベル、ご当地弁当など。

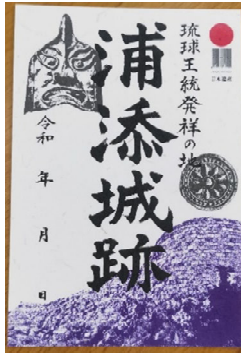


写真 2-6:浦添城跡の御城印



写真 2-7:浦添グスクようどれ館外観

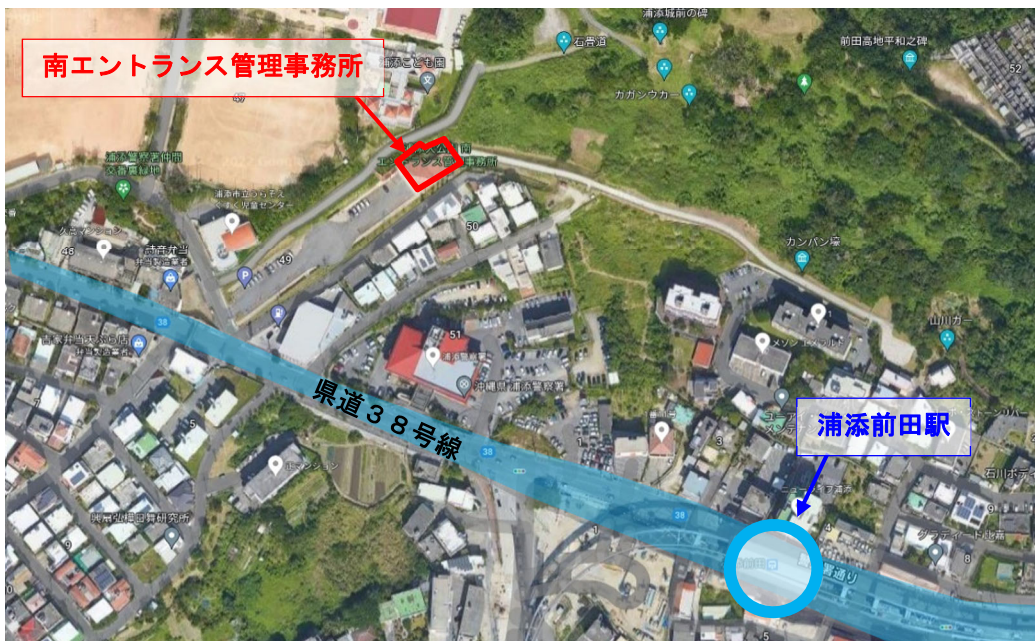
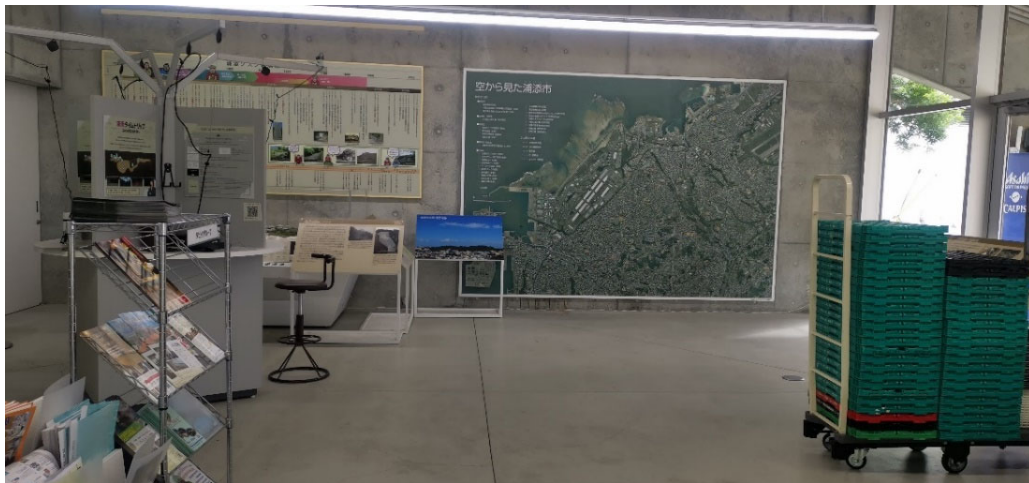


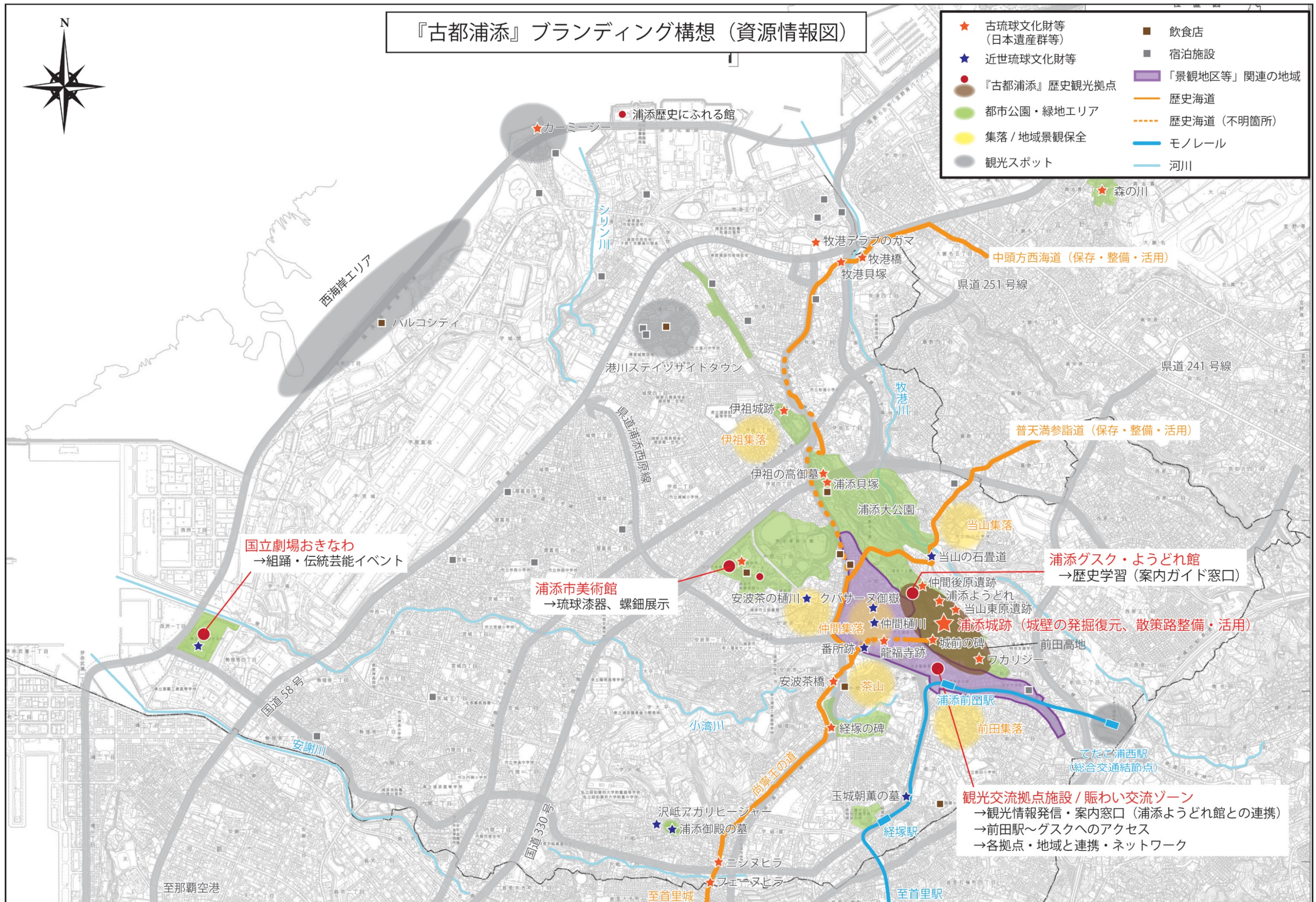
写真 2-8:南エントランス管理事務所の現況(上:管理事務所内の現況、下:管理事務所の位置)

2.1.2 地域資源の洗い出し

2.1.1 を踏まえ、ブランディングできそうな地域資源（自然景観、歴史文化、生活面）等の洗い出しを行うため、ヒト・モノ・コトの活用視点による体系的な調査・整理を行い、資源情報図を作成した。

表 2-1：浦添グスク周辺地域のヒト・モノ・コトの活用視点による地域資源の内容

資源	資源の内容	観光まちづくり
人材	人（浦添市観光協会、浦添市商工会議所、うらおそいガイド友の会等）、地域（自治会、青年会、学校等）	ヒト（ガイド）
歴史・文化	歴史的風土における日本遺産群（史跡・食・芸能）、伝統文化、行祭事（古式祭）、イベント、生活文化（※地域）	コト（周遊、イベント）
地場産業	地域をベースにした伝統技術（浦添型染物）、特産品	モノ（オリジナルブランド）
自然・環境	地域をシンボライズする自然・歴史的風致景観、コミュニティ・生活環境（学校、自治会）、まちづくりルール	モノ（PR・発信）
活動	歴史ガイド、地域の食体験やショッピング等	コト/モノ/ヒト（サービスの提供）
拠点施設等	観光交流拠点（浦添前田駅周辺整備事業）、歴史・文化拠点（浦添グスク周辺）、交通拠点（てだこ浦西駅）、宿泊施設等（※地域）	モノ（サービス）



2.2 関係法令調査

古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（昭和41年法律第1号）及び、古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法第2条第1項の市町村を定める政令（昭和41年政令第232号）において、以下の4つについて整理した。

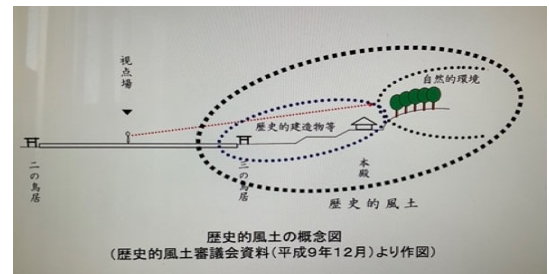
- 1) 「古都」とされる市町村及び「古都」指定要件
- 2) 浦添市がその指定を受けることが可能かどうか
- 3) 古都として必要な要素や今後再現すべき資源等について調査・検討を行う
- 4) 浦添グスク周辺地域の開発にあたって支障となる事項等がないか、関係法令や浦添市の各種条例について調査を行う

2.2.1 「古都」とされる市町村及び「古都」指定要件

「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（略称は古都保存法）」は、高度経済成長期に、宅地開発が急増化する中で、京都・奈良・鎌倉等の古都の伝統的環境を保全することを目的として、1966年（昭和41年）に制定された法律である。

この法律では、古都の歴史的風土を保存するために、国土交通大臣が「歴史的風土保存区域」を指定し（古都保存法4条）、同区域内の重要な地区については、府県が「歴史的風土特別保存地区」を定め（古都保存法6条、都市計画法8条1項10号）、建築行為等を届出制や許可制のもとに統制している。

本法の適用を受ける「古都」とは、同法第二条より、我が国往時の政治、文化の中心等として歴史上重要な地位を有する京都市・奈良市・鎌倉市が法律に規定されており、さらに、歴史的風土審議会における「政令指定都市指定基準」3要件を満たす7市町村（天理市・橿原市・桜井市・斑鳩町・明日香村、逗子市、大津市）、合計10都市が「古都」に指定されている。



同法第二条

この法律において「古都」とは、わが国往時の政治、文化の中心等として歴史上重要な地位を有する京都市、奈良市、鎌倉市及び政令で定めるその他の市町村をいう。

2 この法律において「歴史的風土」とは、わが国の歴史上意義を有する建造物、遺跡等が周囲の自然的環境と一体をなして古都における伝統と文化を具現し、及び形成している土地の状況をいう。

■政令指定都市の「古都」指定基準

- 1) 我が国往時の全国的な政治・文化の中心、または時代を代表する歴史上重要な文化の中心地であった都市であること
- 2) 文化資産が自然的環境と一体をなして、貴重な「歴史的風土」を形成している土地を有する都市であること
- 3) 「歴史的風土」侵犯の恐れがあるため、積極的な維持、保持の施策を講ずる必要のある都市であること

古都の定義及び政令指定基準

古都保存法第2条第1項において、「古都」は次のように定義されている。

■古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（昭和41年1月13日）

第二条 この法律において「古都」とは、わが国往時の政治、文化の中心等として歴史上重要な地位を有する京都市、奈良市、鎌倉市及び政令で定めるその他の市町村をいう。

「政令で定めるその他市町村」は、昭和41年5月30日の第二回歴史的風土審議会における「政令指定都市の指定基準」が用いられ、京都市、奈良市、鎌倉市以外の都市の政令指定が実施されてきた（表-1）。昭和41年7月に天理市、橿原市、桜井市、斑鳩町、明日香村の3市1町1村が、平成12年1月に逗子市が、平成15年10月に大津市が政令指定され、その結果、現在、合計10都市（8市1町1村）が「古都」として位置づけられ、古都保存法の対象として歴史的風土の保存が図られてきている。

■政令指定都市の指定基準（昭和41年5月30日 第二回歴史的風土審議会）

次の各号に掲げる要件に該当する都市について指定を検討する

- 第一 長期にわたってわが国往時の全国的な政治文化の中心地又は時代を代表する歴史上重要な文化の中心地であった都市であること
- 第二 史実に基づいた文化的資産が集積し、かつ、当該歴史上重要な文化的資産が、広範囲にわたる自然的環境と一体をなして、後代の国民に継承されるべき貴重な「歴史的風土」を形成している土地を有する都市であること
- 第三 市街化若しくはその他の開発行為が顕著であって「歴史的風土」の侵犯の恐れがあるため、積極的な維持、保持の対策を講ずる必要のある都市であること。

表 -1 古都指定の経緯

年月日		古都指定都市
昭和41年1月13日	古都保存法	京都市、奈良市、鎌倉市
昭和41年7月4日	政令指定	天理市、橿原市、桜井市、斑鳩町、明日香村
平成12年1月19日	政令指定	逗子市
平成15年10月10日	政令指定	大津市
合計10都市（うち政令指定7都市）		

（参 考）歴史的風土審議会において古都指定の議論がなされた地域（都市）

大宰府跡（太宰府市）、宇治（宇治市）、長岡京（向日市、長岡京市）、難波宮跡（大阪市）、金沢文庫（横浜市）、吉野（吉野町）、平泉（平泉町）、大津宮跡（大津市）

※大津市は平成15年10月に古都指定済み

古都の歴史的風土

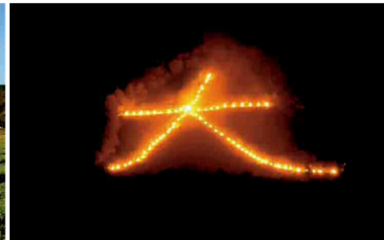
京都市 ～千有余年の間首都として繁栄した地～



794年に桓武天皇がこの地に遷都し、政治の中心になるとともに王朝文化の華が開きました。以降、千有余年の間首都として繁栄し、数多くの文化的資産を現代に伝えています。嵯峨野の美しい田園景観、京都の夏の風物詩である五山の送り火の舞台となる京都盆地の山々、世界文化遺産である多くの社寺周辺の自然的環境などは、今日まで大切に守られています。

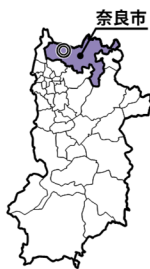


嵯峨野の田園風景
(嵯峨野歴史的風土特別保存地区)

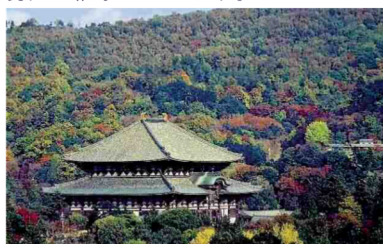


大文字送り火
(大文字山歴史的風土特別保存地区)

奈良市 ～平城京を中心に国際交流により日本の文化を育んだ地～



710年に元明天皇がこの地に遷都し、都市として形態が整えられた後、東大寺や春日大社等の大社寺を中心に繁栄しました。大和盆地に点在する当時の社寺や史跡等が、周囲を取り囲む若草山などのなだらかな丘陵と一体となって良好な歴史的風土を現代に継承しています。



東大寺と若草山
(春日山歴史的風土特別保存地区)



薬師寺
(薬師寺歴史的風土特別保存地区)

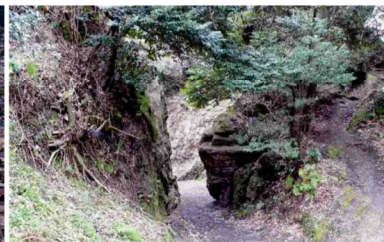
鎌倉市, 逗子市 ～源頼朝により幕府が置かれ、武家政権が誕生した地～



12世紀末、源頼朝により幕府が置かれた鎌倉では、初めて武家政権の基盤が築かれました。鶴岡八幡宮を中心として、大仏や多くの社寺が建立され、周辺の自然景観とともに現代にも保存されています。また、山に囲まれた鎌倉への陸路の入口として開削された「名越切通」など、天然の要害といわれた鎌倉の特徴的な景観が残されています。

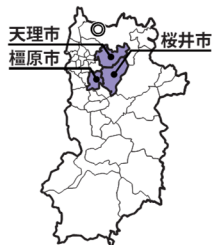


鶴岡八幡宮（鎌倉市）
(建長寺・浄智寺・八幡宮歴史的風土特別保存地区)



名越切通（逗子市）
(大町・材木座歴史的風土保存区域)

天理市、橿原市、桜井市 ～大和三山に見守られた古代の都～



この地域は、4世紀から5世紀頃の多くの宮跡が伝承され、7世紀には藤原京が築かれるなど、古代の政治や文化の中心地でした。日本最古の道といわれる「山の辺の道」は、その沿道の多くの古墳や社寺等とともに現代にも継承されています。

また、かつての藤原京の中央に位置する藤原宮跡は大和三山（畝傍山、耳成山、香具山）に見守られて、その姿を今に伝えています。



藤原宮跡と背面の畝傍山（橿原市）
（藤原宮跡歴史的風土特別保存地区）



山の辺の道（桜井市）
（石上三輪歴史的風土保存区域）

斑鳩町



～聖徳太子が宮を構え、政治を執り行った地～

6世紀から7世紀はじめ、斑鳩宮に居を構えた聖徳太子が数々の政治上の業績を残すとともに法隆寺を建立するなどして飛鳥時代の文化が栄えました。現代でも、法起寺や法輪寺など、聖徳太子にゆかりのある数多くの歴史上重要な文化的資産と、その背景となる矢田丘陵と一体となった素晴らしい風景が保存されています。

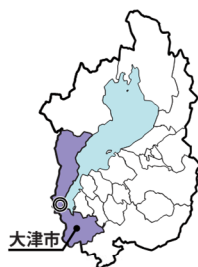


法隆寺
（法隆寺歴史的風土特別保存地区）



法起寺
（斑鳩歴史的風土保存区域）

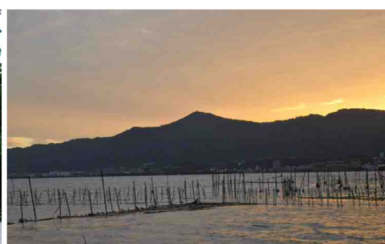
大津市 ～近江大津宮が置かれた後、天台仏教の拠点として栄えた地～



667年に近江大津宮が置かれ、その後788年に最澄が延暦寺を開いた比叡山を中心に天台仏教の一大拠点が形成され、法然や親鸞など多くの仏教宗派の開祖を輩出しました。石山寺、三井寺など数多くの社寺や史跡と比叡山や琵琶湖の自然が一体となった景観が今に伝えられています。



比叡山延暦寺根本中堂
（延暦寺東塔・西塔歴史的風土特別保存地区）



琵琶湖と比叡山
（比叡山・坂本歴史的風土保存区域）

明日香村と明日香法 ～全村にわたる歴史的風土の保存の取組～



奈良県高市郡明日香村は、奈良盆地の南東部に位置し、奈良市から約25km、大阪から約40km圏内にある人口5,709人（H28.9.1現在）、面積約24km²の村です。

明日香村は、6世紀末から7世紀末にかけて、初めての女性天皇である推古天皇や聖徳太子などの活躍により、我が国の律令国家体制が初めて形成された時代の政治の中心地であるとともに、飛鳥文化が開花した時代の舞台となった地域です。

現代にも、明日香村の全域にわたって宮跡、寺跡、古墳等の遺跡、万葉集にうたわれた著名な地形・地物等の重要な歴史的文化的遺産が数多く存在し、これらが周囲の環境と一体をなして、他に類を見ない極めて貴重な歴史的風土を形成しています。

このようなことから、古代国家の形成過程を示すこれらの遺跡を保存するため、昭和55年に「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」（通称：明日香法）が制定されました。

明日香法では、村の全域を歴史的風土特別保存地区として、建築物の屋根を瓦とするとといった行為規制などにより「歴史的風土の保存」を図るとともに、道路や河川等の「生活環境の整備」を行うことで、住民の生活との調和を図りながら歴史的風土を保存することとしています。



明日香村遠景（国営飛鳥歴史公園 祝戸地区から望む）



蘇我馬子の墓と伝えられる石舞台古墳



大化の改新の舞台となったとされる
伝飛鳥板蓋宮跡



美しい田園風景が残る稲渚の棚田

■明日香と飛鳥

「明日香村」は、昭和31年に飛鳥村、高市村、阪合村の3村が合併して生まれた村名です。

アスカという言葉は古くから万葉集や古事記、日本書紀等において地名や川の名前として使われ、明日香、飛鳥、安宿、阿須賀、阿須可、安須可など様々な漢字が用いられています。

この中で、明日香と飛鳥は最も多く用いられ、明日香は万葉集において、飛鳥は古事記・日本書紀において用いられている場合が多いといわれています。

2.2.2 浦添市が古都保存法令上の「古都」指定を受けることへの可能性

古都保存法に適用されるのは、同法の古都の概念（我が国往時の政治、文化の中心等として歴史上重要な地位を有する市町村）に合致する京都市・奈良市・鎌倉市及び国が定めた 10 市町村合計である。平成 15 年（2004 年）に古都指定された大津市を除き、その大半は開発圧の強かった昭和の時代に指定されたものである。

古都指定の検討は、古都における歴史的風土の保存に関する重要事項を調査審議するため、有識者等から構成される国に設置された社会資本整備審議会（歴史的風土審議会）において執り行われている。歴史的風土審議会（昭和 41 年）で示された政令指定都市の古都指定基準は、古都指定の無秩序な拡大を抑制するために厳格に運用されてきており、現在まで指定基準の見直しは行われていない。

本法の制度の核は、“古都らしさ”を醸し出す「歴史的風土」について、国と府県が都市計画による二重構造で、土地利用規制・損失補償、土地買入れ等をかけて緑地保存を図るものであり、歴史的建造物等と一体化する自然環境を保全することを第一の目的とするものである。こうした現状凍結的土地利用規制などにより、行政が一手に「歴史的風土」の管理を担うという従来型の手法は、今日の地方公共団体の厳しい財政状況下では限界を迎えている。

古都保存行政の理念の全国展開においては、地域固有の歴史・伝統を反映した人々の活動と歴史上価値の高い建造物を一体的に捉え、それらを生かしたまちづくりを通じて地域活性化を図ることを目的とした歴史まちづくり法のほか、歴史的風土の持続可能な継承については多様な制度を活用しながら、古都保存法を保管する役割が期待されている。

<古都保存法の「古都」指定要件における浦添市の適合状況>

1) 我が国往時の全国的な政治の中心であった都市（→不適合）

→かつて沖縄県は琉球王国と呼ばれ、「浦添」はその琉球国初期の王都（古琉球時代 13～14 世紀）として 220 年間続いた政治・文化の中心地であり、首里王府以前の“琉球・沖縄の古都”である。史跡浦添城跡は、琉球と日本本土の歴史上、貴重な存在であるが、時代区分の違いや別国としての存在・独自性などから、“我が国往時の政治文化の中心”とする、本法条文の適用を受ける「古都」の概念としては不適合であると判断される。

2) 貴重な「歴史的風土」を形成している土地を有する都市（→適合）

→琉球国初期王統の王城として、文化財保護法による国指定史跡・浦添グスク、最古の王陵・ようどれ等史実に基づいた文化的資産が丘陵上に集積し自然的環境と一体をなした歴史的風土を形成している

3) 「歴史的風土」侵犯の恐れがあり積極的な維持保持の施策を講ずる必要のある都市（→不適合）

→浦添グスクが立地する丘陵部（斜面緑地）は、県営公園で保護されている、また、グスク周辺は景観重点地区、また市街化調整区域内にあり、開発行為による「歴史的風土」の侵犯は守られている。

2.2.3 古都として必要な要素や今後再現すべき資源等

「浦添」は首里以前の琉球国初期（古琉球時代13～14世紀）の中山王国の王都であり、琉球王統発祥の地として3大王統（舜天・英祖・察度）が栄えた。察度王は1372年、明国との冊封体制に参入してアジア諸国との大交易時代の扉を開き、その後琉球王国が500年間にわたって存続する礎をきづいた。浦添グスクは琉球王国が形成された時代を象徴する遺跡である。最近の発掘調査では、浦添グスクは英祖王統の13世紀に出現し、その規模は当時最大で、14世紀には4万平方メートルを超えており、高麗系瓦葺きの正殿が立ち、鬼瓦が大屋根をかざっていたこと、周辺には琉球最古の寺院・極楽寺跡、豪族屋敷跡、人工池など施設が配置されていたことが判明している。首里城の王都的構造の原型が、すでに浦添グスク周辺において成立していたことが明らかになっている。しかし、その後琉球王国の統一をめぐる合戦、薩摩の侵攻、特に現代に入ってから沖縄戦によって、グスク周辺施設、また石積み城壁のほとんどを消失してしまっている。このため、今日では、琉球最古の王城であった浦添グスク（石積み要塞）の全景が視認できず、「古都」としての歴史的風土やイメージが伝わりにくくなっている。現地来訪者のアンケート調査の結果からも、グスクの形がない、「古都浦添」の世界観がわからない、駅からグスクへのアクセスがわかりにくいことから、サイン・案内版を設置してほしいなどの声が上がってきている。

今後、再現すべき資源は、現在、文化財事業で取り組んでいる城壁の復元（2042年完了予定）であり、歴史の道の復元・整備、また、発掘調査の進捗具合によっては鬼瓦・高麗系瓦葺きの正殿等である。琉球王都として、浦添断崖上に自然的環境と一体をなして位置していた浦添グスクの全貌を具現化し、その悠々たる風景を誰もが眺望・確認できることで、それがグスク周辺の文化遺産（歴史の道等）とつながり、「古都浦添」の歴史、魅力を辿る周遊・散策ルートの活用につながる。

一方で、城壁の復元等資源の再現・具現化は、発掘作業や検証・整備も含め長期の時間を要することから、映像やVR、アニメなどソフトコンテンツによる「古都浦添」の世界観（王城・城壁、生活様式）を再現や歴史ガイドを活用した風景学習、周遊ストーリーの構築なども、「古都」イメージを伝えるための必要な要素（ツール）として検討していく必要がある。



図 2-18：浦添城跡完成予想図



写真 2-9：浦添ようどれにおける風景学

2.2.4 浦添グスク周辺地域の開発にあたり支障となる事項等関係法令、条例等

景観法に基づき、浦添市では平成 19 年に「景観まちづくり条例」及び「浦添市まちづくり条例等施行規則」を定め、「浦添市景観まちづくり計画」を策定した。その中で、浦添グスクの復元整備を目指し、周辺地域を含めて落ち着いた雰囲気づくりや景観形成等の環境整備が不可欠としている。浦添市景観まちづくり条例第 10 条で、重要かつ先導的なモデル地区として仲間地区 2 丁目（面積 19ha）を「景観まちづくり仲間重点地区」として選定し、行為の制限や許可基準を定めて景観形成に努めてきた。

さらに平成 19 年策定の景観まちづくり計画では、定性的基準により建築物等の高さ制限を定めていたが、令和 3 年度に計画改定、条例改正を行った景観まちづくり計画（R4. 3）においては、土地利用別の建築物等の高さについて明確化し、定量的な高さ制限（市条例第 15 条）を設定している。浦添グスク周辺の「歴史文化ゾーン」においては、主要な視点場から、緑の稜線が分断されないよう、かつ浦添グスクを超えない高さとして標高 140m 以下としている。

このほか、県道浦添西原線沿線地区や市国際センター沿線地区、住居エリアにおいては、都市計画法に基づく高さ制限（地区計画 12・15m、高度地区 18m）、建築基準法に基づく高さ制限（第 1 種低層住居専用地域 10m、第 2 種低層住居専用地域 12m）が設定されている。

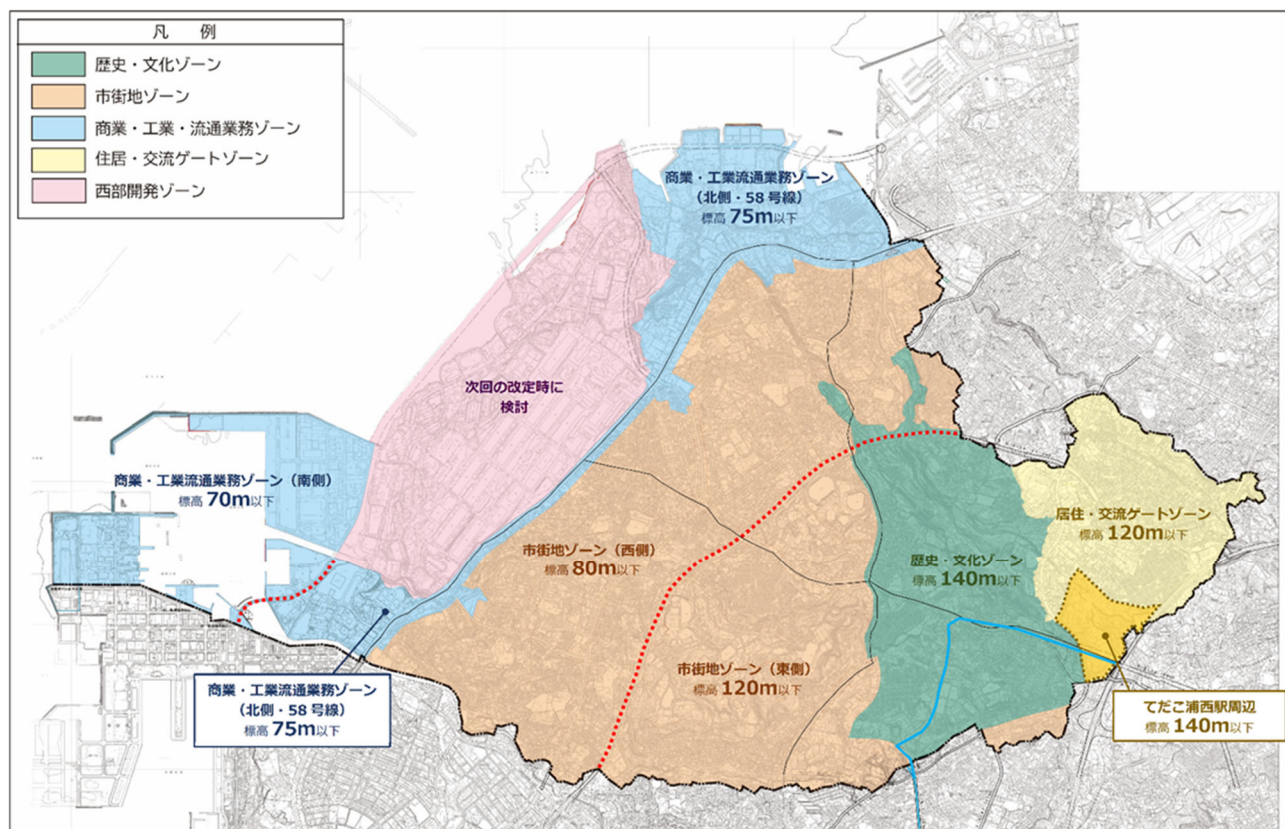


図 2-19：土地利用ゾーン別の高さ制限図（出典：浦添市美らまち推進課） ※一部、事務局にて作図

※参考・引用文献：

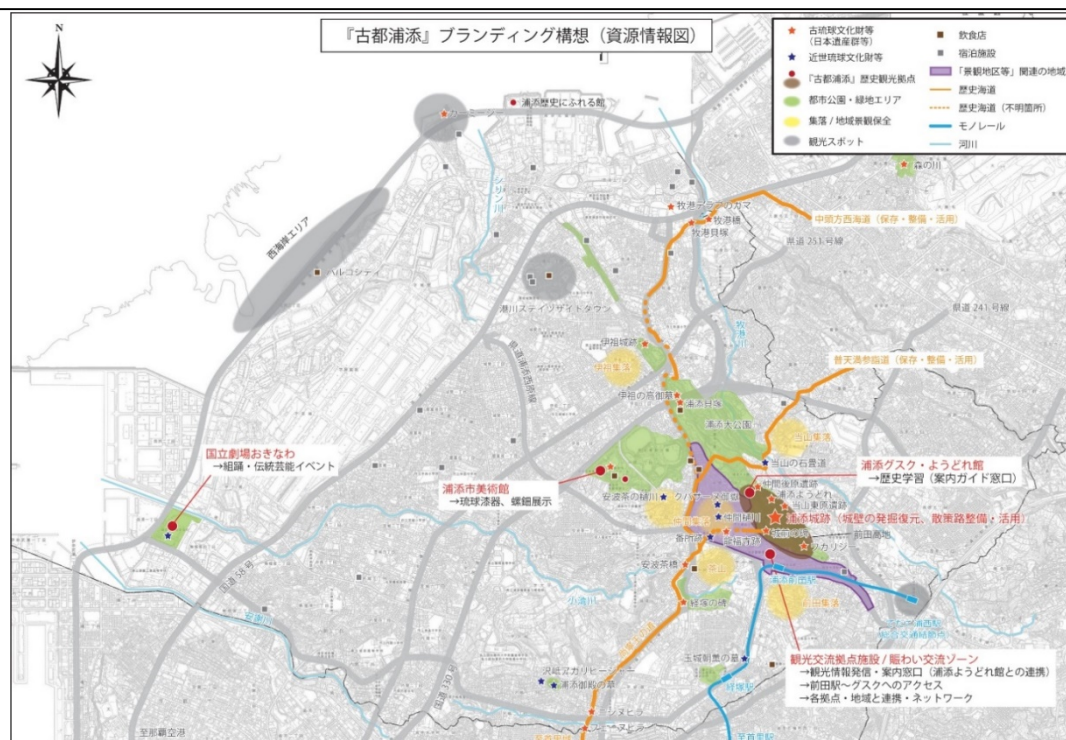
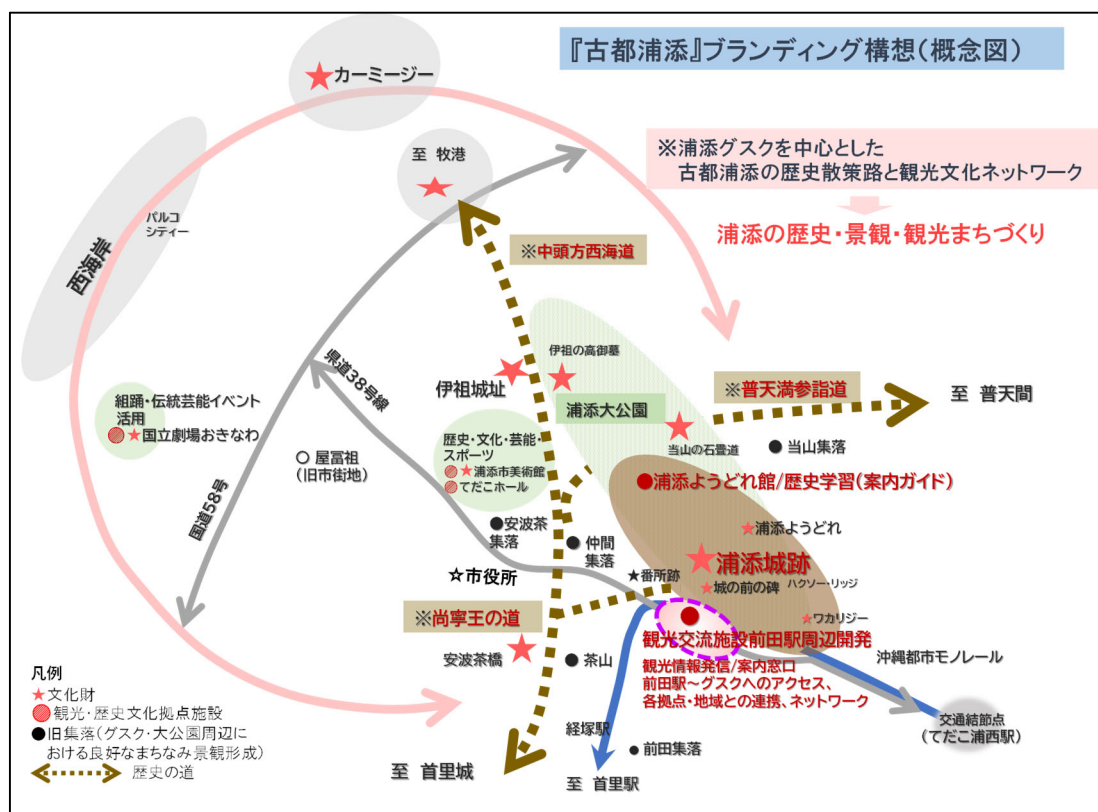
- ・古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法
- ・国土交通省 HP https://www.mlit.go.jp/toshi/rekimachi/toshi_history_tk_000006.html
- ・「古都保存法に基づく取組みについて」国土交通省都市局公園緑地・景観課、2013
- ・「古都を守り継承する-古都保存法の概要」国土交通省都市局公園緑地・景観課、2016, 12
- ・「今後の古都行は以下にあるべきか（答申）」国土交通省社会資本整備審議会、2008, 2
- ・古谷勝則ほか「実践風景計画学」日本造園学会・風景計画研究推進委員会 2019. 3
- ・富所弘充『古都における歴史的風土の保存とこれまでの取組と今後のあり方』、ランドスケープ研究 vol. 83 Jan. 2020
- ・『緑地保全のゾーニング・歴史的景観保全の視点から』、ランドスケープ研究、vol. 83 Jan. 2020
- ・高良倉吉、「琉球王国」、岩波新書、1993, 1
- ・安里進ほか「沖縄県の歴史」、山川出版社、2004, 7
- ・「史跡浦添城跡整備基本計画書」、浦添市教育委員会、1996, 2
- ・「浦添市景観まちづくり計画」 浦添市都市建設部美らまち推進課 2022, 3

第3章 次年度以降に向けた構想案の検討・策定

浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想案の検討・策定

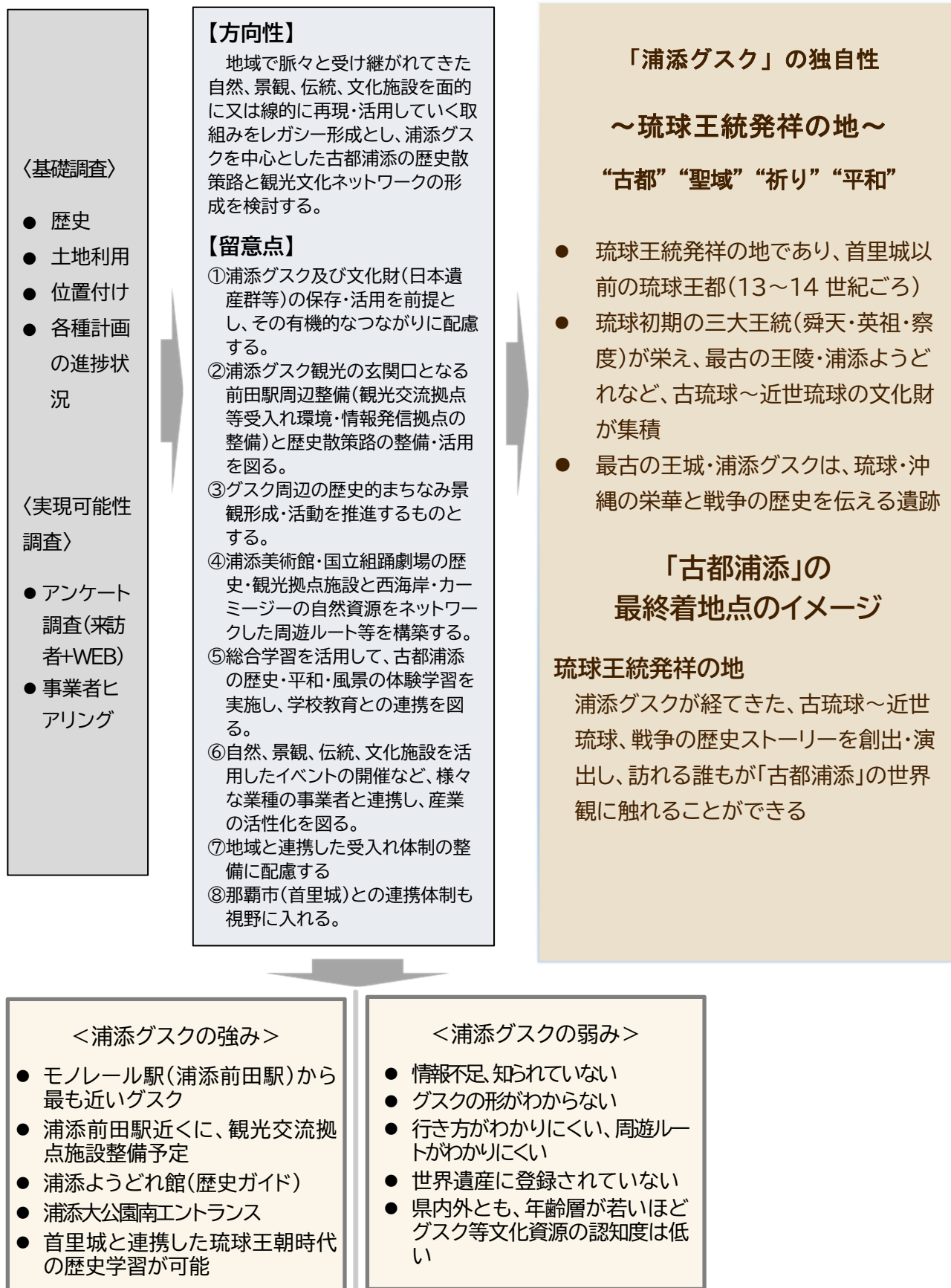
「古都浦添」ブランディング構想（概念図）は、第2章の事前調査で整理した「浦添グスク周辺地域のヒト・モノ・コトの活用視点による地域資源の内容」及び「資源情報図」を面的に又は線的に再現し、活用していく取組（レガシー形成）を促進するために実施する、実現可能性調査やブランディング構想案の検討に資するものとして作成した。

ブランディング構想案の検討にあたっては、浦添グスクを巡る土地利用の現状と課題、浦添グスクの歴史、浦添市各種計画における浦添グスク周辺の位置付け及び各種計画の進捗状況を踏まえ、検討協議会において「古都浦添」ブランディング構想案の概念図及び資源情報図について確認し、ブランディング構想の方向性や留意すべき点について意見交換を行った。



次に、実現可能性調査結果を踏まえ、検討協議会において浦添グスクの「強みと弱み」及び「古都浦添」ブランディング構想案の「方向性」と「留意点」について再確認し、「浦添グスクの独自性」と「古都浦添」の最終着地点のイメージの検討を行い、浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想案を策定した。

【浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想案】



第4章 実現可能性・事業性の検討

4.1 ニーズ調査及び経費試算調査

4.1.1 調査目的

浦添グスクを中心とした古都浦添ブランディング構想の実現に向け、スケジュール（短期・中長期）や取組み内容の実現可能性及び事業性について検討を行うため、必要なニーズ調査や経費試算調査として、来訪者アンケート、WEB アンケート、事業者ヒアリングを実施した。

取組み内容は「周遊・散策（歴史）」、「イベント（フォトウェディング・バーチャル体験・飲食と連携したスタンプラリー等）」、「宿泊（民泊等）需要」を想定し調査を行った。

また、浦添グスク周辺来訪者数を把握するため、既存データや統計データを活用し来訪者数を推計した。併せて、自動車（自家用車・レンタカー・バス）の駐車場容量（周辺駐車場の収容台数）を調査した。

4.1.2 調査対象者

調査項目別対象者を表 1 に示す。

表 4-1：調査項目別対象者

調査項目	調査対象	備考
来訪者アンケート	調査場所に来訪された人 (県内・県外・海外居住者)	【調査実施場所】 ①浦添前田駅 ②浦添ようどれ館 ③浦添グスク周辺 ④安波茶橋 ⑤国立劇場おきなわ ⑥沖縄県立博物館・美術館 ⑦港川ステイツタウン ⑧首里城公園 【調査期間】 令和 5 年 1 月 28 日～2 月 5 日のうち 1 日間(休日に限 る)
WEB アンケート	県内外居住者	
事業者ヒアリング ※事業者ヒアリング対象者 一覧を表2に示す	映像等イベント業 交通・運輸業 飲食業 宿泊業 関係団体・行政・自治会	
来訪者数等調査	自動車(自家用車・レンタカー・バス) 周辺駐車場の収容台数	

表 4-2 : 事業者ヒアリング対象者

番号	業種	所在地 (市町村)	ヒアリング対象	ヒアリング 結果
1	映像等イベント業	恩納村	スタジオムーン(株式会社ラプラス)	回答済み
2	映像等イベント業	沖縄市	合同会社PROJECT9	回答済み
3	映像等イベント業	東京都	株式会社キャドセンター 東京本社	回答済み
4	交通・運輸業	西原町	株式会社 沖縄交通	回答済み
5	交通・運輸業	豊見城市	株式会社 琉球バス交通	回答済み
6	交通・運輸業	那覇市	沖縄バス株式会社	回答済み
7	交通・運輸業	北谷町	チャタモビ合同会社	回答済み
8	交通・運輸業	京都府	京都嵐山人力車 えびす屋	回答済み
9	飲食業	浦添市	OIO食堂(沖縄ダイケン)	回答済み
10	飲食業	浦添市	貝出汁沖縄そばキセキ	回答済み
11	飲食業	浦添市	白バラ洋菓子店 ティーダ館 浦添菓子処	回答済み
12	飲食業	浦添市	Dining BALI TERRACE	回答不可
13	飲食業	浦添市	オハコルテ港川本店	回答不可
14	飲食業	浦添市	いしぐふー 浦添大公園店	回答不可
15	飲食業	浦添市	一麦食品	回答不可
16	飲食業	浦添市	喫茶 花うるし	回答不可
17	飲食業	浦添市	マキシム沖縄	回答不可
18	宿泊業	浦添市	HOTEL COZYSTAY IN 港川/HOTEL Y'RISE To URASOE	回答済み
19	宿泊業	浦添市	HOTEL AlaCOOJU OKINAWA	回答済み
20	宿泊業	那覇市	ノボテル沖縄那覇	回答済み
21	宿泊業	浦添市	D-and Stay. 5 Resort Okinawa (株式会社ディーアンド・ラボ)	回答済み
22	宿泊業	浦添市	旅の宿 龍球	回答不可
23	宿泊業	浦添市	vent du vent.NJ最上階(民泊施設)	回答不可
24	宿泊業	浦添市	Wind 牧港	回答不可
25	宿泊業	浦添市	ホテルキング	回答不可
26	宿泊業	宜野湾市	ムーンオーシャン宜野湾 ホテル&レジデンス	回答不可
27	宿泊業	浦添市	SALTY HOUSE	連絡不通
28	宿泊業	浦添市	GREEN HOUSE(グリーンハウス)	連絡不通
29	宿泊業	浦添市	プラネットコア	連絡不通
30	宿泊業	浦添市	BULE HOUSE URASOE	連絡不通
31	宿泊業	浦添市	ホテルトーマス牧港ヴィラ	連絡不通
32	宿泊業	浦添市	Mr. KINJO in URASOE	連絡不通
33	宿泊業	浦添市	アルセ琉球 ハーバーステイ	連絡不通
34	宿泊業	浦添市	Popular牧港	連絡不通
35	宿泊業	浦添市	ホテルハーベス沖縄	連絡不通
36	宿泊業	浦添市	Vacation STAY 80184	連絡不通
37	宿泊業	浦添市	Vacation STAY 5732	連絡不通
38	宿泊業	浦添市	レッドドラゴン沖縄	連絡不通
39	宿泊業	浦添市	外国人住宅 Kuruchi2	連絡不通
40	関係団体・行政・自治会	浦添市	浦添ようどれ館	回答済み
41	関係団体・行政・自治会	浦添市	一般社団法人浦添市観光協会	回答済み
42	関係団体・行政・自治会	浦添市	浦添市 都市建設部 都市計画課	回答済み
43	関係団体・行政・自治会	那覇市	首里城公園管理センター	回答済み
44	関係団体・行政・自治会	浦添市	浦添市 都市建設部 建築営繕課	回答済み
45	関係団体・行政・自治会	浦添市	浦添市 教育委員会 文化財課	回答済み
46	関係団体・行政・自治会	浦添市	浦添市 教育委員会 教務課	回答済み
47	関係団体・行政・自治会	浦添市	仲間自治会	回答済み
48	関係団体・行政・自治会	浦添市	前田自治会	回答済み
49	関係団体・行政・自治会	浦添市	浦添市商工会議所	回答済み

	結果
回答済み	25
連絡不通	13
回答不可	11
合計	49

4.1.3 調査内容

(1) 来訪者及びWEBアンケートの設問項目

1) 回答者属性

問 1.あなた自身について教えてください

1.お住まいはどちらですか？

沖縄県外の方: _____ 都・道・府・県)

海外の方 : 国名 _____)

沖縄県内の方: _____ 市・町・村)

} 宿泊先はどちらですか? _____ 市・町・村

2.こちらへの訪問は何回目ですか？

① 初めて ② 2 回目 ③ 3～4 回 ④ 5 回目 ⑤ 6 回目以上

3.こちらに来られるまでの利用交通手段を教えてください(複数)

① 自家用車 ② レンタカー ③ 観光バス ④ 路線バス ⑤ モノレール ⑥ タクシー ⑦ バイク

⑧ 自転車 ⑨ 徒歩 ⑩ その他(_____)

4.今回、こちらに訪問しようと思われたきっかけについて教えてください

① 以前から興味があった ② 友人・知人に誘われて ③ インターネット等で情報をみて

④ 雑誌やガイドブックでみて ⑤ その他(_____)

2) 認知度・関心度

問 2.浦添市周辺の文化観光資源についてお答えください(調査員の手持ち地図で各資源の位置図をみせながら確認)

資源	特徴・内容	認知度	関心度
(浦添グスク)	・かつて浦添は首里城以前の琉球王国の王都(14世紀ごろ)でその王城が浦添グスク(城)であったことはご存知ですか？ ・また、「浦添城跡(国指定史跡)」周辺には、琉球王国初期の王陵「浦添ようどれ」など多くの文化財が集積していますが関心はございますか？	知っている 知らない	関心がある 関心がない
(浦添グスク・浦添ようどれ館)	・浦添グスクに関する歴史資料館で、歴史ガイドの案内窓口である「浦添グスク・浦添ようどれ館」についてご存知ですか？ ・また、資料館や歴史ガイドを活用した『古都浦添』の周遊散策に関心はございますか？	知っている 知らない	関心がある 関心がない
(歴史ガイド・地域散策)	・浦添グスク周辺の地域集落には、樋川や御嶽、火ヌ神等の史跡や拝所が多く残っており、「歴史ガイド」が浦添グスクや地域集落の歴史散策に取り組んでいることをご存知ですか？ ・また、浦添グスクや地域集落の歴史散策に関心はございますか？	知っている 知らない	関心がある 関心がない
(ワカリジー)	・浦添グスク丘陵部東端に高く突出した石灰岩「ワカリジー」をご存知ですか？※英祖王の子(伊祖の子)を祀った場所とされ、人々の信仰対象となっている拝所(御嶽)で、市内で標高が最も高く浦添のランドマークとなっています。沖縄戦中は米軍から「ニードルロック(針のような岩)」と呼ばれていました。 ・また、そこの散策などには関心はございますか？	知っている 知らない	関心がある 関心がない
(歴史の道)	・浦添グスク周辺には「安波茶橋」や「当山の石畳道」など琉球王国時代から残る石造橋や石畳道の風景が存在しており、首里・浦添・宜野湾等を繋ぐ宿道「中頭方西海道及び普天満参詣道(国指定史跡)」のルート上となっていますが、こうした歴史の道があることをご存知ですか？ ・また、こうした歴史の道の周遊散策に関心はございますか？	知っている 知らない	関心がある 関心がない
(戦跡)	・浦添城跡内にハリウッド映画の舞台にもなった沖縄戦の激戦地ハクソーリッジ(前田高地)がありますがご存知ですか？ ・また、そうした戦跡やハクソーリッジ(前田高地)に関心はございますか？	知っている 知らない	関心がある 関心がない

(眺望)	・浦添城跡内にあるハクソーリッジ(前田高地)からは浦添・北谷・読谷に至る東シナ海一帯を見渡せる格好な眺望点となっていますがご存知ですか？ ・また、そうした眺望について関心はございますか？	知っている 知らない	関心がある 関心がない
(組踊・琉球舞踊)	・琉球組踊の創始者「玉城朝薫の墓」が浦添グスク周辺にあることをご存知ですか？ ・また、組踊や琉球舞踊の伝統芸能に気軽に触れることができる「国立劇場おきなわ」の見学やイベントに関心はございますか？	知っている 知らない	関心がある 関心がない
(琉球漆器、螺鈿))	・浦添市美術館は、浦添がかつて王都であった歴史的背景や、琉球王朝文化の伝統を引き継ぐ琉球漆器、螺鈿を中心に常設展示を行っている特色ある美術館となっていますが、ご存知ですか？ ・また、そうした琉球王朝文化の展示品や美術館に関心はございますか？	知っている 知らない	関心がある 関心がない

3) 選好意識

問 3.浦添グスクを中心とした周辺文化財等をつなぐ歴史散策路や文化施設ポイントなど、『古都浦添』を周遊するルートの設定や、イベントの実施、宿泊施設等の整備を計画しています。それらが実現した場合についてご回答ください。

周遊・散策	1. 浦添グスクを中心とした周辺文化財(日本遺産群等)の歴史散策や文化施設ポイントなど、『古都浦添』を周遊するルートを以下の交通手段で周遊・散策すると仮定した場合、どの程度の料金であれば利用してみたいですか？ ア.人力車やスローモビリティなどを利用したのんびりと周遊散策できる交通手段(周遊時間 30 分～60 分程度想定) 300 円 ・ 500 円 ・ 1000 円 ・ 1500 円 ・ その他(_____円まで) ・ 利用したくない イ.シャトルバスやデマンドタクシーを利用しピンポイントに移動できる交通手段(1 回あたり) 300 円 ・ 500 円 ・ 1000 円 ・ 1500 円 ・ その他(_____円まで) ・ 利用したくない ウ.徒歩やレンタサイクルを利用し自由に移動できる交通手段(※レンタサイクルの場合・・1 時間あたり) 300 円 ・ 500 円 ・ 1000 円 ・ 1500 円 ・ その他(_____円まで) ・ 利用したくない
イベント	2.浦添グスクなどの『古都浦添』の風景を活かしたイベントについて参加すると仮定した場合、どの程度の料金であれば利用してみたいですか？ ア.フォトウェディングや琉装での記念撮影について 300 円 ・ 500 円 ・ 1000 円 ・ 1500 円 ・ その他(_____円まで) ・ 利用したくない イ.琉球王朝時代の浦添を再現した VR 等でのバーチャル散策体験 300 円 ・ 500 円 ・ 1000 円 ・ 1500 円 ・ その他(_____円まで) ・ 利用したくない ウ.飲食店を含むコースを設定したスタンプラリー 300 円 ・ 500 円 ・ 1000 円 ・ 1500 円 ・ その他(_____円まで) ・ 利用したくない エ.古式祭などイベントの参加・見学 その他(_____) 300 円 ・ 500 円 ・ 1000 円 ・ 1500 円 ・ その他(_____円まで) ・ 利用したくない
宿泊・施設	3.浦添グスク周辺で宿泊すると仮定した場合、どの程度の料金であれば利用してみたいですか？ ア.ゲストハウスなどの民泊施設について 5,000 円 ・ 6,000 円 ・ 7,000 円 ・ 8,000 円 ・ その他(_____円まで) ・ 利用したくない イ.ホテル等の宿泊施設について 5,000 円 ・ 6,000 円 ・ 7,000 円 ・ 8,000 円 ・ その他(_____円まで) ・ 利用したくない ウ.その他(ゲストハウスやホテル以外)ではどんな所に泊まりたいですか(_____) 5,000 円 ・ 6,000 円 ・ 7,000 円 ・ 8,000 円 ・ その他(_____円まで)

4) 自由意見

問4.『古都浦添』を県内外・国外の方に PR していくために必要なこと、工夫すべきことは何だと思われますか？

(2) 事業者ヒアリングの設問項目

共通設問項目		主な設問内容
1	基本構想	・古琉球浦添ブランディング構想に対する意見、ブランド商品に関する意見や要望等
2	問題点、課題点	・事業開設費用、運営面における問題や課題の確認
3	浦添市でのニーズ	・将来的に浦添市でニーズが見込めるかの確認
4	事業者属性	・資本金、営業年数、従業員数(社員、パート社員)
5	売上額	・(コロナ前の状況を把握することから)概ね過去5ヶ年の売上額(年間、月間)、利益額(率)など
6	利用者数の状況	・上記と同じく過去5ヶ年の利用者数(年間、月間、繁忙期、閑散期、平常期)など
7	維持管理費の状況	・年間の維持管理費 ・協賛企業等の有無
8	維持管理費の状況	・市町村等からの補助金、助成金の有無
9	構想に関する感想	・古都浦添ブランディング構想(案)に関する感想

※行政・自治会は、上記2、4～8の設問はなし

業種別設問項目(映像等イベント業、飲食業)		主な設問内容
10	イベントや飲食に関する意見	・観光消費額増大に向けて最適だと思うメニューやアイデア
11	必要な施設に関する意見	・浦添グスクを中心とした歴史散策路や文化施設と共有できる最適な施設(お土産屋・カフェ・レストラン・居酒屋・カラオケ・宿泊施設など)
業種別設問項目(宿泊業)		主な設問内容
12	宿泊施設に関する意見	・浦添グスク周辺で最適と思う宿泊施設(リゾートホテル・ビジネスホテル・ペンション・旅館・コテージ・民泊・シェアハウスなど)
13	必要な施設に関する意見	・浦添グスクを中心とした歴史散策路や文化施設と共有できる最適な施設(お土産屋・カフェ・レストラン・居酒屋・カラオケ・宿泊施設など)
業種別設問項目(交通・運輸業)		主な設問内容
14	周遊ルートに関する意見	・浦添グスクを中心とした歴史散策路や文化施設ポイントを周遊するルートで最適と思うルート
15	周遊移動手段に関する意見	・浦添グスクを中心とした歴史散策路や文化施設ポイントを周遊するうえで、最適と思う交通手段と理由
業種別設問項目(行政・自治会)		主な設問内容
16	観光客等へのアピールポイント	・浦添グスク周辺の歴史文化施設の周遊に際して、観光客などは是非とも訪問または参加してもらいたいイベント、食事、お土産、宿泊施設等と理由

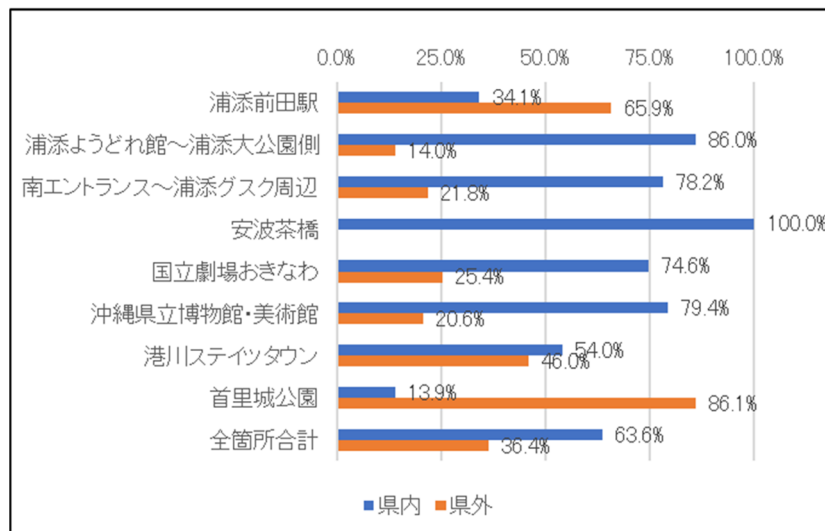
4.1.4 調査結果

(1) 来訪者アンケート及びWEB アンケート

1) 獲得サンプル数（来訪者アンケート）

本調査の調査サンプル数は、県内・県外含め合計で503件であった。内訳では、県内居住者320件（63.6%）、県外居住者183件（36.4%）となっている。※県外居住者のうち12件は海外居住者を含む。

調査箇所別でみると「浦添ようどれ館」「県立博物館・美術館」「国立劇場おきなわ」は県内居住者の回答が多くなっており、「首里城公園」および「浦添前田駅」は県外居住者の回答が多くなっている。



	件数			構成比		
	県内	県外	合計	県内	県外	合計
浦添前田駅	14	27	41	34.1%	65.9%	100.0%
浦添ようどれ館～浦添大公園側	92	15	107	86.0%	14.0%	100.0%
南エントランス～浦添グスク周辺	43	12	55	78.2%	21.8%	100.0%
安波茶橋	2	0	2	100.0%	0.0%	100.0%
国立劇場おきなわ	50	17	67	74.6%	25.4%	100.0%
沖縄県立博物館・美術館	81	21	102	79.4%	20.6%	100.0%
港川ステイツタウン	27	23	50	54.0%	46.0%	100.0%
首里城公園	11	68	79	13.9%	86.1%	100.0%
全箇所合計	320	183	503	63.6%	36.4%	100.0%

▲ 調査箇所別サンプル数

2) 獲得サンプル数（Web アンケート）

本調査の調査サンプル数は、県内・県外含め合計で495件であった。内訳では、県内居住者185件（37.4%）、県外居住者310件（62.6%）となっている。

		件数	構成比
県内居住者		185	37.4%
県外居住者	訪沖経験あり	155	31.3%
	訪沖経験なし	155	31.3%
合計		495	100.0%

▲ 調査サンプル数

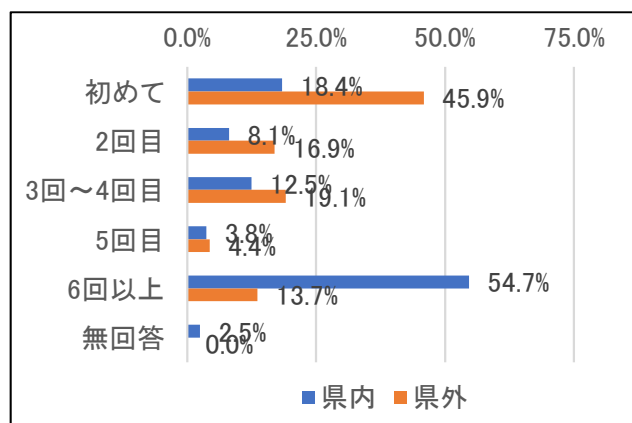
3) 来訪者アンケート及び Web アンケートにおける主な意見

回答者の属性、浦添市周辺の文化観光資源への認知度や関心度、「古都浦添」を周遊・散策すると仮定した場合の移動手段・イベント・宿泊施設に対するニーズ、「古都浦添」のPR方法に関する意見・要望を下記に整理した。

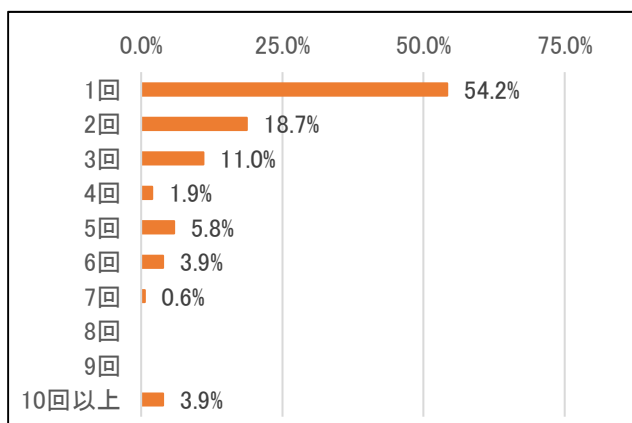
なお、詳細な集計データ等は資料編に整理している。

①回答者の属性

設問項目	来訪者アンケート	Webアンケート
性別	県内・県外とも男女比は半々	県内・県外とも男女比は半々
年齢層	39歳以下の比較的若い世代が約4割、40歳以上の割合が約6割となっている	39歳以下の比較的若い世代が約3割、40歳以上の割合が約7割となっている
来訪頻度	県内・県外居住者とも2回以上来訪したと回答した割合が5割を超えており、リピーター率が高い	県外居住者の沖縄県への来訪頻度は、2回以上と回答した割合が約5割となっている
所在地	県内居住者が全体の約6割を占め、県外では東京、大阪居住者の来訪者が多い。県内では浦添市、那覇市からの来訪が多かった	県内居住者が全体の約4割を占め、県外は東京都、神奈川県、愛知県と大都市部在住者が多かった、県内では那覇市在住者の回答が約3割と多かった
宿泊地	県外及び海外居住者の宿泊地としては、那覇市が約8割と断トツで高く、浦添市内への宿泊は1件であった	—
移動手段	県内・県外居住者とも小型自動車が最も多く、車社会の沖縄の現状が現れている。一方、県外居住者ではモノレールの移動手段が二番目に多くなっている	—



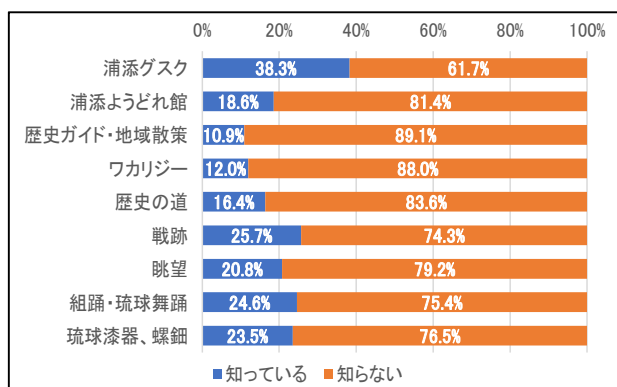
▲ 来訪頻度（来訪者アンケート）



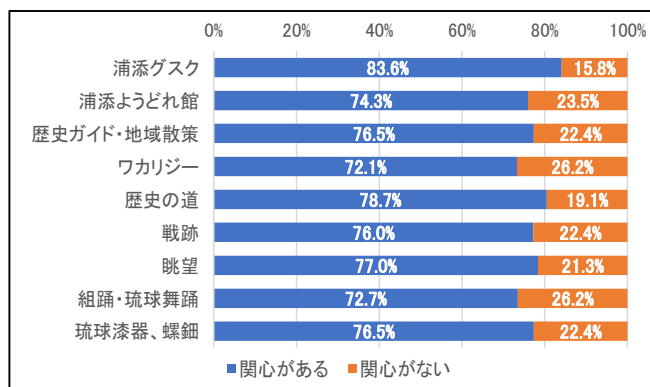
▲ 来訪頻度（Web アンケート、県外居住）

②浦添グスク周辺の文化観光資源の認知度・関心度

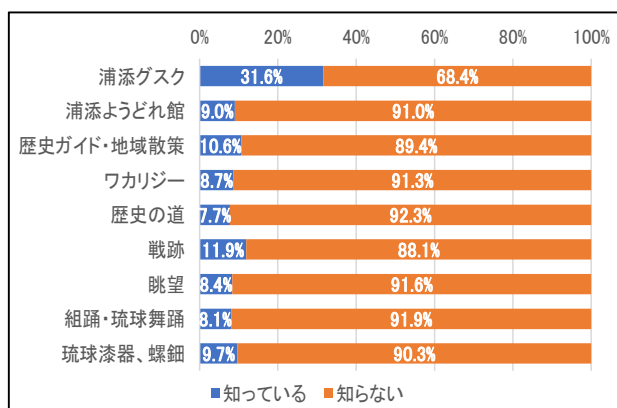
設問項目	来訪者アンケート	Webアンケート
認知度	県外居住者では、浦添グスク周辺の文化観光資源への認知度は約3割と低く、県内居住者においても「歴史ガイド・地域散策」「ワカリジー」の認知度が5割以下と低かった	県内・県外居住者とも浦添グスクの認知度（約3～4割）が他の文化観光資源よりも高いが、全体的に浦添グスク周辺の文化観光資源への認知度は3割以下と低かった
関心度	認知度が低い一方で、浦添グスク周辺の文化観光資源への関心度は、県内・県外居住者とも約8割と高い	認知度が低い一方で、浦添グスク周辺の文化観光資源への関心度は、県内・県外居住者とも「浦添グスク」「歴史の道」「眺望」「琉球漆器、螺鈿」が5割近い関心度がある



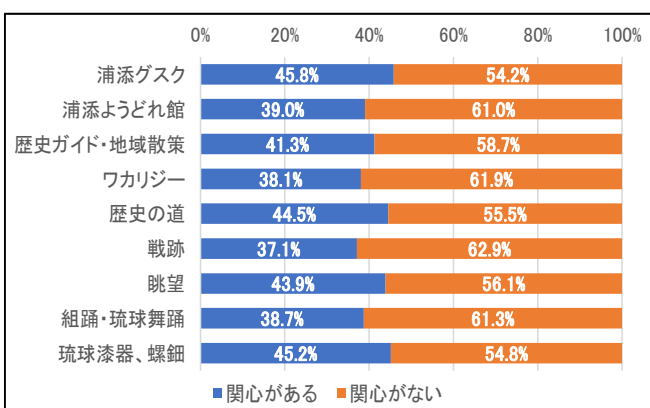
▲ 認知度（県外居住者、来訪者アンケート）



▲ 関心度（県外居住者、来訪者アンケート）



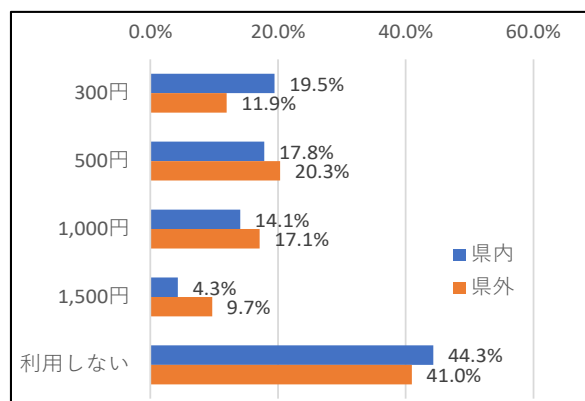
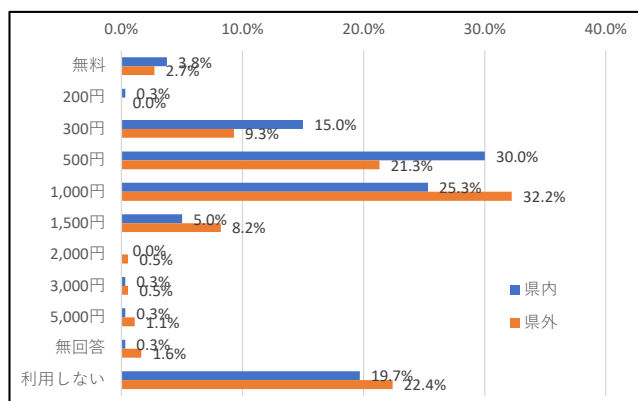
▲ 認知度（県外居住者、Web アンケート）



▲ 関心度（県外居住者、Web アンケート）

③「古都浦添」を周遊・散策すると仮定した場合の移動手段・イベント・宿泊施設に関するニーズと支出額

項目	来訪者アンケート	Webアンケート
周遊・散策する際の移動手段	のんびりと周遊できる「スローモビリティー」や、ピンポイント移動が可能な「デマンドタクシー」及び「シャトルバス」、自分で自由に移動可能な「レンタサイクル」等を利用しないとするのは2割程度であり、目的に応じて移動手段を選択できることが要望されている	のんびりと周遊できる「スローモビリティー」や、ピンポイント移動が可能な「デマンドタクシー」及び「シャトルバス」、自分で自由に移動可能な「レンタサイクル」等を利用しないとするのは4割弱程度と来訪者アンケートより割合は増えたものの、6割強は目的に応じて移動手段を選択できることを要望している
スローモビリティーへの利用金額	県内・県外居住者とも1,000円が最も多く、デマンドタクシーやバスは「500円」、レンタサイクルでは、県内・県外居住者とも300円～500円の金額帯が多い	県内・県外居住者とも1,000円が最も多く、デマンドタクシーやバスは県内居住者で「300円」、県外居住者で「1,000円」と支出金額に差があった。レンタサイクルでは、県内・県外居住者とも300円～500円の金額帯が多い
イベントへのニーズ及び利用金額	「古都浦添」の風景を活かしたVR等でのバーチャル体験や「古式祭」への参加ニーズがあり、利用金額としては、イベント全体を通して1,000円という回答が多かった	飲食を含めた周遊スタンプラリーや「古式祭」への参加ニーズがあり、利用金額としては、イベント全体を通して500円という回答が多かった
宿泊施設の利用金額	民泊施設やゲストハウスに対する県外居住者の利用金額設定で一番多かったのは、5000円であり、「ホテル等」については8,000円の金額設定の傾向が出ている	民泊施設やゲストハウスに対する県外居住者の利用金額設定で一番多かったのは、5000円であり、「ホテル等」については8,000円の金額設定の傾向が出ている
浦添グスク周辺に希望する宿泊施設	浦添グスク周辺において、どのような宿泊施設を希望するか確認したところ「キャンプ施設」との意見が多かった	浦添グスク周辺において、どのような宿泊施設を希望するか確認したところ、「民泊」「キャンプ施設」との意見が多かった



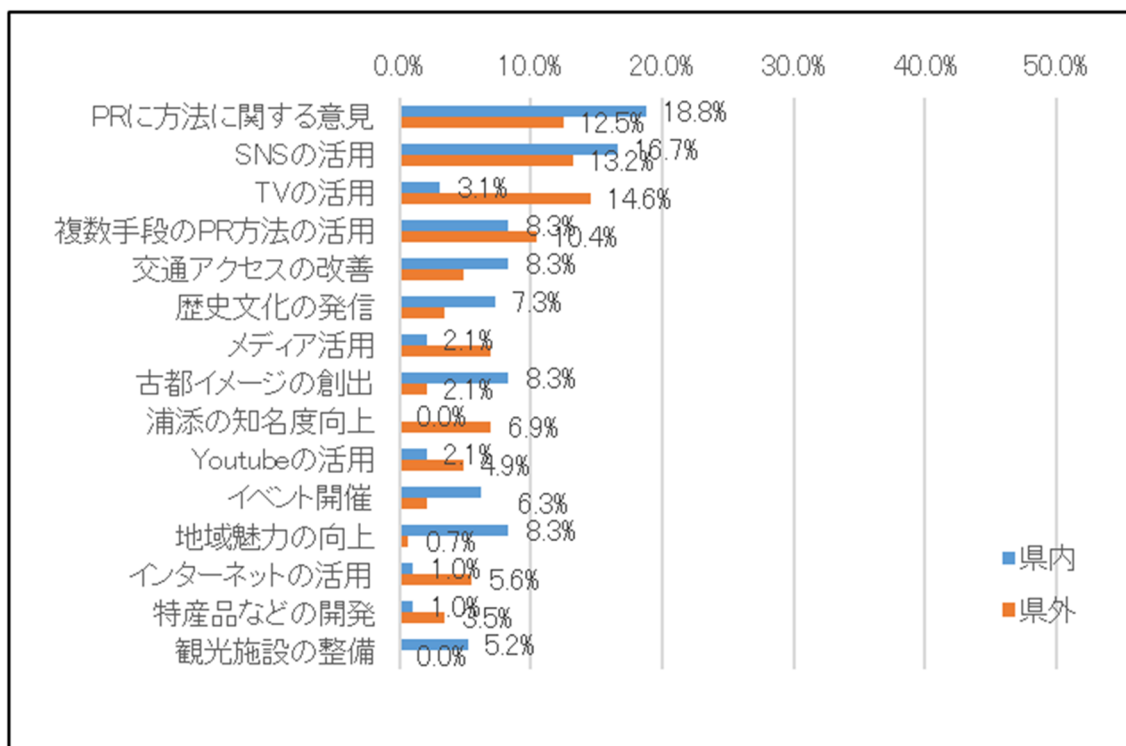
▲ 古式祭などのイベントへの参加・見学意向 (左：来訪者アンケート、右：Web アンケート)

④「古都浦添」を県内外・国外に PR していくために必要なことや主な意見、要望（来訪者アンケート）

- ・最も多かった意見としては、情報発信不足であり、SNSを活用し、より多くの人へ情報発信すべきとの意見が最も多かった。
- ・次いで、祭りの開催やガイド付きの観光プログラムの構築など、イベントの開催に対する意見が多く、子どもや若い人の呼び込みという意見もあった。
- ・3番目に多い交通アクセスに関する意見では、駐車場が少ないという意見や公共交通の充実、案内誘導の充実といった意見があった。
- ・また、トイレやベンチなどの休憩施設を増やしてほしいという意見も多々あった。
- ・その他意見としては、自然や歴史的な景観を守ってほしいという意見や浦添ようどれ館の環境整備という意見があった。

⑤「古都浦添」を県内外・国外に PR していくために必要なことや主な意見、要望（Web アンケート）

自由回答形式で、『古都浦添』を県内外・国外へPRしていくために必要なことや工夫すべきことを確認したところ「PR方法に関する意見」が最も多くなっている。また、「歴史文化の発信」や「古都イメージの創出」に関する意見も確認できた。



▲ 国内外に PR するために必要な意見、要望

4) 属性別クロス集計結果

ニーズ調査を行った来訪者アンケート及びWEBアンケートにおいて、属性（年齢、性別）によって、浦添グスク周辺の文化観光資源への認知度・関心度や周遊・散策、イベント、宿泊施設に対するニーズ・支払額に違いが見られるかクロス集計を実施した。

なお、詳細な属性別クロス集計データは資料編に整理している。

①対象調査及び属性別クロス集計設問

属性別クロス集計対象を表1に示す。

表1：調査対象及び属性項目別対象者

対象調査	属性	クロス集計対象設問
来訪者アンケート	①性別 ②年齢	・浦添グスク周辺の文化観光資源への認知度 ・浦添グスク周辺の文化観光資源への関心度 ・周遊・散策へのニーズ ・イベントへのニーズ ・宿泊施設へのニーズ
WEB アンケート		

②属性別クロス集計における結果

属性別クロス集計を行った結果、性別及び年齢で違いが見られた設問を以下に示す。

【性別によるクロス集計】

- ・性別による浦添グスク周辺の文化観光資源への認知度では、来訪者・Web アンケートとも男性が女性よりも1割程認知度が高かった。
- ・低速で走る小型自動車などスローモビリティへの利用ニーズは、男性よりも女性が1割程高くなっており、事業者ヒアリングにおける事業者からの意見（小型モビリティは歴史女子などにも人気がある）とも合致する。

【年齢によるクロス集計】

- ・年齢による浦添グスク周辺の文化観光資源への認知度は、来訪者アンケートでは年齢層が若くなるに連れて1割程認知度が低くなっている。また、Web アンケートでは年齢層に関係なく認知度は2割程度と低かった。
来訪者・Web アンケートとも県外における「戦跡」の認知度は、年齢層が若い「18～39 歳」で高くなっており、修学旅行による平和学習や映画などの影響ではないかと推察される。
- ・低速で走る小型自動車などスローモビリティへの利用ニーズは、年齢が若くなるに連れて1割程利用ニーズが高くなっており、事業者ヒアリングにおける事業者からの意見（小型モビリティは若い世代に人気がある）とも合致する。
- ・年齢によるイベントへのニーズの違いでは、県外の65歳以上の回答者において「VR等バーチャル散策体験」と「飲食店を含むコースを設定したスタンプラリー」の利用ニーズが約4割と低かった。一方で「古式祭などのイベント」では、年齢に関係なく7割以上が利用したいと回答している。
- ・年齢による宿泊施設へのニーズでは、65歳以上は「ゲストハウスや民泊」よりも「ホテル」を利用する傾向が見られる。

5) 海外居住者のアンケート結果

サンプル数

本調査において海外居住者は、12件であった。

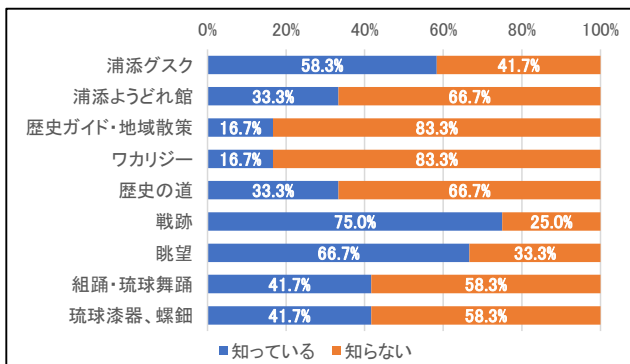
来訪者アンケート及び Web アンケートにおける主な意見

①回答者の属性

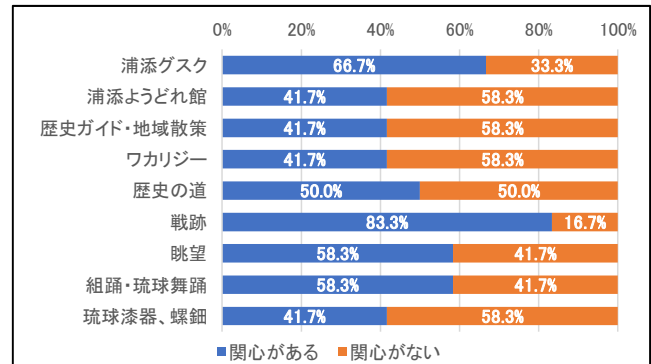
- ・回答者の性別は、男性が約 8 割、女性が約 2 割であった。年齢は 39 歳以下の比較的若い世代と 40 歳以上の割合は半々であった。
- ・来訪頻度では、2 回以上来訪したと回答した割合が 5 割を超えており、リピーター率が高い。
- ・居住地では、台湾が約 3 割と最も高く、次いでアメリカ、韓国、オーストラリア、ペルー、カナダの順となっている。宿泊地としては、那覇市が約 3 割と最も高く、次いで宜野湾市、読谷村、与那原町の順であった。
- ・調査場所までの移動手段では、小型自動車が多く、次いでモノレールとなっている。

②浦添グスク周辺の文化観光資源の認知度・関心度

- ・認知度・関心度とも、戦跡が約 8 割と最も高く、ハクソーリッジの影響が推察される。
- ・認知度では、「浦添ようどれ館」「歴史ガイド・地域散策」「ワカリジー」「歴史の道」が低い。
- ・関心度では、「浦添グスク」「歴史の道」「戦跡」「眺望」「組踊・琉球舞踊」で 5 割以上と高い関心が持たれている。



▲ 認知度



▲ 関心度

③「古都浦添」を周遊・散策すると仮定した場合の移動手段・イベント・宿泊施設に関するニーズと支出額

- ・スローモビリティ、デマンドタクシー・シャトルバス、レンタサイクルの内、利用ニーズが高かったのはレンタサイクルであった。利用金額では、1,000 円が最も多かった。
- ・イベントでは、飲食を含めた周遊スタンプラリーや「古式祭」への参加ニーズがあり、利用金額としては、イベント全体を通して 1,000 円という回答が多かった。
- ・民泊施設やゲストハウス、ホテル等に対する利用金額設定で一番多かったのは 5000 円であった。

④「古都浦添」を県内外・国外に PR していくために必要なことや意見、要望（来訪者アンケート）

- ・空港にインフォメーションで PR したらいい。テレビ CM
- ・ファミリー向けの施設をもっと充実させる。

【参考】浦添市内における宿泊可能客室数等の整理

浦添市内における受け入れ体制の現況として、市内の宿泊施設の客室数及び1泊の宿泊料金について下表に整理した。

その結果、浦添市内の合計客室数は246室であった。

宿泊料金区分では、5,000～10,000円/泊が8施設（38%）と最も多く、次いで5,000円未満/泊が5施設（24%）、10,000円/泊以上の施設は4施設（19%）であった。

番号	業種	ヒアリング対象	所在地 (市町村)	客室数	宿泊料金 (1泊大人1名)
1	宿泊業	HOTEL COZYSTAY IN 港川	浦添市	13室	¥6,900
2	宿泊業	HOTEL Y'RISE To URASOE	浦添市	18室	¥6,900
3	宿泊業	HOTEL AlaCOOJU OKINAWA	浦添市	120室	¥5,625
4	宿泊業	D-and Stay. 5 Resort Okinawa(株式会社ディーアンド・ラボ)	浦添市	5室	¥11,400
5	宿泊業	旅の宿 龍球	浦添市	1室	¥6,500
6	宿泊業	vent du vent.NJ最上階(民泊施設)	浦添市	1室	¥9,300
7	宿泊業	Wind 牧港	浦添市	1室	¥8,100
8	宿泊業	ホテルキング	浦添市	9室	¥3,000
9	宿泊業	SALTY HOUSE	浦添市	1室	¥24,750
10	宿泊業	GREEN HOUSE(グリーンハウス)	浦添市	1室	記載なし
11	宿泊業	プラネットコア	浦添市	1室	記載なし
12	宿泊業	BULE HOUSE URASOE	浦添市	1室	記載なし
13	宿泊業	ホテルトーマス牧港ヴィラ	浦添市	15室	¥5,615
14	宿泊業	Mr. KINJO in URASOE	浦添市	18室	¥3,300
15	宿泊業	アルセ琉球 ハーバーステイ	浦添市	9室	¥4,700
16	宿泊業	Popular牧港	浦添市	12室	記載なし
17	宿泊業	ホテルハーベス沖縄	浦添市	16室	¥2,750
18	宿泊業	Vacation STAY 80184	浦添市	1室	¥12,359
19	宿泊業	Vacation STAY 5732	浦添市	1室	¥5,880
20	宿泊業	レッドドラゴン沖縄	浦添市	1室	¥3,375
21	宿泊業	外国人住宅 Kuruchi2	浦添市	1室	¥10,316
			合計客室数	246室	

	料金区分	対象施設	構成比
宿泊料金	5,000円未満	5施設	24%
	5,000～ 10,000円	8施設	38%
	10,000円以上	4施設	19%
	記載なし	4施設	19%
合計		21施設	

(2) 事業者ヒアリング

事業者ヒアリングを25の事業者に実施し、事業者の立場からみたニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点、並びに事業を実施すると想定した場合の経費試算調査を行った。整理結果を以下に示す。なお、事業者毎の個別のヒアリング結果は資料編に整理している。

1) 映像等イベント業（浦添グスク等を活用したイベント・PR）

【フォトウェディングや琉装での記念撮影】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・認知度が足りない。お客様から浦添市でのニーズがあれば検討可能 ・屋外でも安定した撮影箇所の確保が必要（天候対策） ・琉装は人気がなく運営面で扱いづらい（実績から1%程度）
経費試算 （想定金額）	・開設費：現在の事業環境で事業開始できるため不要 ・年間運営費：200万～300万（交通費+人件費） ・想定条件：1人雇用の場合 ・想定売上：4,000万円 コロナの影響もあり現時点では事業規模を判断できないが、これまでのフォトウェディング実績から年間約200組の撮影、料金10万円/組から推計 ※恩納村の事例では、恩納村商工会の再構築補助金を活用している（金額：約1回あたり50～200万円）

【PR用ドラマ・映画の制作】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・クリエイターとしては浦添グスクに関する過去の映像を製作したいといった魅力があり、一定のニーズもあると想定している ・どのようなコンテンツを製作するかが非常に重要 ・歴史ドキュメンタリーだと歴史好きだけとなり、一般的に集客が期待できない ・ようどれやグスクを通じ主人公が成長するストーリーは一般受けする
経費試算 （想定金額）	・開設費：100万～200万円 ・年間運営費：不要 ・想定条件：撮影内容は10分程度、撮影期間は2日間を想定、県内人材キャスティングの場合は納品までを2～3か月で可能 ※運営費は基本無料、コンテンツ更新やテレビ放送の場合は別途費用 ※文化庁からの補助金事業を活用（金額：約1千200万円/1回）

【ARやVR技術を活用した体験型コンテンツの制作】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・実際に現地を確認しないと何とも言えないが、岩手県平泉町で製作したVRゴーのようなものが最適である。
経費試算 （想定金額）	・開設費：数百万～数千万円（コンテンツにより大幅に変動） ・年間運営費：30万～50万 ・参考実績：旅するトビラ、タイムスコープ、ARガイド、どこでもドア

2) 交通・運輸業（浦添グスク周辺の周遊・散策の移動手段）

【EV 車などのスローモビリティサービス】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・現在よりも 3%～5%程度のニーズの増加が見込めると想定している ・浦添グスク周辺の道路は狭いが、道路幅員にあわせたサイズの車両や、公道走行可能な車両など移動ニーズに合致した車両の提供が可能である ・EV 車を含む小型モビリティは、グスク周辺の周遊（浦添グスク～浦添大公園～ハクソーリッジ）に適しており、若い世代や最近流行りの歴史女子などにも人気がある ・自動運転バスはどの世代でも安心・安全に移動ができる。 ・将来的には完全自動運転車両も公道走行が可能となるため、今後はドライバーよりもガイドの育成が重要である
経費試算 （想定金額）	【自動運転バスの場合】 ・開設費：1.5 億円 ・年間運営費：1 億円 ・想定条件：車両 5 台、人員 17 人※現在と同一規模の場合 ・想定売上：現状は無料運賃制であるが、利用者数は概ね 200 人日である 【EV 車の場合】 ・開設費：1,000 万円 ・年間運営費：730 万（2 万円/日×365 日） ・想定条件：10 人/台（ハイエース 1 台、EV 車 3～5 台、運転手 3 人程度） ・想定売上：乗車人数による

【デマンド交通】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・実現については問題なし ・体力のない高齢者や家族などの大人数の移動（ハイエースワゴンタイプ（定員 10 人程度）の車両）が最適である ・ニーズの面では、歴史文化のみの観光資源の場合、大幅な観光客増は見込めない。ただグスク周辺に宿泊施設を整備することで、周辺や屋富祖方面での食事や飲食の機会が増え大きな観光需要が期待できる。 ・浦添グスク～浦添大公園～ハクソーリッジ～キャンプキンザー～西海岸のルート、東西をつなぐルートは必要。
経費試算 （想定金額）	・開設費：1,000 万円 ・年間運営費：730 万（2 万円/日×365 日） ・想定条件：10 人/台（ハイエース 1 台、EV 車 3～5 台、運転手 3 人程度） ・想定売上：乗車人数による

【シャトルバス】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・那覇市や宜野湾市の宿泊施設との連携や世界遺産になればニーズは高まると思うので、需要やニーズから協力できる部分は積極的に協力したい。 ・新規ルートの場合は交通会議による合意形成と許認可が必要である。そのため、既存路線バスのルート上での運行が現実的である。 ・沖縄県内においては、バスのドライバー不足が深刻な課題である。 ・浦添グスク周辺は狭幅員の道路が多数存在しているため、前田駅などを交通結節点として整備する必要がある。
経費試算 (想定金額)	・開設費：県内バス事業者のため不要 ・年間運営費：3,000万円 ・想定条件：2台/日×1往復/時の定期路線 ・想定売上：乗車人数による

【レンタルサイクル】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・市の東側は交通インフラが少ないことから、シェアサイクルを実現しているが、観光利用よりも一般利用が多い、また、利用動線においても浦添グスク周辺の利用は少ない状況である。
経費試算 (想定金額)	・市のシェアサイクル事業であるが収支はない（民間業者が実施）

【人力車について】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・人力車は、前田駅から浦添グスクまで高低差があり段差もあるため導入は難しい。 ・軽車両のため、特段の免許や許認可は不要（地域との合意形成が必要） ・車両さえあれば個人でもすぐに参入可能であることから、土日祝日や観光のトップシーズンのみの営業が可能である。 ・段差や高低差がある場所では運行が厳しいことから、周遊ルートによっては段差解消等の路面の工事費が発生する。 ・駅からグスクまでの区間の短時間コースでは収益が期待できない。
経費試算 (想定金額)	・開設費：4,000万、年間運営費：2,400万円 ・想定条件：車両5台（170万×5台）、人員10人（20万×10人×年） ※事務所経費、事務所家賃・車庫費用は想定外 ・想定売上：5億円/年（利益率20%） 岡山倉敷地区（2022年実績）

3) 飲食業

【飲食（沖縄そば、食堂）】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・ ニーズはあると思う ・ 西海岸沿いや浦添グスク、大公園で休憩施設があると流行ると思う ・ 浦添市内は飲食店が多いが観光客が来るような店舗が少ない ・ 浦添市自体まだ認知度が低い、一方で観光客が増えると道路が混雑することを懸念している
経費試算 (想定金額)	・ 開設費：650 万円 ・ 年間運営費：125 万円 ・ 想定条件：12 席 ※現在営業中の店舗があるため、浦添市でもう 1 店舗を開設すると想定 ※当食堂は、職員向けの食事の提供が第一目的のため、テイクアウトや弁当の販売も検討していない

【飲食（洋菓子店）】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・ ニーズはあると思う ・ 以前に、浦添市からの協力依頼で桑の実と桑の葉を利用してチーズケーキを試作したが、その時は大量生産に向いていない材料だった。機会があれば大量生産が可能となる新作を考えていきたい ・ 市が管理する駐車場をより多く整備し、市内の交通渋滞の緩和策解決が先である
経費試算 (想定金額)	・ 開設費：5,000 万円 ・ 年間運営費：2.8 億円（売上額の 40%） ・ 想定条件：1 日 80 人～150 人の来店の場合 ※浦添市内の別場所で開設する場合を想定

4) 宿泊業

【ビジネスホテルタイプの宿泊施設】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・リゾートホテル用地は確保できないためビジネスホテルとなる。 ・ペンション・旅館タイプは、しばらくは流行しないと考えている。 ・浦添市東側は建物密集地のため、大規模な宿泊施設を建設するのは難しいが、西側であれば建設可能である ・施設としては、デマンドバスで市内の宿泊施設を結ぶルートで観光客を周遊させるなどが良い。高齢者をターゲットとして、地域の病院と提携するなどもひとつの手と考える。
経費試算 (想定金額)	・開設費：不明、年間運営費：3,600万円 ・想定条件：25部屋を想定

【中規模のリゾートホテルタイプの宿泊施設】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・浦添市東側は建物密集地のため、シティタイプのホテルは厳しい（理由は、用地確保の問題、宴会等も少ないと想定されるため） ・50人～100人の中規模ホテルであれば検討できる
経費試算 (想定金額)	・開設費 約100億円、年間運営費：不明 ・想定条件：120部屋 ※現在開設したばかりのため現時点の宿泊施設を参考値として記載

【長期滞在型の宿泊施設】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・今後、浦添グスク周辺にホテルを開設するのであれば、ビジネスタイプは厳しいと考えており、広め部屋で長期滞在用のホテルと考えている ・医療とかイベントとか観光で来沖する方がゆっくり滞在できる場所にしてほしい ・ニーズはあるが、観光地としての整備が進んでいないことが懸念される ・浦添グスクは、とても可能性がある観光地であり景観も良いので、ぜひブランディング構想を進めていただきたい
経費試算 (想定金額)	・開設費 6億円、年間運営費：1.1億円、売上：1.8億円 ・想定条件：20部屋 ※開設したばかりのため現時点の宿泊施設の参考値

【西海岸におけるコテージタイプの宿泊施設】

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・西海岸沿いにコテージタイプの宿泊施設はニーズがあると思う ・西海岸沿いは北谷町のような街並みであれば、多くの人が集うと思う ・浦添市の観光地としての知名度が低い ・浦添グスクに関しては、沖縄県全体で連携して知名度は上げていく
経費試算 (想定金額)	・開設費：不明、年間運営費：不明 ・想定条件：200部屋規模

5) 関係団体（歴史ガイド・観光協会・商工会議所）

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・ ようどれ館の年間利用者は約 30,000 人だが、入館収入でカウントのため実際には 2～3 倍程度の人数がグスク周辺に来ていると考えている。ガイド体制は万全であり 1 回 20 名程度は対応可能で、500 名規模の東京の修学旅行生も対応した経験がある。前田駅前に設置予定の観光案内施設には、ガイドを案内できる友の会にも 1 席加えるようお願いしたい。前田駅からアクセスする際迷っている来訪者がおり、案内標識の設置が必要。また、浦添グスクの古琉球性をもっとアピールする場として歴史館などの施設が必要 ・ 首里城と浦西駅からのルートにガイドをつけて、広域的なストーリー仕立ての周遊が必要。沖縄に訪れる修学旅行生に平和学習のニーズがある。大型バスが入る駐車場が少なく、道幅が狭い。浦添グスクを中心とした周辺移動のための二次交通としてデマンドバスが最適な交通手段 ・ 古都浦添ブランディング構想を進める場合、協賛する企業は沢山あると思うので実現は可能。しかし、問題として構想を進める際に誰がリードするのか、また必要な所に予算化して実現を図っていく必要がある。コテージ民泊（D and Stay）のような部屋からモノレールが潜る光景や浦西駅が見れる民泊は、新しいスタイルで良い。古都浦添をイメージしたデザインをいろんなお土産品に入れていきたい。道の駅に卸している製菓企業も 3 つくらいある。商工会議所としては、ようどれ館とコラボして食に関するイベントを創っていきたいと思っている
経費試算	※収益事業ではないため経費試算調査は未実施

6) 自治会

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・ 桑の実のワインや織物の特産品の活用、てだこまつり・てだこウォーク等イベントと一体化した取組み、デマンドバスなどの移動手段の確保への要望がある。特に仲間では、地域の生活体験、拝所や井戸の見学に取り組んでいる。グスク周辺の景観整備も必要。配慮事項としては、観光客の増大による交通渋滞があがっている。浦添市という地域を全国に知ってもらうのはとても嬉しいが、民泊の受け入れは時期尚早。
経費試算	※収益事業ではないため経費試算調査は未実施

7) 行政

ニーズ及び事業実現にあたっての課題・留意点	・ 東側は交通インフラが少ない状況を踏まえて、民間運営によるシェアサイクルを導入しているが、現時点では観光利用よりも一般利用が多い ・ てだこ浦西駅から浦添グスクや西海岸までの路線バスルートは現在検討中
経費試算	※収益事業ではないため経費試算調査は未実施

(3) 来訪者数等調査

1) 浦添グスク周辺の来訪者の予測

既存資料として浦添グスクの南エントランス側の出入り人数と、浦添市観光振興計画より浦添グスク周辺の来訪者数を予測した。

新型コロナの影響もあることから、正確な数値は不明であるが、概ね年間3万人前後の来訪者があると推察した。

(参考) 浦添大公園 年間公園入園者集計表

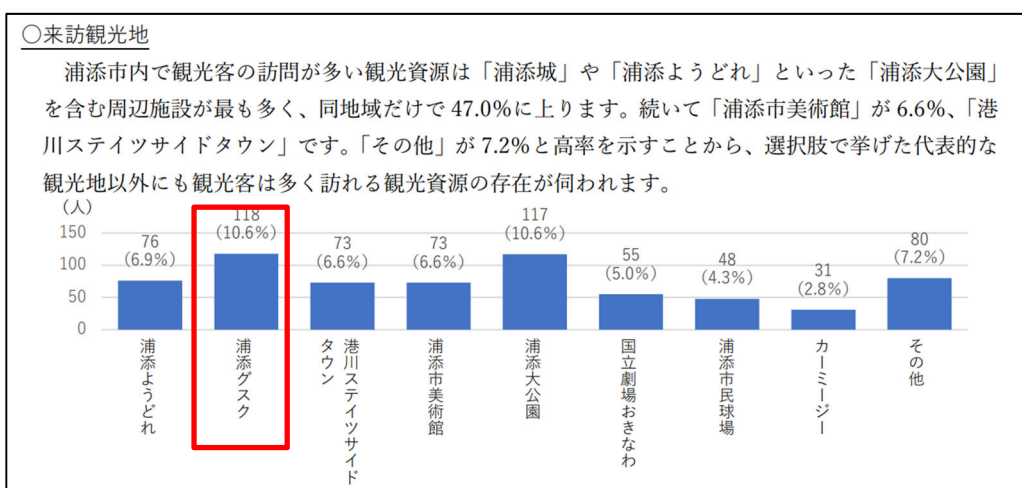
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	合計
4月	41	384	2,625	3,009
5月	85	290	4,736	5,026
6月	194	0	6,974	6,974
7月	198	62	2,537	2,599
8月	80	0	1,815	1,815
9月	126	0	1,032	1,032
10月	31	566	1,868	2,434
11月	262	632	1,319	1,951
12月	175	834	1,646	2,480
1月	491	387	－	387
2月	244	485	－	485
3月	323	1577	－	1,577
合計	2,250	5,217	24,549	29,766

※令和2年度～3年度は新型コロナウイルスの影響あり

出典：沖縄県土木建築部都市公園課

(参考) ようどれ館の年間利用者数 (NPO 法人うらおそい歴史ガイド友の会報告による)

- ・年間利用者は約 30,000 人 (入館収入でカウント)



出典：浦添市観光振興計画 平成30年 浦添市

2) 駐車場収容台数調査

浦添グスク周辺の駐車場の収容台数を現地目視調査で実施した。

浦添グスクの駐車場は、浦添大公園の駐車場が主に利用されており、A1～A3駐車場が浦添グスクに近いことから最も利用されている。

しかしながら、ウォーキング利用等では周辺のB1～B3、C1～C2等も利用されていることから、全体として小型車280台、大型車9台、身障者用駐車マス11台の合計300台分が駐車場として利用が可能である。



周辺駐車場駐車マス数

位置	小型	大型	身障者	合計
A1駐車場	29	4	0	33
A2駐車場	24	2	0	26
A3駐車場	9	1	1	11
浦添城跡駐車場	17	0	1	18
B1駐車場	24	0	2	26
B2駐車場	43	0	1	44
B3駐車場	46	0	2	48
C1駐車場	50	0	2	52
C2駐車場	26	2	2	30
公園前駐車場	12	0	0	12
合計	280	9	11	300

▲周辺駐車場の収容台数

4.2 構想案の実現可能性及び事業性検討

来訪者・Web アンケート及び事業者ヒアリング結果、検討協議会の意見を踏まえ(1)周遊・散策、(2)イベント・飲食、(3)宿泊施設の実現可能性及び事業性について検討した。

(1) 周遊・散策

【EV 車などのスローモビリティサービス】

実現可能性及び事業性	・来訪者・Web アンケート結果からも 6 割以上がスローモビリティを利用すると回答していること、アンケート調査及び事業者ヒアリングの両方において女性のスローモビリティに対するニーズがあることから EV 車などのスローモビリティの導入に向けた検討の余地はある ・来訪者・Web アンケート結果よりスローモビリティの利用金額は 1,000 円が最も多かった ・てだこ浦西駅～浦添前田駅～浦添グスク周辺の移動には需要が見込める
------------	---

【デマンド交通】

実現可能性及び事業性	・来訪者・Web アンケート結果より 6 割以上がデマンド交通を利用すると回答しており、実施できる事業者もいることから導入に向けた検討の余地はある ・来訪者・Web アンケート結果よりデマンド交通の利用金額は県内居住者で 300 円、県外居住者で 1,000 円が最も多かった ・浦添グスク周辺に宿泊施設を整備することで、周辺や屋富祖方面での食事や飲食の機会が増え大きな観光需要が期待できる（事業者ヒアリングより） ・デマンド車両は、高齢者や家族などの大人数の移動に適し、ハイエースクラスの車両が最適である（事業者ヒアリングより） ・モノレール駅から東側の歴史ポイントを通して西海岸までに至るルートには需要が見込める
------------	--

【シャトルバス】

実現可能性及び事業性	・来訪者・Web アンケート結果より 6 割以上がシャトルバスを利用すると回答しており、実施できる事業者もいることから導入に向けた検討の余地はある ・一方で、新規ルートの検討は交通会議による合意形成と許認可が必要なため、実現可能性を考慮すると既存路線バスのルート上での運行が現実的（事業者ヒアリングより） ・ニーズや採算性があえば既存路線バスルートを活用し定期運行が可能（事業者ヒアリングより）
------------	---

【レンタルサイクル】

実現可能性及び事業性	・ 来訪者・Web アンケート結果より 6 割以上がレンタルサイクルを利用すると回答しており、浦添グスク周辺でも民間業者によるシェアサイクルを実施しているが、現状は観光客の利用は少ない。 ・ 観光客のニーズはあることから、浦添グスクが広く認知されれば、レンタルサイクルの事業性は高いと思われる。
------------	---

【人力車について】

実現可能性及び事業性	・ 来訪者・Web アンケート結果より 6 割以上が利用すると回答しておりニーズはある。また、人力車を運営している事業者からも 1 km～2 km 範囲に複数の観光ポイントがあり、約 60 分（30 分乗車/30 分観光）程度のコースを設定することで十分に収益性を確保できるとあった ・ しかし、人力車を運営する事業者から浦添前田駅～浦添グスク周辺は高低差が大きいため導入は難しいとの結論であった
------------	--

【案内サインの整備について】

実現可能性及び事業性	・ 来訪者・Web アンケート、事業者ヒアリング結果から、周遊観光の際に迷っているとの意見があったことから案内サインの設置が必要と思われる
------------	---

(2) イベント・飲食

【古式祭】

実現可能性及び事業性	・ 来訪者・Web アンケート結果より 6 割が古式祭を利用すると回答しており、ニーズは高く、検討協議会からも当時を再現するための文献が残っており当時の様子を再現することは可能であるとのことであった。また、古式祭への支払意思もあることから、古式祭の実現可能性は高いと推察される ・ 利用金額では、500～1,000 円と回答した方が多い
------------	--

【VR 等を活用したバーチャル散策体験】

実現可能性及び事業性	・ 来訪者アンケートでは約 7 割、Web アンケートでは約 5 割が VR 等を活用したバーチャル散策体験を利用すると回答しており、事業者ヒアリング結果からも協力可能な事業者がいることから、実現可能性は高いと推察される。検討協議会からもソフトコンテンツの充実が意見として挙がっている ・ どこでもドアタイプのコンテンツであれば 8 畳分程度のスペースで十分でありニーズは高い（事業者ヒアリングより）
------------	--

【飲食を含むコースを設定したスタンプラリー】

実現可能性及び事業性	・ 来訪者アンケートでは 6 割以上、Web アンケートでは約 5 割が利用すると回答しており、利用ニーズもあり、事業者ヒアリング結果からも協力できる事業者がいることから実現可能性は高いと推察される。浦添市内で体験したことや食したことを人から人へ紹介していく体験リレーイベントは面白いし、協力可能（事業者ヒアリングより）
------------	--

【お土産品の開発】

実現可能性及び事業性	・ ご当地メニューの開発に興味があり、協力可能な事業者がいることから、お土産品の開発も実現可能性は高いと推察される。古都浦添をイメージしたお菓子は、お土産品として観光消費額増大が見込める（事業者ヒアリングより）
------------	---

【フォトウェディングや琉装での記念撮影】

実現可能性及び事業性	・ 来訪者アンケート結果では 6 割以上が利用すると回答しているが、Web アンケート結果では約 6 割が利用しないと回答している。年齢別でみると来訪者・Web アンケートとも 18～39 歳では約 6 割が利用すると回答しており、フォトウェディングの特性上、若い世代については事業の可能性があると想定される ・ 浦添市でのニーズがあれば事業として検討できると事業者ヒアリングより回答があったことから、実現可能性としては高いと推察される
------------	--

（３）宿泊施設

【ビジネスホテルやリゾートホテル等】

実現可能性及び事業性	・ 来訪者・Web アンケートとも県外居住者では約 8 割がホテル等を利用すると回答しており、事業者ヒアリングからもビジネスホテルやリゾートホテル、長期滞在型のホテルについては検討の余地があると回答があった ・ 利用金額では、来訪者・Web アンケートとも県外居住者では 8,000 円が最も多く県内居住者では 5,000 円が最も多かった。なお、R4 年度時点における浦添市内の宿泊施設の宿泊料金区分では 5,000～10,000 円/泊が最も多く、宿泊金額のニーズを満たしている ・ 事業性については、事業者ヒアリングより観光地としての整備が進んでいないことが懸念されているが、デマンドバスで市内の宿泊施設を結ぶルートで観光客を周遊させることで観光需要が期待できるとの意見があった
------------	--

【ゲストハウス・民泊】

実現可能性及び事業性	・ 来訪者アンケートでは約 7 割、Web アンケートでは約 5 割がゲストハウス・民泊を利用すると回答している。一方で事業者ヒアリングでは、ペンション・旅館タイプはしばらく流行らないという意見があった ・ 利用金額では、来訪者・Web アンケート結果とも 5,000 円が最も多かった
------------	---

【キャンプ施設】

実現可能性及び事業性	・ 来訪者・Web アンケートとも浦添グスク周辺に希望する宿泊施設として「キャンプ施設」と回答した方が多かった
------------	---

第5章 構想案の実現に向けた計画の検討

構想案の実現に向けた計画の検討

第3章で策定した浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想の実現に向け、来訪者・Web アンケート、事業者ヒアリング結果や構想案の実現可能性及び事業性検討結果を踏まえ、取り組み内容や実施時期、実施主体について検討協議会で委員から出た意見を反映させながら検討し今後の事業計画（案）を作成した。特に、構想の実現のためには「古都浦添」のイメージ形成と共有が重要であり、マスタープランの策定が必要不可欠との意見が第3回検討協議会にであった。以下に今後の事業計画（案）を示す。

なお、検討・意見交換結果については、第6章 協議会の開催にて整理している。

【今後の事業計画（案）】

「古都浦添」マスタープランの策定

※「古都浦添」のイメージ形成と共有等

【取り組み内容】

1. 古都浦添の観光情報発信(周知・啓発事業)

- ・SNS(誰もが自発的に発信する地域参加型のPR事業)
- ・観光交流拠点施設(案内窓口)の開設
- ・浦添グスクようどれ館・歴史ガイド情報の発信
- ・多言語による情報発信
- ・学校・行政による地域学習・平和学習の実施

2. 古都浦添のイベント・企画

- ・古琉球の世界観演出等ソフトコンテンツの制作
- ・古式祭りや桜祭りなどの企画・開催
- ・古都浦添のお土産品の開発・販売
- ・飲食や宿泊施設との連携

3. 「古都浦添」の周遊・散策プログラムの開発

- ・浦添グスク周辺の歴史文化観光資源の活用(文化財、戦跡など)
- ・富裕層向けの高付加価値観光プランの開発
- ・カフェやお土産品との組み合わせ

4. 「古都浦添」の観光整備

- ・浦添前田駅から浦添グスクやようどれ館までの案内板等の整備
- ・散策園路・トイレなどの整備

5. 目的に合った交通モードの導入

- ・浦添グスク内では小型モビリティ、てだこ浦西駅～浦添グスク～国立劇場の周遊にはデマンド

6. グスク周辺の集落環境・景観形成

- ・地域による集落環境保全活動(支援)
- ・観光・景観まちづくりの検討・実施

7. 文化財等の保全整備活用

- ・浦添グスクの城壁復元・活用
- ・歴史の道の整備・活用
- ・(仮)「古都浦添」歴史資料館等の充実

【実施時期】

・実施主体

【短期】

実施主体：行政(県・市)、地域住民、事業者、関連団体による連携

【短期】

実施主体：事業者、浦添市観光協会、浦添商工会議所、市観光振興課、市教育委員会、自治会による連携

【短期】

実施主体：歴史ガイド友の会、浦添市観光協会、市観光振興課、浦添商工会議所、ホテル、交通事業者による連携

【短期】

実施主体：市美らまち推進課、市文化財課、市観光振興課、地域、事業者等による連携

【中期】

実施主体：都市計画課、事業者による連携

【短期】

【中長期】

実施主体：市美らまち推進課、市文化財課、市観光振興課、地域

【中長期】

実施主体：文化財課

第6章 今後の課題

今後の課題

検討協議会で策定した「古都浦添」ブランディング構想案の実現に向けて、今後の事業計画を作成した。次年度以降、事業計画を推進していくための課題を下記に整理した。

【「古都浦添」マスタープランの策定】

「古都浦添」のイメージ形成と共有のため、「古都浦添」マスタープランを策定する必要がある。

【実施主体による具体的な事業検討】

今後の事業計画（案）で示した7つの項目（①古都浦添の観光情報発信（周知・啓発事業）、②古都浦添のイベント・企画、③「古都浦添」の周遊・散策プログラムの開発、④「古都浦添」の観光整備、⑤目的に合った交通モードの導入、⑥グスク周辺の集落環境・景観形成、⑦文化財等の保全整備活用）について、実施主体が主となり関係機関等と連携し具体的な事業内容を検討する必要がある。

【ネットワークの形成】

「古都浦添」のコンセプトやルールの見守り、役割分担の確認、各実施主体が進める事業計画の進捗状況の確認・共有、情報の仕組みづくりをする場として、（仮）「古都浦添」観光まちづくりネットワークを形成する必要がある。

「古都浦添」マスタープランの策定 ※「古都浦添」のイメージ形成と共有等

《事業実施のための要件整理》

(1) 実施主体による事業検討

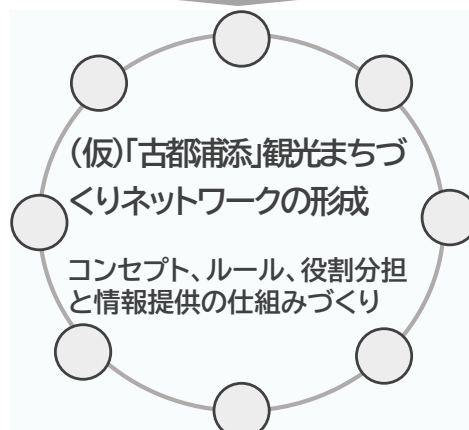
例えば、社会実験としての、

- ①「古都浦添」のモニターツアー企画・実施
- ②「古都浦添」のイベント
 - 桜・古式祭り
 - 古琉球の世界観を演出した映像やVR等体験型ソフトコンテンツの制作
 - お土産品の開発・販売
- ③SNS・YouTubeを活用し「古都浦添」の観光情報発信

(2) 各事業の資金調達

各省庁の補助金・交付金／クラウドファンディングなど

各事業実施主体及び連携体制の構築



第7章 協議会の開催

7.1 目的

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、人々の行動様式・生活様式・働き方が変化する中、ポストコロナを見据え、新たに関心の高まっている観光ニーズを地域にしっかりと取り込み、持続的に観光地経営を実現できるようにしていく必要がある。持続的な観光地経営の実現を図るためには、将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながるよう、地域・日本のレガシーとなる観光資源を形成することが重要である。

こうした地域のレガシー形成には中長期的な事業実施が必要であることから、本検討協議会では、浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想案（以下「構想案」という。）の検討や実現可能性調査、計画作成について検討・提案を行うことを目的とする。

7.2 検討協議会構成委員名簿

検討協議会 名簿		
役割	所属・役職	氏名
会長	琉球大学 島嶼地域科学研究所 所長 琉球大学大学院観光科学研究科（併任）	波多野 想
副会長	内閣府地域活性化伝道師(元浦添市図書館長)	上里 隆史
委員	琉球大学非常勤講師／NPO沖縄の風景を愛さずる会理事	安里 直美
委員	浦添市市民部経済文化局観光振興課 課長	小林 晋作
委員	浦添市教育委員会文化財課 課長	慶田 朗
委員	浦添市都市建設部美らまち推進課 課長	徳永 徹
委員	（一社）浦添市観光協会 事務局長	千住 直広
委員	NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会事務局長	玉那覇 清美
委員	浦添商工会議所 部長	新垣 直美
委員	歴史研究会	嵩元 盛兼 富川 盛充
委員	沖縄県 土木建築部都市公園課	役職固定なし
委員	沖縄県 文化観光スポーツ部観光振興課	役職固定なし

7.3 検討協議会開催結果

(1) 検討協議会開催スケジュール

検討協議会を3回開催した。会議は、新型コロナウイルス感染拡大状況に合わせ、マイクの使用、アクリル板の設置、空気洗浄機及び扇風機による換気など感染対策を行い対面形式により浦添市役所会議室にて実施した。

検討協議会の開催スケジュール	
第1回 1/23 (月) 10:00~12:00	下記に関する検討、意見交換 ・ 浦添グスク周辺地域の歴史・土地利用・位置付けの整理 ・ 浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想案の検討（方向性、留意点、概念図、資源情報図） ・ 実現可能性調査に向けて（調査方法、実施内容）
第2回 2月24日 (金) 10:00~12:00	下記に関する検討、意見交換 ・ 第1回検討協議会結果の報告 ・ 実現可能性調査結果報告 ・ 「古都浦添」ブランディング構想実現に向けた事業計画の検討
第3回 3月10日 (金) 10:00~12:00	下記に関する意見交換、協議 ・ 第2回検討協議会結果の報告 ・ 実現可能性調査結果報告（属性別クロス集計） ・ 「古都浦添」ブランディング構想案及びその実現に向けた事業計画の検討



写真：検討協議会開催状況

(2) 検討結果

第1回～第3回検討協議会における検討結果を以下に示す。

なお、検討協議会資料及び議事要旨は資料編にて整理している。

1) 第1回検討協議会

基礎調査で整理した浦添グスク周辺地域の歴史・土地利用・位置付けや浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想案における方向性や留意点、概念図、資源情報図、実現可能性調査に向けた調査方法、実施内容などについて検討・意見交換を行った。

委員からの主な意見	対応
【本事業の目的と今年度の検討範囲】 ・誰の目線に立ったブランディングで何を目的にやっていくのかということを本年度で検討を行い、具体的にどこまでやるかという議論は今後の検討にしておくということでも良いと思う(嵩元委員) ・確保しやすい予算の検討もお願いしたい(嵩元委員) ・今年度できることと、中長期的に検討していく議論は当然必要だと思うが、今回の協議会だけで決められる話ではない。継続することも重要だと思う(波多野会長)	【本事業の目的】 ⇒本事業は、浦添市の持続可能な観光地形成(地域・日本レガシー形成)を目標に、今年度の業務においては、浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想案の検討及び実現可能性調査を実施する。レガシー形成には地域の歴史文化、自然等活用し、地域と連携した中長期的な事業実施が必要であり、地域の誇りの醸成とともに旅行需要を喚起していくという意味では、ブランディングにおいては、市民目線・観光客目線どちらも重要だと考えている。 【今年度の検討範囲】 ⇒本事業はあくまでも観光庁からの単年度ごとの予算措置事業となっているため、実現に向けた予算は担保されていない。しかし、今年度の検討結果から今後の課題解決に向けた新たな取り組み(調査事業)が見出せれば、令和5年度への継続検討にむけた予算措置の可能性も否定できない。
【古都の取り扱い】 ・「古都」の標記については今後も使用することを前提に検討を進めていくのか確認したい(慶田委員) ・古都の名称使用については、文化財あるいは文化遺産学、歴史学、他の分野など多面的な考え方があると思うが、個人的には現段階では将来性も含めて古都の名称を残した方がいい(波多野会長) ・歴史的には、王がいた場所という点で「古都」を使用することは問題ない。本検討協議会は「古都」の定義を議論する学術的な場ではなく、キャッチフレーズ的に「古都」を使用するならば問題ない。(上里副会長) ・察度王が中国との交易の歴史を開いた功績を観光客だけでなく子供たちにも広める意味でも、「古都浦添」を使用することで首里城から浦添市まで観光の視野を広げてもらえると思う(嵩元委員)	⇒本検討協議会の意見を統括させて頂き事務局としては、首里城以前の王城であり、琉球王国の交易の歴史を開いた功績を次世代に広げる観点から、キャッチフレーズの的な意味合いで「古都浦添」を、今後も使用していくこととしたい。

委員からの主な意見	対応
【ブランディング構想案のテーマ・コンセプト】 ・ブランディングで重要なことは、この場所に訪れたいというイメージを相手に持たせることだ。浦添の魅力を新たに作るという点でハード整備も重要だが時間がかかる。映像や VR、アニメなどのソフトコンテンツを充実させ、浦添のイメージを伝えていくことが直近の方向性だ。首里城は近世琉球、浦添は古琉球という時代でブランディングしてはどうか(上里副会長) ・本構想案の検討において、歴史的に見た場合、戦跡としてのハクソー・リッジにスポットを当てるのか、戦跡としてではなく浦添王朝時代の浦添グスクにスポットを当てるのか？(嵩元委員)	⇒浦添グスクが首里城以前の王城であった古琉球の時代は、「古都浦添」のブランディングの重要なテーマと考えるが、浦添ようどれや歴史の道(尚寧王の道等)など、古琉球から近世琉球にかけて修復され今に引き継がれた遺跡であることから、浦添のレガシー形成においては古琉球・近世琉球の両時代を念頭にいれておくことも必要と考えている。「古都浦添」の古琉球の世界観については、ご指摘のとおり、映像等ソフトコンテンツを充実させ、浦添のイメージを体験的に伝えていくことが重要となってくる。 ⇒加えて古琉球時代から今日までの、浦添グスクの歩んだ歴史をとらえた場合、戦争遺跡としての側面性もブランディングの要素になる。
【宜野湾市との連携・協議】 ・歴史的にみた場合や世界観を伴うブランディングの観点からすると宜野湾市との連携も必要になってくるかもしれない。事務局として本事業で宜野湾市との連携をどのように考えているのか(嵩元委員、新垣委員、県観光振興課、波多野会長) ・ガイドの際も宜野湾も昔は浦添だったことは説明しているが、本構想案では浦添グスクを核にして(まずは浦添地域を) どうブランディングするかであり、現段階で宜野湾市まで周遊ルートを広げる必要はないと個人的には思っている(玉那覇委員) ・首里城との連携も重要だが、三山時代のグスクと連携してブランディングすることも重要。ハクソーリッジは時代が違うのでそれは平和学習に関連すると思う。テーマであったり時代による結びつきでブランディングする必要があると思う(千住委員)	⇒今年度の事業においては、検討協議会で浦添グスクを中心とした「古都浦添」のブランディング構想のニーズ調査、実現可能性調査を基にコンセプトプラン作成に取り組むことになっている。周辺市町村との具体的な連携協議や周遊プログラム等の作成は今後の課題である。 ⇒歴史的に宜野湾も浦添と一体だったことや、三山時代のグスクとの関係についても、歴史ガイドを活用したストーリーや、ソフトコンテンツ(映像や VR 等)による演出等で古都浦添の勢力範囲や世界観を伝えることは可能だと考えている。 →羽衣伝説のある「森の川」は資源情報図に反映するが、具体的な周遊プログラムの作成についても今年度の検討範囲でなく今後の課題である。

委員からの主な意見	対応
【浦添グスクと首里城との連携、誘導の重要性】 ・浦添から首里城へ誘導していく考え方ではなく、観光客が多い首里城から次の観光地として浦添へ誘導していくことが現実的ではないか(嵩元委員) ・古都浦添ブランディングは浦添からの情報発信にチャレンジする良い機会であり、浦添グスクで琉球の歴史を学んでもらい首里城へ移動するという観光の新たな流れを作ることが本構想案の面白い観点である(安里委員)	⇒浦添市の持続可能な観光地形成(レガシー形成)を目的に、浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディングを検討しているところであり、首里城以前の王城・浦添グスクで歴史学習体験後、首里城を巡るといった、浦添グスクを中心とした将来的な「古都浦添」観光誘導の新たな流れを検討している。
【観光交流拠点による情報発信の重要性】 ・歴史観光というものを浦添市に訪れた方々に知ってもらうためにも、情報発信という意味では、浦添ようどれ館と市観光振興課で現在進めている観光交流拠点の役割が重要になってくる(安里委員) ・観光交流拠点については、令和6年度末には浦添前田駅近くにオープンする予定であり、今年1月末に優先交渉事業者が決定する予定である。その事業者と観光発信拠点としてどのような役割を持たせることができるかというのは市として考えていきたい(小林委員)	⇒持続的な観光地経営の実現のために、観光情報を発信する拠点の確立はとても重要になる。事務局としても浦添ようどれ館と市観光振興課で進めている観光交流拠点は、情報発信という意味で重要と考えているため、古都浦添ブランディング構想案(概略図)や資源情報図にも記載している。
【指定・未指定文化財の保存・活用】 ・指定、未指定に関わらず保存・活用していくことは重要だと思う。未指定文化財を今後、本ブランディング構想にどのように落とし込んでいくかは今後の課題だと思う(慶田委員) 【学校教育との連携】 ・子供たちを浦添市の将来に携わっていかせるか、市の魅力を知ってもらうか、レガシー構想をどう教育に繋げていくかも一つの課題。(嵩元委員、玉那覇委員、新垣委員、波多野会長) 【産業への配慮】 ・歴史(文化)と産業活性化の関係性が観光振興にとって重要だと思う。りっか浦添では、浦添の資源を知ってもらいたいというコンセプトで飲食店などを巡るイベントを行っている。事業者からは、浦添ようどれで飲食イベントができればいいという話も出ている。本事業に産業という視点もかけ合わせながらブランディング構想案を検討できればと思っている(新垣委員)	【指定・未指定文化財の保存・活用】 ⇒どのように反映していくかは実現可能性調査(浦添グスク周辺集落の散策への関心等)の結果も踏まえた上で今後の活用・運用上の課題と考えている。 【学校教育との連携】 ⇒ご指摘とおり、留意点に学校教育との連携を追加する。首里城以前の王城としての「古都浦添」の魅力や歴史、景観、まちづくりの観点から子供たちに体験学習をしてもらうことも大切だと考えている。→学校の総合学習を活用した歴史観光ガイドの仕事体験(子供たちによる歴史観光コースの作成)、市内洋菓子店と連携したパティシエ体験など浦添市教育委員会の取り組みや、文化財課による出前講座、ようどれ館施設の学習活用、風景学習などこれまでもいくつかの事例がある。 【産業への配慮】 ⇒ご指摘とおり留意点に産業の視点を追加する。また、現在実施している実現可能性調査結果において、産業の視点に立った意見があれば本構想案に反映可能か検討していく。

委員からの主な意見	対応
【外国人観光客への実現可能性調査】 ・県外・県内だけでなく、海外にも目を向けた実現可能性調査とした方がよい(嵩元委員) ・浦添市観光振興計画策定時(H30.3)に実施した観光ニーズ調査資料を参考に事業者へソフト面で実施できそうな意見を伺ってみてはどうか(新垣委員)	⇒本事業の観光ニーズ調査(来訪者アンケート調査)において、浦添グスク周辺に来訪した外国人への意見聴取を実施中である。外国人観光客に向けた本格的な実現可能性調査の実施は今後の課題とさせて頂きたい。
【ハード整備の検討】 ・ロープウェイや展望台などの整備など観光客が来たいと思うような整備も実現できれば良い(富川委員)	⇒「古都浦添」のブランディングイメージを損なうようなハード整備は困難である。 浦添グスク周辺一帯は、先史時代から古琉球にいたるまでの貴重な遺跡が数多く分布する地域であり、『本市景観まちづくり計画(R4、3月)』では、浦添グスクの世界遺産追加登録を目指してグスク周辺のバッファゾーン(歴史文化ゾーン)として、建築物、工作物設置等により、浦添グスクの高さを超えないよう、標高140m以下の高さ制限をかけていることから、ロープウェイ等の整備は困難である。 →実現可能性調査において、観光客が「古都浦添」に求めていることは、浦添グスク周辺の桜並木のライトアップや浦添ようどれ館の環境整備など周辺環境、景観資源のブラッシュアップ、SNSによる歴史学習や観光情報発信の充実、浦添グスクへアクセスしやすい案内板の設置など周遊目的地までの移動支援コンテンツに関する意見が挙がっている
【事業者ヒアリング対象者の追加】 ・将来的に浦添市のお土産を作るという観点では、事業者ヒアリングの対象にオハコルテだけでなく、白バラやマキシムなども対象にした方がいい(富川委員)	⇒事業者ヒアリングの対象に白バラとマキシムも追加する。

2) 第2回検討協議会

実現可能性調査結果や浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想案及び実現に向けた事業計画（案）について検討・意見交換を行った。

委員からの主な意見	対応
【属性毎の有意差の有無】 ・県内外居住者における性別や年齢によるニーズの違いなど、属性毎で有意差が生じるのか確認が必要(波多野会長)	⇒属性毎のニーズ等の違いについては、クロス集計を行い、第3回検討協議会において整理し提示していく。
【琉球の始まり(origin)に対する意見】 ・浦添グスクの独自性では、「琉球の始まり(origin)」ということアピールした方が良い(新垣委員) ・歴史的に言うと浦添は琉球の始まりと言うことはできる。首里は沖縄の一地方ではあるが沖縄を代表する知名度がすでにある。浦添も首里と同じく一地方ではなく、沖縄と言えば浦添というぐらいの知名度を持てるポテンシャルはあると思う(上里副会長) ・「琉球の始まり」という言葉は「古都浦添」とは意味が少し違う気がするが、特別な魅力があると思うので活用検討の余地はあると思う(波多野会長) ・琉球の始まりというキーワードも古都浦添をイメージする重要なキーワードだと思う。独自性に追加する上で古都浦添をイメージさせるためのキーワード選びは工夫する必要がある(安里委員) ・浦添グスクの独自性に三大王統(舜天・英祖・察度)も追加した方が良いのではないか(千住委員) 【キーワードの絞り込みに対する意見】 ・魅力が分散しないように独自性をアピールするキラーコンテンツを絞り込むことが重要(嵩元委員) ・「聖域」と「祈り」は同じニュアンスは一つにまとめて、琉球の始まりなどのワードを追加してもいい(上里副会長) →平和を祈る聖域という視点で浦添グスクを捉えているので「聖域」と「祈り」を一つに集約することは現時点では止めてもらいたい(嵩元委員) →浦添グスクは、古琉球から近世琉球にかけて三度の戦争を体験してきた意味でも「平和」、「祈り」、「聖域」というキーワードは古都浦添のイメージに合っており、首里城とも差別化できると考えている。一方で検討時間が限られている中で、独自性のキーワードを集約することについては慎重な議論が必要(安里委員) 【首里城以前の琉球王都】 ・浦添グスクの独自性の文言で「首里城以前の琉球王国の王都」と記載されているが「首里城以前の琉球の王都」に修正した方が良い(上里副会長)	【琉球の始まり(origin)およびキーワードの絞り込みに対する意見】 ⇒ご意見を踏まえ、「古都浦添」また「浦添グスクの独自性」に、「琉球の始まり(origin)」を追加する。なお、浦添グスクの独自性の絞り込みについては、ブランディング手法なども含め、さらに慎重な議論が必要とされることから、今後の検討課題としたい。 【首里城以前の琉球王都】 ⇒ご指摘のとおり、「首里城以前の琉球の王都」に修正する。

委員からの主な意見	対応
【浦添グスクの強みに関する提案】 ・構想案の検討には、強みだけでなく、弱みも明記して解決に向けた検討をしていくことも必要(波多野会長)	⇒ご指摘のとおり、アンケート結果も踏まえ、強みだけでなく弱みも明記していく。
【今後の事業計画(案)への教育の視点の追加提案】 ・教育の視点を今後の事業計画(案)に盛り込んでいくべき。グスク周辺に工業高校や専門学校など教育施設が所在し、イベントとの連携もできると思うので、教育の観点を取り入れていくのであれば実施主体に教育委員会も含めた方がいい(千住委員)	⇒ご指摘のとおり、今後の事業計画(案)2. の実施主体に明記していく。
【古都浦添のイメージ形成の提案】 ・情報発信が不足している。古都浦添のイメージがないから認知度が低い、情報が入ってこないという結果に繋がっていると思う。最初にすべきことは、浦添の古琉球の世界観(城壁、恰好、生活様式)を再現・イメージし発信していくことが必要(上里副会長)	⇒今後の事業計画(案)に新たに「古都浦添のイメージ形成(共有)」を追加していく。
【観光交流拠点施設に求める機能の提案】 ・観光交流拠点施設には、歴史を学べる施設があると良い。施設の機能としては、企画展示室やワークショップ、講座室、古都浦添のイメージを持ってもらうために模型の展示や VR 等映像コンテンツの体験スペースなどがあれば良い(玉那覇委員) →今後、観光交流拠点施設に観光案内を行うスペースは設ける予定である。市観光振興課としてもできる範囲で情報を発信していきたいと考えている(小林委員) ・PR については、浦添市観光協会と連携して TikTok などのツールを使用して広く情報発信していきたいと考えている(小林委員)	⇒ご指摘のとおり、観光交流拠点施設の重要性は認識しているので、求める機能については、市観光振興課に期待したい。
【古都浦添のイベント・企画の提案】 ・2. 古都浦添のイベント・企画に「グスク祭り」と「ダイニングアウト」を追加してほしい(富川委員) ・イベントやお土産品の開発には、商工会議所としても協力していきたいと考えている。浦添型(うらしいがた)染物が16世紀以前に位が高い貴婦人に着られていたという文献も残っている。こうした歴史ある織物もお土産品になると考えている(新垣委員)	⇒古都浦添にちなんだ古式祭りやダイニングアウト、お土産品の開発については、今後の事業計画(案)2. のコンテンツに含めている。

委員からの主な意見	対応
【古都浦添の周遊・散策プログラムの提案】 ・浦添には周遊散策するためのポテンシャルはあると思うので、ホテルを起点とした周遊散策していくための協力体制を構築していきたい(新垣委員) ・浦添市内での観光消費額が少ないことが見て取れたので、高付加価値の観光プランの検討が必要。例えば、浦添グスクで超豪華グランピング体験など。高付加価値の観光プランについては、今後の事業計画(案)に一言追加して頂きたい。また、今後の古都浦添のPRの1つの手として、商工会議所の方で、富裕層向けのモニターツアーの実施事業を検討していくのも良いと思う(上里副会長)	⇒今後の事業計画(案)3. の実施主体に「ホテル」「交通事業者」を追加していく。 ⇒今後の事業計画(案)3. に「富裕層向けの高付加価値観光プランの開発」を追加していく。
【古都浦添の環境整備及び景観保全・維持管理に関する意見と提案】 ・今後の事業計画(案)の4. で「グスク周辺の集落環境・景観形成」の実施時期を短期ではなく「中長期」に修正願いたい。また、集落環境の観点からするとオーバーツーリズムの懸念もあるので観光と生活を両立できるような方策の検討も今後必要になってくると思う(徳永委員)	⇒ご指摘のとおり修正する

3) 第3回検討協議会

属性別にクロス集計を行った実現可能性調査結果や浦添グスクを中心とした「古都浦添」ブランディング構想案及び実現に向けた事業計画（案）について検討・意見交換を行った。

委員からの主な意見	対応
【古式祭の実現可能性に関する提案】 ・古琉球のイメージを伝えやすいのは古式祭だと思う。アンケート結果からもニーズが有り、当時の衣装や食事についても文献が残っているので実現可能性は十分にある(上里副会長) ・古式祭を開催するなら、当時の文化を忠実に再現するなど他の祭りと差別化できるようにした方が良い(波多野会長)	⇒古都浦添をPRする上で、祭りの内容は重要になると認識しているので、ご指摘の件については、古式祭開催の際の課題としたい。
【浦添グスクの独自性に対する文言修正】 ・独自性の3ポツ目の「戦争(侵攻)」の「侵攻」は島津のことだと思うが、米軍の侵攻とも勘違いするかもしれないので、文言の記載方法には注意した方が良い(上里副会長)	⇒ご指摘のとおり、誤解を与えないような文言に修正していく。
【浦添の歴史】 ・浦添の歴史も古くはないので、首里以前というだけでは弱い。750年前のガンジー・空海の時からの歴史の流れも含めるなど、歴史を絞る話と広げる話を使い分けした方がよいと思う(嵩元委員)	⇒歴史学的な見地が必要になってくるため、文章中の「沖縄の栄華」という文言に含めている。
【実施主体の提案】 ・実施主体について、景観や散策路の整備は市となっているが、公園事業については市と県なのではないか(富川委員)	⇒沖縄県については、浦添市が実施主体として機能した後の連携だと考えているため、現時点では実施主体に記載していない。
【今後の事業計画(案)の提案】 ・戦跡や平和学習という文言もしっかりと事業計画に明記したほうがよいと思う(新垣委員) ・戦跡や平和学習という文言は、事業計画の1.の「・学校・行政による地域学習の実施」と3.の「・浦添グスク周辺の歴史文化観光資源の活用」に平和学習などの文言を明記していった方がよいと思う(安里委員)	⇒ご指摘のとおり、「戦跡」や「平和学習」の文言を事業計画に追加する。
【今後の進め方への提言】 ・今後、古都浦添のブランディングを進めるにはマスタープラン策定が必要不可欠である(波多野会長) ・今後も古都浦添を進めるにあたって、次年度も検討を続ける必要があると思う。次年度申請の余地はあるのか(嵩元・千住委員)	⇒マスタープラン策定については、今後の課題としていきたい。 ⇒事務局以外の方が申請することは可能である。